

科目名	児童学研究法		
担当教員名	長田 瑞恵、野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

検査法、質問紙法、観察法など、子どもをより深く理解するために児童学で用いられる様々な研究法について、よく用いられる方法を中心に概説する。

それぞれの研究法について、研究の具体例を交えながら、その背景にある理論、実際の実施方法、実施に際しての注意点などについて理解し、可能な限り学生自身体験を通して理解を深める。あわせて統計の基礎についても学ぶ。

内容

まず、児童学の研究法の種類とその特徴、長所や短所などを理解した上で、どのような場合にどのような研究法が用いられるのかを理解する。その後、研究例や実際の体験を通して、それぞれの研究法についての理解を深める。

1. 児童学の研究法の種類とその必要性
2. 児童学の研究法の種類とその必要性
3. 質問紙法 : 標準化された質問紙
4. 質問紙法 : 質問紙の作成方法
5. 質問紙法 : 統計基礎
6. 検査法
7. 検査法
8. 観察法
9. 観察法
10. 面接法
11. 事例研究法
12. 実践研究
13. 記録法
14. まとめ
15. 試験

評価

授業内のレポート60点、学期末の筆記試験40点として評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】松原達哉 『心理テスト法入門第4版<基礎知識と技術習得のために>』 日本文化科学社

【推薦書】保坂亨・中沢潤 『心理学マニュアル面接法』 北大路書房

鎌原雅彦 『心理学マニュアル質問紙法』 北大路書房

中沢潤 『心理学マニュアル観察法』 北大路書房

大野木裕明・中沢潤 『心理学マニュアル研究法レッスン』 北大路書房

秋田喜代美・藤江康彦(編) 『はじめての質的研究法 教育・学習編』 東京図書

科目名	表現演習		
担当教員名	金勝 裕子、清水 玲子、平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

“表現”は「人間学」を学ぶ上で欠かせない重要な視座である。それは乳児が幼児へ、そして児童へと「人として育つ」ための意味や意義を理解し、その育ちを保証する領域としての“表現”の視座は重要である。そうした子どもたちの未来に関わる重大さを意識した時、人的な環境となる「保育・教育者、親」の感性や行動が大きな影響力になっていることに着目しなくてはならない。

そうした乳幼児期～児童期に望ましい存在としての「保育・教育者」を目指す時、“表現すること・受けること”を身をもって体験する演習を通し感じ考えることがねらいである。そのことは、直接乳幼児～児童と関わるための手段としてばかりでなく、「親」への適切な助言や支援ができる保育・教育者でもあり、親自身となる基盤づくりともなる。また、表現に関わる科目群のそれぞれの基礎科目に先駆けておこなうこの授業の意義は、すでに各々が獲得している表現行動の概念的な感性の問い直しを図ることにもねらいをおいている。言いかえれば表現行動の原体験を通して自己を磨き、さまざまな領域、科目へ進むための基盤を整備充実させることである。

内容

諸感覚を通して感じ考え行動する。そうした一連の行為を表現行動だとすると、感じる前に概念的に判断し行動してしまいやすい...という大人のもつ感性を再認識し自己変革することが目的である。そのためには視・聴・触感覚を中心とした感覚をはたらかせ、動・音・形・色といった表現媒体を駆使できるための基盤づくりであるので、表現媒体の異なった音楽・身体表現・造形のそれぞれをオムニバス風に体験することを主としながら、時には音と動き、動きと形・色、音と形・色といった相互性のある体験も視野に入れて計画している。

「音楽的視座 1」「音楽的視座 2」「造形的視座」の3つの視座で、各5回の授業を計画している。

評価

身をもって体験する演習であるので、授業中の態度や試行錯誤の様子(40%)が重要となる。また感じたこと、考えたり発見したことなどをまとめたノートや時折のレポート(60%)により評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に定めないが、授業中必要に応じ紹介する。

科目名	表現演習		
担当教員名	金勝 裕子、清水 玲子、平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

“表現”は「人間学」を学ぶ上で欠かせない重要な視座である。それは乳児が幼児へ、そして児童へと「人として育つ」ための意味や意義を理解し、その育ちを保障する領域としての“表現”の視座は重要である。そうした子どもたちの未来に関わる重大さを意識した時、人的な環境となる「保育・教育者、親」の感性や行動が大きな影響力になっていることに着目しなくてはならない。

そうした乳幼児期～児童期に望ましい存在としての「保育・教育者」を目指す時、“表現すること・受けること”を身をもって体験する演習を通し感じ考えることがねらいである。そのことは、直接乳幼児～児童と関わるための手段としてばかりでなく、「親」への適切な助言や支援ができる保育・教育者でもあり、親自身となる基盤づくりともなる。また、表現に関わる科目群のそれぞれの基礎科目に先駆けておこなうこの授業の意義は、すでに各々が獲得している表現行動の概念的な感性の問い直しを図ることにねらいをおいている。言いかえれば表現行動の原体験を通して自己を磨き、さまざまな領域、科目へ進むための基盤を整備充実させることである。

内容

諸感覚を通して感じ考え行動する。そうした一連の行為を表現行動だとすると、感じる前に概念的に判断し行動してしまいやすい...という大人のもつ感性を再認識し自己変革することが目的である。そのためには視・聴・触感覚を中心とした感覚をはたらかせ、動・音・形・色といった表現媒体を駆使できるための基盤づくりであるので、表現媒体の異なった音楽・身体表現・造形のそれぞれをオムニバス風に体験することを主としながら、時には音と動き、動きと形・色、音と形・色といった相互性のある体験も視野に入れて計画している。

「音楽的視座 1」「音楽的視座 2」「造形的視座」の3つの視座で、各5回の授業を計画している。

評価

身をもって体験する演習であるので、授業中の態度や試行錯誤の様子(40%)が重要となる。また感じたこと、考えたり発見したことなどをまとめたノートや時折のレポート(60%)により評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に定めないが、授業中必要に応じ紹介する。

科目名	教育方法		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

教育現場に視聴覚メディアが導入され、視聴覚メディアを使った教育も盛んに行なわれている。教育現場への視聴覚メディアの導入には賛否両論ある。担当者は、大学以前の教育への導入は否定的である。ここでは、学習者が視聴覚メディアを(で)学習するさい、困った問題にぶつからないように、できるだけわかりやすい、マニュアルなどを作成することを試みる。その作成過程を通して、教育現場における視聴覚メディアの持つ意味、特に、わかりやすさとは何か、について考察する。

内容

1. オリエンテーション
2. 視聴覚メディアと教育方法の概説(1) 「視聴覚メディアと教育方法」の歴史、現状、課題について論じる。
3. 視聴覚メディアと教育方法の概説(2) 教職採用試験で実際に出題された、教育方法の分野に関連する重要単語について、解説する。最初に、重要単語を学ぶことによって、当該分野のイメージを明確にしてもらう。
4. 心理学的考察 わかりやすい表現を考えるさいの、色の使い方について、視覚心理学的な観点から考察する。聴覚心理学的影響についても考察する。
5. 言語学的考察 わかりやすい表現を考えるさいの、色の使い方について、言語学的な観点から考察する。
6. 福祉論的な考察 ユニバーサルカラーからの、色の使い方について、考察する。
7. 数学的な考察 数学的な観点から色の塗り分けを考察する。2次元と3次元の場合の違いも考察する。
8. 情報科学的な考察 情報科学的な観点から、色の作り方について、考察する。
9. 立体物における色の考察 折り紙を使って立体的な構造物を作成するさいの、色の使い方について、考察をする。
10. 立体物を作成するさいの表現 折り紙を使って立体的な構造物を作成するさいの、わかりやすい表現について、考察をする。
- 11, 12. 紙芝居の作成 紙芝居を実際に作成しながら、わかりやすい、色の使い方、「せりふ」について考察する。
13. 立体的な絵本マニュアルの作成(1) マウスやキーボードを登場人物にしたキャラクターを作る。
- 14, 15. 立体的な絵本マニュアルの作成(2)(3) ストーリーを考案する。実際に、絵本マニュアルを作成する。

評価

毎回提出してもらうレポート、150点満点(15回X10点満点)で、90点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	教育方法		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、幼児教育現場において必要とされる教育方法理論の基礎知識の獲得を目的としている。特に、子ども観、教育制度およびカリキュラムの変遷と教育方法理論との関係を的確に捉えることとで、より幅広い学習を目指す。

内容

- 1 教育の目的と方法
- 2 教育課程の類型：教科主義と開発主義
- 3 カリキュラムの構成要素
- 4 教育方法の歴史的変遷（1）教科主義的カリキュラムと教育方法
- 5 教育方法の歴史的変遷（2）経験主義的カリキュラムと教育方法
- 6 教育方法の歴史的変遷（3）近代の教育カリキュラムと教育方法
- 7 わが国における教育方法の歴史的変遷
- 8 いろいろな教授法（1）学習集団と教授法
- 9 いろいろな教授法（2）教材開発と教具の利用
- 10 いろいろな教授法（2）新しい教授法
- 10 学習指導の技術
- 11・12 学習指導要領の変遷（1）歴史的変遷
- 13 学習指導要領の変遷（2）現行指導要領の特徴
- 14 世界のカリキュラム改革
- 15 最終試験

プレゼンテーションにあわせた資料プリントを毎回配布する。プレゼンテーションファイルはホームページで随時公開している。

毎時間課題プリントを実施する。

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 出席状況（30%）
- 2 最終試験の達成度（70%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に定めない

科目名	音楽技術A		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	A2クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法 ・ 」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法 ・ 」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術A は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で欠かすことのできない『マーチ』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「声楽」

個人レッスン、重唱、コーラス、ミュージカルといったさまざまな形態を通して、歌唱力及び表現を身につける。発声法や歌唱法を少人数で、より本格的な指導が受けられる。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	歌唱法		
担当教員名	曾我 淑人、神谷 明美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

急速な変化を遂げる現代社会にあって、より人間らしく心豊かに生活していくために音楽は重要な役割を果たしている。その中でも歌唱はことばを伴っているため他の楽器とは異なり感情や情景など、より具体的な表現が可能である。しかしそのためにクリアしなければならない課題も多い。

この科目では様々な角度から歌唱における基本的な知識や技術を習得し、音楽の歓びを享受するとともに作品の理解を深め、いかに自己の描くイメージや思いをよりの確に表現するかを学んでいく。

またグループ活動に於いては各人が問題意識を持ち積極的且つ主体的に関り、相互信頼と協力を通して、幅広い音楽的能力の向上を図っていく。

内容

1. 音楽の基礎知識の学習 : 楽典及び声楽・器楽について。
2. 基本的発声法及び呼吸法 : 発声諸器官の構造及び機能の学習と実践。
3. 基礎的音感の習得 : コーリュウブンゲンや「わらべうた」を教材に、リズムや音程の正確な音感を養うと共に、初見視唱などの読譜力を身に付ける。
4. 歌唱法:教科書「みんなのうた」を使用し、レパートリーを広げながら楽しく伸びやかに歌うことを目的とする。そのために音楽と歌詞との関係や、作品の生まれた背景などを学習し、内容に即した唱法を学んでいく。
5. 鑑賞: 幼児音楽に限らず他のジャンルの音楽を鑑賞し、さまざまな角度から音楽を捉え、話し合いと実践を通して深い理解力と音楽性を身に付けていく。
6. 発表: 人形劇やオペレッタなどグループ発表によって歌唱へ積極的に関り、一つの作品を作り上げると共に、音楽面だけでなく責任感や信頼感、協調性、創造性など人間形成を図っていく。

評価

実技試験(60%) 鑑賞レポート(30%) 授業態度(10%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】小林美実 『幼児のうた楽譜集』、『コーリュウブンゲン』、『コンコーネ』ほか

【推薦書】真篠将編著 『音楽通論』 全音楽譜出版社 761/M

科目名	歌唱法		
担当教員名	曾我 淑人、神谷 明美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

急速な変化を遂げる現代社会にあって、より人間らしく心豊かに生活していくために音楽は重要な役割を果たしている。その中でも歌唱はことばを伴っているため他の楽器とは異なり感情や情景など、より具体的な表現が可能である。しかしそのためにクリアしなければならない課題も多い。

この科目では様々な角度から歌唱における基本的な知識や技術を習得し、音楽の歓びを享受するとともに作品の理解を深め、いかに自己の描くイメージや思いをよりの確に表現するかを学んでいく。

またグループ活動に於いては各人が問題意識を持ち積極的且つ主体的に関り、相互信頼と協力を通して、幅広い音楽的能力の向上を図っていく。

内容

1. 音楽の基礎知識の学習 : 楽典及び声楽・器楽について。
2. 基本的発声法及び呼吸法 : 発声諸器官の構造及び機能の学習と実践。
3. 基礎的音感の習得 : コーリュウブンゲンや「わらべうた」を教材に、リズムや音程の正確な音感を養うと共に、初見視唱などの読譜力を身に付ける。
4. 歌唱法:教科書「みんなのうた」を使用し、レパートリーを広げながら楽しく伸びやかに歌うことを目的とする。そのために音楽と歌詞との関係や、作品の生まれた背景などを学習し、内容に即した唱法を学んでいく。
5. 鑑賞: 幼児音楽に限らず他のジャンルの音楽を鑑賞し、さまざまな角度から音楽を捉え、話し合いと実践を通して深い理解力と音楽性を身に付けていく。
6. 発表: 人形劇やオペレッタなどグループ発表によって歌唱へ積極的に関り、一つの作品を作り上げると共に、音楽面だけでなく責任感や信頼感、協調性、創造性など人間形成を図っていく。

評価

実技試験(60%) 鑑賞レポート(30%) 授業態度(10%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】小林美実 『幼児のうた楽譜集』、『コーリュウブンゲン』、『コンコーネ』ほか

【推薦書】真篠将編著 『音楽通論』 全音楽譜出版社 761/M

科目名	歌唱法		
担当教員名	曾我 淑人、神谷 明美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

急速な変化を遂げる現代社会にあって、より人間らしく心豊かに生活していくために音楽は重要な役割を果たしている。その中でも歌唱はことばを伴っているため他の楽器とは異なり感情や情景など、より具体的な表現が可能である。しかしそのためにクリアしなければならない課題も多い。

この科目では様々な角度から歌唱における基本的な知識や技術を習得し、音楽の歓びを享受するとともに作品の理解を深め、いかに自己の描くイメージや思いをよりの確に表現するかを学んでいく。

またグループ活動に於いては各人が問題意識を持ち積極的且つ主体的に関り、相互信頼と協力を通して、幅広い音楽的能力の向上を図っていく。

内容

1. 音楽の基礎知識の学習 : 楽典及び声楽・器楽について。
2. 基本的発声法及び呼吸法 : 発声諸器官の構造及び機能の学習と実践。
3. 基礎的音感の習得 : コーリュ・ブンゲンや「わらべうた」を教材に、リズムや音程の正確な音感を養うと共に、初見視唱などの読譜力を身に付ける。
4. 歌唱法:教科書「みんなのうた」を使用し、レパートリーを広げながら楽しく伸びやかに歌うことを目的とする。そのために音楽と歌詞との関係や、作品の生まれた背景などを学習し、内容に即した唱法を学んでいく。
5. 鑑賞: 幼児音楽に限らず他のジャンルの音楽を鑑賞し、さまざまな角度から音楽を捉え、話し合いと実践を通して深い理解力と音楽性を身に付けていく。
6. 発表: 人形劇やオペレッタなどグループ発表によって歌唱へ積極的に関り、一つの作品を作り上げると共に、音楽面だけでなく責任感や信頼感、協調性、創造性など人間形成を図っていく。

評価

実技試験(60%) 鑑賞レポート(30%) 授業態度(10%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】小林美実 『幼児のうた楽譜集』、『コーリュ・ブンゲン』、『コンコーネ』ほか

【推薦書】真篠将編著 『音楽通論』 全音楽譜出版社 761/M

科目名	身体表現基礎		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間の中に生まれる形のないもの(イメージ、感情、感動等)を、身体運動・動きにおきかえる活動を通して、感性豊かな学生の育成をはかるとともに、保育の中での幼児の身体活動をどのようにとらえ発展させていくかをあわせて考えていく。

内容

身体を解きほぐす

自身の身体への認識を深める

基本的な運動から身体表現へ

基本的な運動の理解

基本的な運動を発展させたあそび

運動を構成する要因への理解

運動を発展・展開させていく方法

子どもたちの身近なあそびから身体表現へ

各種ジャンケンゲーム、伝承あそび、集団あそび

手あそび、指あそびから全身を使った表現へ

リズムカルな運動、身体表現的なあそび

音楽にあわせてリズムカルに動く

いろいろな刺激に身体で反応する

のように動いてみる

ノートの作成に関して(以下の観点から授業内容の記録をする)

- ・授業内容
- ・<動詞>を集める
- ・<擬音語・擬態語>を集める
- ・自身の反応、仲間の反応(生理的、心理的、運動的側面から)
- ・五感がキャッチしたこと
- ・今後の課題、問題点、調べたこと
- ・子どもウォッチング
- ・全体的な感想

評価

出席状況、授業への取り組み方をベースに、実技試験の結果、レポート・記録ノート等の内容から総合的に判断する。出席点50%、実技試験40%、レポート10%で評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】レイチェル・カーソン 『センス・オブ・ワンダー』 新潮社 404/C

石亀泰雄 『さあ 森のようちえんへ』 ぱるす出版 376.1/I

レオ・バスカーリア 『葉っぱのフレディ』 童話屋 E/B

科目名	身体表現基礎		
担当教員名	坪倉 紀代子、仁井田 千寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間の中に生まれる形のないもの(イメージ、感情、感動等)を、身体運動・動きにおきかえる活動を通して、感性豊かな学生の育成をはかるとともに、保育の中での幼児の身体活動をどのようにとらえ発展させていくかをあわせて考えていく。

内容

身体を解きほぐす

自身の身体への認識を深める

基本的な運動から身体表現へ

基本的な運動の理解

基本的な運動を発展させたあそび

運動を構成する要因への理解

運動を発展・展開させていく方法

子どもたちの身近なあそびから身体表現へ

各種ジャンケンゲーム、伝承あそび、集団あそび

手あそび、指あそびから全身を使った表現へ

リズムカルな運動、身体表現的なあそび

音楽にあわせてリズムカルに動く

いろいろな刺激に身体で反応する

のように動いてみる

ノートの作成に関して(以下の観点から授業内容の記録をする)

- ・授業内容
- ・<動詞>を集める
- ・<擬音語・擬態語>を集める
- ・自身の反応、仲間の反応(生理的、心理的、運動的側面から)
- ・五感がキャッチしたこと
- ・今後の課題、問題点、調べたこと
- ・子どもウォッチング
- ・全体的な感想

評価

出席状況、授業への取り組み方をベースに、実技試験の結果、レポート・記録ノート等の内容から総合的に判断する。出席点50%、実技試験40%、レポート10%で評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】レイチェル・カーソン 『センス・オブ・ワンダー』 新潮社 404/C

石亀泰雄 『さあ 森のようちえんへ』 ぱるす出版 376.1/I

レオ・バスカーリア 『葉っぱのフレディ』 童話屋 E/B

科目名	保育内容総論		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育内容を捉える視点を養い、領域ごとに学ぶ保育内容を総合的に関連付けて学ぶことを目的とする。

また、現代社会とともに変化する子どもや親、幼稚園、保育所を取り巻く現状や課題について学ぶことで取り上げ、保育全体や保育方法をより深く捉え、実践に即して考える力を養う。

内容

以下の内容に沿って、授業をおこなう予定である。授業の中では、受講者がなるべく具体的なイメージを持って理解し学べるよう、視聴覚映像や資料等を用いていきたい。

1. 保育の基本

保育内容の概要

歴史的変遷

保育の特質

2. 保育における子どもの発達と生活

保育における一日の生活の流れ(乳児)

保育における一日の生活の流れ(幼児)

子どもの遊び

子どもの発達を捉える視点

3. 保育内容とその展開

保育計画と指導計画

記録の方法

4. 社会の変化と課題

子どもを取り巻く環境の変化

認定こども園

保育の質と評価

保育・教育の意味

評価

授業への参加姿勢及び課題の提出、学期末におこなう試験により評価をおこなう。

(評価の配分：試験50%、授業への参加姿勢及び課題の提出50%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】民秋言・狐塚和江 『保育ライブラリー 保育内容総論』 北大路書房

【参考書】森上史朗編 『最新保育資料集』 ミネルヴァ書房

科目名	保育内容総論		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育内容を捉える視点を養い、領域ごとに学ぶ保育内容を総合的に関連付けて学ぶことを目的とする。

また、現代社会とともに変化する子どもや親、幼稚園、保育所を取り巻く現状や課題について学ぶことで取り上げ、保育全体や保育方法をより深く捉え、実践に即して考える力を養う。

内容

以下の内容に沿って、授業をおこなう予定である。授業の中では、受講者がなるべく具体的なイメージを持って理解し学べるよう、視聴覚映像や資料等を用いていきたい。

1. 保育の基本

保育内容の概要

歴史的変遷

保育の特質

2. 保育における子どもの発達と生活

保育における一日の生活の流れ(乳児)

保育における一日の生活の流れ(幼児)

子どもの遊び

子どもの発達を捉える視点

3. 保育内容とその展開

保育計画と指導計画

記録の方法

4. 社会の変化と課題

子どもを取り巻く環境の変化

認定こども園

保育の質と評価

保育・教育の意味

評価

授業への参加姿勢及び課題の提出、学期末におこなう試験により評価をおこなう。

(評価の配分：試験50%、授業への参加姿勢及び課題の提出50%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】民秋言・狐塚和江 『保育ライブラリー 保育内容総論』 北大路書房

【参考書】森上史朗編 『最新保育資料集』 ミネルヴァ書房

科目名	保育内容の指導法（言葉）		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための科目であり、幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」に関して学ぶことが基本となるが、それに留まらず、乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に考えていきたい。絵本等の児童文化財についても、保育の観点から取り上げる。

ビデオ教材や保育実践記録を用いて、実際の保育事例を手がかりに、遊びを通して言葉への興味・関心を育て、言葉に対する感覚を養うということについて考えていく。後半には、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評することも行いたい。

受講することでコミュニケーションと文化について考察すると共に、文化の受け手としてだけでなく作り手としての自己を啓発することを望むものである。

内容

- 1 イン트로ダクション：子どもの言葉は何を私たちに伝えるのか？
子どもの詩と類人猿のコミュニケーション行動研究の知見を手がかりに
- 2 コミュニケーション能力の発達
- 3 実際の子どもの姿から考える
 - 3 - 1 子どものコミュニケーション様式
 - 3 - 2 遊びの中の言葉 / ごっこ遊びの中での会話
 - 3 - 3 保育者の言葉と援助
- 4 絵本・物語とイメージーション
 - 4 - 1 絵本との出会い
 - 4 - 2 ことば遊び / 劇遊び
 - 4 - 3 簡単なペープサート作成と劇遊び体験
- 5 文字・数・記号の獲得と保育
- 6 気になる言葉の遅れや問題
- 7 絵本作りと合評

評価

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書解説、（他に毎回プリント資料配布）

【推薦書】

【参考図書】授業開始時に指示する

科目名	保育内容の指導法（言葉）		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための科目であり、幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」に関して学ぶことが基本となるが、それに留まらず、乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に考えていきたい。絵本等の児童文化財についても、保育の観点から取り上げる。

ビデオ教材や保育実践記録を用いて、実際の保育事例を手がかりに、遊びを通して言葉への興味・関心を育て、言葉に対する感覚を養うということについて考えていく。後半には、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評することも行いたい。

受講することでコミュニケーションと文化について考察すると共に、文化の受け手としてだけでなく作り手としての自己を啓発することを望むものである。

内容

- 1 イン트로ダクション：子どもの言葉は何を私たちに伝えるのか？
子どもの詩と類人猿のコミュニケーション行動研究の知見を手がかりに
- 2 コミュニケーション能力の発達
- 3 実際の子どもの姿から考える
 - 3 - 1 子どものコミュニケーション様式
 - 3 - 2 遊びの中の言葉 / ごっこ遊びの中での会話
 - 3 - 3 保育者の言葉と援助
- 4 絵本・物語とイメージーション
 - 4 - 1 絵本との出会い
 - 4 - 2 ことば遊び / 劇遊び
 - 4 - 3 簡単なペープサート作成と劇遊び体験
- 5 文字・数・記号の獲得と保育
- 6 気になる言葉の遅れや問題
- 7 絵本作りと合評

評価

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書解説、（他に毎回プリント資料配布）

【推薦書】

【参考図書】授業開始時に指示する

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	平田 智久、照沼 晃子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領の第1章総則、第1幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と、示している。また、保育所保育指針では第1章 総則、3保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と、示している。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。

子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

内容

1. プロローグ・自然との出会い-1-
2. 自然との出会い-2-
3. 自然との出会い-3-
4. ものとの出会い-1-
5. ものとの出会い-2-
6. ものとの出会い-3-
7. ものとの出会い-4-
8. ものとの出会い-5-
9. ものとの出会い-6-
10. ひととの出会い-1-
11. ひととの出会い-2-
12. ひととの出会い-3-
13. 社会の事象と造形-1-
14. 社会の事象と造形-2-
15. エピローグ・社会の事象と造形-3-

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

演習にふさわしい服装と心構えで望むこと。

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

幼少年教育研究所編 『スペースデザイン』 チャイルド本社刊

科目名	社会福祉援助技術		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「個々の幸せ」の実現を目指す社会福祉においては、制度や福祉システムの構築と整備、施設や組織の充実が、人との出会いが不可欠である。同時にこれらの制度や資源を機能的に協働させるためには、マンパワーとして科学的な方法、援助も必要となる。この授業では、子どもが育つ場にかかわる医療・保健・福祉・教育等の機関の事例を基軸に、保育士として求められる知識と技術を習得することを目的とする。

内容

- (1) 社会福祉援助技術とは(1回)
- (2) 人との向き合い、社会との向き合い(3回)
 - ・ 保育者としての基本的な姿勢とは - 自己理解と倫理観を問う
 - ・ 保育実践と社会福祉援助技術との関係とは - 直接的援助技術と間接的援助技術
- (3) 個別援助技術(4回)
 - ・ 個別援助技術の意義
 - ・ 個別援助技術の原則と展開
 - ・ 個別援助技術における面接・記録・評価
 - ・ 保育における実践例に学ぶ
- (4) 集団援助技術(3回)
 - ・ 集団援助技術の意義
 - ・ 集団援助技術の方法と展開
 - ・ 保育における実践例に学ぶ
- (5) 地域援助技術(2回)
 - ・ 地域援助技術の意義と可能性
 - ・ 地域援助技術の実践例に学ぶ
- (6) 実践演習(2回)

評価

期末のレポート(60%)、授業内のレポート(20%)、授業への参加(20%)の姿勢などから総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【推薦書】今井章子監修・上野恭裕編著 『- 事例から学ぶ - 子どもを育む母親援助の実際』 保育出版社 376.1/U
- 【参考図書】成清美治・加納光子・久保美紀編著 『社会福祉援助技術』 学文社

科目名	社会福祉援助技術		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「個々の幸せ」の実現を目指す社会福祉においては、制度や福祉システムの構築と整備、施設や組織の充実が、人との出会いが不可欠である。同時にこれらの制度や資源を機能的に協働させるためには、マンパワーとして科学的な方法、援助も必要となる。この授業では、子どもが育つ場にかかわる医療・保健・福祉・教育等の機関の事例を基軸に、保育士として求められる知識と技術を習得することを目的とする。

内容

- (1) 社会福祉援助技術とは(1回)
- (2) 人との向き合い、社会との向き合い(3回)
 - ・ 保育者としての基本的な姿勢とは - 自己理解と倫理観を問う
 - ・ 保育実践と社会福祉援助技術との関係とは - 直接的援助技術と間接的援助技術
- (3) 個別援助技術(4回)
 - ・ 個別援助技術の意義
 - ・ 個別援助技術の原則と展開
 - ・ 個別援助技術における面接・記録・評価
 - ・ 保育における実践例に学ぶ
- (4) 集団援助技術(3回)
 - ・ 集団援助技術の意義
 - ・ 集団援助技術の方法と展開
 - ・ 保育における実践例に学ぶ
- (5) 地域援助技術(2回)
 - ・ 地域援助技術の意義と可能性
 - ・ 地域援助技術の実践例に学ぶ
- (6) 実践演習(2回)

評価

期末のレポート(60%)、授業内のレポート(20%)、授業への参加(20%)の姿勢などから総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【推薦書】今井章子監修・上野恭裕編著 『- 事例から学ぶ - 子どもを育む母親援助の実際』 保育出版社 376.1/U
- 【参考図書】成清美治・加納光子・久保美紀編著 『社会福祉援助技術』 学文社

科目名	社会福祉援助技術		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「個々の幸せ」の実現を目指す社会福祉においては、制度や福祉システムの構築と整備、施設や組織の充実が、人との出会いが不可欠である。同時にこれらの制度や資源を機能的に協働させるためには、マンパワーとして科学的な方法、援助も必要となる。この授業では、子どもが育つ場がかかわる医療・保健・福祉・教育等の機関の事例を基軸に、保育士として求められる知識と技術を習得することを目的とする。

内容

- (1) 社会福祉援助技術とは(1回)
- (2) 人との向き合い、社会との向き合い(3回)
 - ・ 保育者としての基本的な姿勢とは - 自己理解と倫理観を問う
 - ・ 保育実践と社会福祉援助技術との関係とは - 直接的援助技術と間接的援助技術
- (3) 個別援助技術(4回)
 - ・ 個別援助技術の意義
 - ・ 個別援助技術の原則と展開
 - ・ 個別援助技術における面接・記録・評価
 - ・ 保育における実践例に学ぶ
- (4) 集団援助技術(3回)
 - ・ 集団援助技術の意義
 - ・ 集団援助技術の方法と展開
 - ・ 保育における実践例に学ぶ
- (5) 地域援助技術(2回)
 - ・ 地域援助技術の意義と可能性
 - ・ 地域援助技術の実践例に学ぶ
- (6) 実践演習(2回)

評価

期末のレポート(60%)、授業内のレポート(20%)、授業への参加(20%)の姿勢などから総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【推薦書】今井章子監修・上野恭裕編著 『- 事例から学ぶ - 子どもを育む母親援助の実際』 保育出版社 376.1/U
- 【参考図書】成清美治・加納光子・久保美紀編著 『社会福祉援助技術』 学文社

科目名	総合演習		
担当教員名	赤井 美智子、金勝 裕子、上垣内 伸子、曾我 淑人 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は教職免許および保育士資格の取得上の必修科目となっている。演習形式で進められるこの科目では、「異」なるものとの交流と相互理解を基本テーマとして、学生10数人と各グループの指導を担当する教員からなる小グループごとに、設定したテーマについての調査研究活動を行う。

このような相互性のある体験的なグループ活動を媒介として、課題探求能力の基礎を身につける 対人関係能力を高める 大学生としてのライフスタイルの確立(自主性、自己責任の意識、生活における自己管理能力の向上)をねらいとしている。

内容

「異」なるものとして「異質性がめだってとらえられる人々との交流と相互理解」に関して、各グループが独自のテーマを設定し、それぞれの切り口から調査研究を進める活動を行う。

少子高齢化や国際化が進む今日の社会状況においては、異質性が目立つ人々といかに交流し、相互理解を深め共生関係を発展させるかが万人共通の課題となっている。

このような問題意識の基に、異質性、固有性が目立ってとらえられる人々との交流と相互理解の促進を目指した多様な実践の理念や意義、特色を調査したり、具体的な実践に参加してその効果や問題点、望ましい交流のあり方について考察したり、交流に関する指導計画を作成したりすること等を活動内容とする。

以上のような活動を通して、人種や国籍、文化、生育環境、生活の仕方や世代、年齢等の異なる人々との出会いと交流を、相互理解の契機にするばかりでなく、差異性と共に、共通性も認識できるような多面的な物の見方が実践できるようにする。

このような実体験の積み重ねが、教育(保育)者の専門性の一つである多様な対象とのコミュニケーション能力の育成につながることも目指している。

評価

演習形式のグループ活動や地域の保育関係施設への参加状況(60%)や、調査研究活動についてのレポート(40%)における評価を総合して評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に、定めない。授業中に、必要に応じて、紹介する。

科目名	幼児教育基礎実習		
担当教員名	上垣内 伸子、岩崎 禎子、野口 隆子、宮崎 豊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育の中で幼児と実際に関わり、一人一人の子ども心理、人間関係、状況に応じてその場で考え行動していくことを通して、子ども理解および保育者を目指す存在としての自己理解を深めていくことを目的とした、幼稚園における参加観察実習が「幼児教育基礎実習」である。

本学附属幼稚園を含む10 数園の幼稚園に分かれ、隔週で週1 回の実習を行う。また、愛育養護学校(東京都港区にある私立養護学校)小学部、幼稚部にて、1 日の全日実習を行う。実習の翌週は、実習レポートを基に、「幼児教育基礎演習」において話し合いをもち、次回の実習へとつなげていく。

内容

1. 隔週での幼稚園参加観察実習

子どもの主体的活動を中心とした保育を展開し、本学科教員と保育実践の共同研究等を行ってきている幼稚園10 数園に数人ずつに分かれて配属され、隔週で週1 回、登園前から降園後まで1 日の実習を行う。

実習翌日までにレポートを作成して提出し、翌週には各自のレポートを基に行う演習に参加する。

2. 幼稚園連続実習

後期の授業終了後に4 日間の連続実習を行う。これまで実習していたクラスで4 日間連続の実習を行い、子どもの遊びや友だち関係、内面を生活の連続性の中で理解していくことを目指す。

3 年次から始まる幼稚園教諭および保育士資格取得のための実習へのスムーズな移行を目指し、保育者としての視点獲得と行動を実習を通して試みる。

実習後にレポートを作成して提出し、総括の話し合いをもち。

3. 養護学校小学部・幼稚部参加実習

初めて出会った子ども共にその日1 日を形成することを通して、子どもを理解し、自らの保育行為について省察することに努める。

保育後には養護学校でのミーティングに参加する。

評価

- すべての実習への参加と、実習日誌の期限内に提出を、単位取得の必要条件とする。
- 実習参加状況、実習態度および意欲、レポート内容、話し合いへの参加状況等により総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】津守真 『保育者の地平』 ミネルヴァ書房 376.1/T

科目名	幼児教育基礎演習		
担当教員名	上垣内 伸子、岩崎 禎子、野口 隆子、宮崎 豊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼稚園での参加観察実習および愛育養護学校小学部・幼稚部での参加実習を行う「幼児教育基礎実習」の事前事後指導という位置づけで、実習の翌週に、20人規模での演習を行う。

“計画 実践 省察”という保育実践の連続性の中で、自分自身の関わりのあり方や子どもの内的世界に対する理解を深め、それを自らの保育行為において具現化していくことの実感を体験し確認していくための授業である。

自分たちの保育記録を基に、少人数でじっくり話し合うことを通して、それぞれが保育における自己課題を見だし、互いに啓発しあい支え合いながら、保育者としての資質をのばしていくことを目指す。

内容

1. オリエンテーション / 事前指導

実習の目的・内容等についての学内での事前指導および、実習園での園長・主任・担任による実習のオリエンテーションを受ける。

2. 隔週での幼稚園参加観察実習後の話し合い / 愛育参加実習後の話し合い

実習の翌週は、各自の保育記録を基に、約20人のグループに分かれて、自分たちの保育実践の中からテーマをあげて話し合う。

確実な保育記録レポート提出と、活発な話し合いへの参加が望まれる。

3. 幼稚園連続実習の事前事後指導

隔週での幼稚園実習および愛育実習で学んだことを確認し、新たな自己課題を設定し、連続実習に向けての準備を行う。

実習後は、各自の保育記録を基に、4日間の中での自分の保育者としての成長を確認したり、新たに見いだした保育課題などについての話し合いを行い、実習を総括する。

評価

授業への参加状況、実習日誌や課題の提出および内容、話し合いへの参加状況を6:2:2の比率で評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

「幼児教育基礎実習」に準じる。さらに以下の推薦書を加える。

【推薦書】

津守 真 『保育の一日とその周辺』 フレーベル館 376.1/T

津守 真 『保育の体験と思索』 大日本図書 376.1/T

科目名	保育実習総論		
担当教員名	野口 隆子、上垣内 伸子、垂水 謙児、向井 美穂 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「保育実習」「保育実習」、「保育特別実習」「保育特別実習」「保育特別実習」、「幼稚園教育実習」履修者の実習事前事後指導を目的とする。保育士資格を取得する場合必修。幼稚園教員免許のみ取得希望者も必要に応じて受講する必要がある。

内容

各実習の目的や課題を明確にすると共に、実習前・中・後の具体的なプログラム、実習先に関するインフォメーション、実習の心構えと準備、実習日誌の書き方などを指導する。また、実習を終えた学生の報告会を随時おこない、話し合いを通して経験を共有する。

【前期の主なテーマ】

< 「保育実習」「保育実習」の事前指導 >

- ・ 本学における実習指導と実習のあり方（実習計画）
- ・ 各実習の目的と方法、心構え
- ・ 実習での学びの内容（実習日誌の意義と書き方含）

< 「保育実習」「保育実習」の事後指導 >

- ・ 実習の振り返り（グループディスカッション、個別指導）
- ・ 実習課題（自己課題、保育課題）の確認

【後期の主なテーマ】

< 3 年次「幼稚園教育実習」の事前指導 >

- ・ 3 年次「幼稚園教育実習」の目的と方法、心構え
- ・ 実習内容の確認（実習日誌の意義の書き方、教材研究含）

< 「保育特別実習」「保育特別実習」「保育・教育特別実習」の事前指導 >

- ・ 各実習の目的と方法
- ・ 実習履修の手続き

保育実習と教育実習に内容がまたがるので、保育士資格か幼稚園教諭免許状の片方だけの取得を希望する者も、4 年次の「幼稚園教育実習」とあわせて受講することが望ましい。

評価

授業への参加状況（50％）や課題提出（50％）などから総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】大場幸夫・大嶋恭二 『保育実習』 ミネルヴァ書房

科目名	保育実習		
担当教員名	野口 隆子、上垣内 伸子、横井 紘子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

原則3 年次に2 週間保育所で実習を行い、責任実習（部分）も先方の保育所との相談の上経験する（土曜日など半日を含む）。各自の保育園における最初の実習となる場合が多いので、まずは、全年齢のクラスに1～2 日間ずつ入れていただくようにして、年齢ごとの発達とそれに合わせたケアのあり方を学ぶ。担当保育者の指導を受けながら、生活の中の様々な養護を実践すると同時に、保育を支える周辺的な雑務を体験することも心掛ける。他の職員と連携・協働できるような基本的なコミュニケーション能力と技能を育むことも非常に大事である。実習中は毎日保育実習日誌を提出し、指導者の助言を受け、実習課題を明らかにし、学びを深化させていくことが必要となる。

また、子育て支援における新しい役割、保育士以外のスタッフの業務分担や協力関係にも学ぶようにしたい。さらに保育士の保護者とのかかわりを観察し家庭との連携の必要性を学び、あわせて地域との具体的なつながりについても問題意識をもるように心がけてほしい。

保育士資格を取得するためには、「保育実習 」とともに必ず履修しなければならない実習である。（その他「保育実習総論 ・ 」も資格取得上の必修履修、および保育特別実習の「 」か「 」を選択履修すること。）

内容

保育実習 では上述したねらいを達成するために、 実習施設の概要の理解、 保育所保育の実情の理解（保育の流れ等）、 乳幼児の発達、 保育計画・指導計画の理解、 多職種職員の連携によるチームワークの実情、 家庭・地域の連携、 保育方法と保育技能の理解と習得、 安全・危機管理、 疾病予防や健康維持を図る配慮、 保育士の倫理観などの視点をもち実習に取り組み、学びを深めることとする。

実習先の保育所は、基本的に、学生の居住する市区町村の担当部署に大学が依頼をして決める。公立が多いが、一部民間保育所もある。しかし、学生の帰省先や諸事情に合わせて、他の方法で実習の依頼をすることもあるので、希望する学生は幼児教育研究室で早めに相談すること。また、実習は原則3 年次の夏季9 月中となる予定であるが、市区町村との調整で別の時期になる場合もある。各自が主体的な意識を持ち、実習プランニング（実習の準備も含めて）を立て、学生生活全体の調整をする必要がある。

評価

実習先の保育所による評価を基本とするが、保育所の方針によって基準が一律ではないので、大学で総合的な評価への読み替えをおこなう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】大場幸夫・大嶋恭二 『保育実習』 ミネルヴァ書房

科目名	保育実習		
担当教員名	垂水 謙児、向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育実習 は、保育士資格取得の必修の実習である。3年次に11日間(90時間)、保育所以外の児童福祉施設 乳児院 児童養護施設 肢体不自由児施設 知的障害児(者)施設、児童の年齢オーバーした者の施設でも実習を行う。宿泊実習が原則である。しかし、実習生の宿泊設備がない入所施設の場合は、通いの実習となる。

学生にとって宿泊実習は不安と緊張感を与えるものである。不安を克服するために事前にボランティア活動をしたり、実践記録を読んだりして実習に焦点を合わせるようにする。

これまで「施設は頭ではなく 体力で働くところ」とか「施設に理論や技術は不要」などといわれ保育士や指導員の勤と常識に頼るいわば我流の生活指導が行われがちであった。

しかし、複雑多様化していく今日の子ども達のニーズに一貫して答えていくためには、子どもの発達・成長を理解し子ども達ひとり一人にきめ細かいアセスメント(事前評価)を行い、そのニーズに的確に把握し、個々の課題に向けて具体的プログラムを学ぶ。その指導方法の糸口を実習現場で見つけ出すことが保育実習 の<ねらい>である

内容

具体的な指導は実習総論 の年間30回の計画に従う。事前指導 配属先の発表 実習施設の事前報告書作成 リンテーション報告書の提出 実習開始 巡回指導を受ける 事後指導(学内反省会) 個別指導(評価表にそって)

実習さきの施設は、大学の指定した施設で実習する。4月末から翌年3月末までに1名もしくは複数で実習を行う。実習は、なるべく授業のない時期に行うので、夏休みや期間休み、学園祭の前後になる場合が多い。しかし、受け入れ施設の都合により授業と重なる場合もでてくる。実習先決定後は、養護原理、養護内容のテキストと先輩の報告書、施設のホームページを利用して実習施設の報告書の作成にとりかかる。そのために選択科目の児童養護論が前期、後期に開講されているので受講すること。特に2月~3月に実習配属が決まった学生は、後期の児童養護論を履修し実習開始にそなえることを勧める。施設保育士(レジデンシャル・ソシアル・ワーカー4大卒指導員)の専門職の守備範囲の広さを自覚して事前準備をする。特に知的障害、身体障害で実習する場合は他の専門職と連携をとるために治療教育や看護・医学やOT作業療法PT理学療法ST言語療法のリハビリテーションの専門を事前に学び、チームワークがとれるようにしておく。

評価

実習先の施設による評価を基本としますが、施設によって基準が一律でないので、大学で総合的な評価への読み替えを行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】大場幸夫・大島恭二編 『保育実習』 ミネルヴァ書房

科目名	保育特別実習		
担当教員名	野口 隆子、垂水 謙児、横井 絃子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

保育士資格を取得するための実習として、必修の「保育実習（「保」と略す）」「保育実習（「保」と略す）」のほか、この「保育特別実習（「特」と略す）」か「保育特別実習（「特」）」のいずれかを履修する必要がある。原則として保育所における実習体験の拡充を図るものは「特」、施設（保育所以外）における拡充を希望するならば「特」を履修することとする。

「特」での実習は、さまざまな保育実態を鑑みながら学びを広げ、深めていくこと、「保」での学びの課題を繋ぐことを大きな目的とし、「保」とは違う保育所で体験することがのぞましいものとする。そのため「保」の実習経験と「特」の実習をどうリンクさせるか、各自でよく考える必要がある。たとえば、「保」で0～6歳児クラスをそれぞれ1～2日ずつ担当する実習をした場合、「特」ではある年齢の1～2クラスで集中して実習をさせていただき学ぶというようなプランを立てた実習が考えられる。

各自の学びの課題を明らかにした上でのプランを立てて、受け入れ先の施設の実情に合わせて、大学の実習担当と相談して実習を進めていくこととなる。

内容

保育の実際と子どもの育ちの実情を概観した「保育実習1」での経験をもとに、保育全般に参加し保育技能を習得、子どもの個人差に応じた援助、多様な保育ニーズに対応した保育の展開、指導計画の立案と実践（責任実習）、家族や地域社会との連携、保育者の倫理観、保育への自己課題の明確化、といった視点をもち実習に取り組み、保育の学びを拡充することとする。

実習中は実習日誌を毎日担当者に提出し、指導を受けることになる。また、責任実習（一日の保育または部分）の実施にあたっては指導者の指導・助言のもと指導案を作成し、保育の実践、評価・反省をいう一連の保育の営みも体験することになる。「保育実習」で経験できなかったことをチャレンジすることになる。実習後は、保育日誌に必要な内容を補充して大学に提出し、一連の保育実習での学びを総括することとなる。

なお、実習は原則2週間（土曜の半日を含む）とし、実習先の保育所は自宅から通える地域の民間の認可保育所を自己開拓する場合と大学がすすめる民間の認可保育所に配属される場合とがある。実習時期は、原則3年生の2月下旬から4年生の9月ごろまでの間で大学の授業のない期間にて行うこととする。

評価

実習先の保育所による評価を基本とするが、保育所の方針によって基準が一律ではないので、大学で総合的な評価への読み替えをおこなう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】大場幸夫・大嶋恭二 『保育実習』 ミネルヴァ書房

科目名	保育・教育特別実習		
担当教員名	上垣内 伸子、垂水 謙児、野口 隆子、向井 美穂 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

保育・教育特別実習は、免許・資格習得にかかわらない学生の自発的な選択による幼稚園、保育所などの児童福祉施設、その他における実習の科目であり、学生の主体的な取り組みが期待される。明確な実習課題を持っている場合に履修を認める。

保育実践を必要とする発達研究、保育方法・保育内容に関する研究、保育者となるための保育実践力の向上、その他の目的が考えられるが、課題が具体的であることを条件とする。

3 年次および4 年次の前期オリエンテーション時に履修希望調査を行うほか、それに先立つ個別相談も受け付ける。時間をかけて準備をして意欲を持って実習に臨んでもらいたい。

内容

実習にあたっては、実習担当者に実習課題および実習計画の概要レポートを提出する。実習中は実習日誌を毎日実習先に提出し、実習後は、実習前に提出したレポートをもとに考察レポートを作成し、実習先と大学双方に提出する。

実習先は、実習目的に合う実習先を担当教員と相談のうえで決めることとするが、目的によっては出身地の園や施設などを自己開拓することもすすめる。

実習方法および実習時期は、授業に支障のないように実習生と実習先との話し合いによって決め、実習目的、実習先の状況等により、次のいずれかの方法をとることができることとする。

毎週1 日実習（12 日程度）の実習

2 週間継続実習

1 週間ずつの分割実習

および の組み合わせ

インターンシップとしての性格ももつ実習であり、実習担当教員と現場での実習指導担当者が連携して指導に当たり、実習生と三者での話し合いを通して、実習課題の探求および保育実践力向上に資する実習となることを目指す。

評価

実習先からのコメント、および提出されたレポートと実習日誌、学内での実習指導参加状況によって総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	保育学		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

現在の子どものおかれている社会環境のもとで、保育の場に何が求められているのかについて考え、各自の保育観つくりに関与することを目的とする。

これまで学習してきた保育の知識と実習体験を生かして、知識をどう消化して実践につなげるか、具体的な例を用いて考えたい。

日本におけるこれまでの保育理論、保育方法、保育研究を歴史的に概観し、現代の保育の課題を探求する。

資料や映像等を用いて、具体的な保育実践を通して保育を考えていきたい。

内容

主な内容は以下のとおり。

1. 保育とは何か、子どもと保育者(大人)の関係、自発的な活動としての遊び、などを切り口として考える。
2. 現代社会における子どもの発達の特性、社会における子どもの位置づけ、子どもがおかれている状況を考察する。
3. 集団保育(保育所、幼稚園その他)に対して社会が求めていること、実践のあり方、今後の保育の動向について、歴史的観点、比較文化的観点から考察する。

評価

授業への参加状況、学期内の小レポート、学期末のレポートを、3:4:3の比率で評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

毎回プリント資料を配布する

【推薦書】津守真 『保育者の地平』 ミネルヴァ書房 376.1/T

森上史朗 『子どもに生きた人倉橋総三』 フレーベル館

科目名	保育学演習		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「保育学」で学んだことを継続発展させ、具体的な保育事例研究を行う。

自らの保育実践記録や、保育実践研究、事例研究、保育記録を基に、保育理解、子ども理解を深めていく。

研究論文に親しみ、保育研究法の理解をする。

受講者には、自分の保育実践・保育観察の記録を作成して参加することを求めたい。

内容

1. 文献講読

保育理論と保育実践に関わる研究論文や著書を分担して読み、討論、報告する。

2. 保育実践記録等をめぐる討論

保育者による実践記録・事例研究や観察記録・面談記録等を読み、保育内容や子ども理解、援助方法等について話し合う。

自らの保育観・児童観・発達観の形成につなげると共に、実践研究の方法を学ぶ。

3. 保育の観察と討論

実際の保育場面を観察し、それを基にテーマを設定して話し合う。

4. 保育実践記録の作成と報告

受講者自身の実践記録や観察記録等を作成、報告し、保育内容や子ども理解、援助方法等について話し合う。

評価

授業でのレポート発表と討論への参加状況、学期末のレポートを、7:3 の比率で評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業開始時に指示する

科目名	保育実践論演習		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

前期科目「保育実践論」で学んだことをさらに発展させ、保育に関する研究やその方法を具体的に学び、保育に携わる上で生じる疑問点や問題点を追求する。調査研究とその方法に親しみ、保育をより多角的に理解する力、保育を見る目を培うことを目的とする。

内容

授業は講義もおこなうが、事例やビデオなどの資料を用いたディスカッション、受講者による文献購読や発表などを中心におこなっていく予定である。なるべく、様々な研究方法を取り上げて内容を理解しながら、学生自身が興味関心をもつ事柄を中心に、とりあげるテーマを決定していく予定である。少人数グループの中で互いの意見・考えを交換し、学びあっていくことを重視したい。

評価

出席点(25点)、発表や課題の提出(35点)、レポート(40点)から評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に指定しない。授業内で、必要に応じて資料を配布する予定。

科目名	歌唱表現論		
担当教員名	曾我 淑人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ここでは歌唱法 ・ で習得した知識や技術をどの様なケースでどの様に生かし、心に内在するさまざまな思いやイメージをよりの確に表現していくか講義を通して学んでいく。そのために改めて歌唱に関する事項をいくつか取り上げ、その背景や意義、問題点などについて考える。そして個々の作品について詩の内容や成り立ち及び、ことばと音の関係や構成など様々な角度から「表現」を捉えていく。

またグループ活動に於ける多様な表現方法や指導法についても事例を挙げ考察する。

内容

1. 発声について

音声障害、子どもの怒鳴り声について

2. 日本の歌唱の歴史と演奏法及び解釈について考える

わらべうた、唱歌、童謡、子どものうた、日本歌曲など

3. 詩と音楽について

詩の解釈と音楽の結びつき

4. 表現力について

心の動きを歌唱や楽器を通して的確に伝達するには

5. 子どもの音楽表現について考える

子どもの音楽行動における発達や音楽環境について

6. 指導者の役割と援助の重要性について考える

模擬授業を通して「送り手」と「受け手」の関係について

7. 音楽におけるグループワークについて考える

人形劇、合奏、ボディーパーカッション、オペレッタほか事例を通して

8. 早期教育について

早期教育に駆り立てるものは何か？ 習い事は何歳ごろから始めるのがよいか

評価

授業態度(20%) 試験(70%) レポート(10%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】加宮葵 『子どもが音楽を好きになるとき』 音楽之友社 376.157/K

畑中良輔 『日本名歌曲百選 詩の分析と解釈』 音楽之友社 911.66/N/1-2

科目名	歌唱表現論演習		
担当教員名	曾我 淑人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

歌唱法 ・ 」および「歌唱表現」で学んだ事柄の総まとめとしてこの科目を位置づける。

この演習では、ここ数年めまぐるしく変わっていく音楽文化に対し、状況によって適宜対応し得る感覚と実践力の育成をねらいとする。その為これまでに得た知識や技術を応用し、音楽活動において受身ではなく自ら気づき、創造し表現していく力を習得していくことが重要となってくる。つまり主体的な姿勢で常に問題意識を持ち、その解決に向かって積極的に取り組む演習での積み重ねは、他者の理解と共感を得る独自の音楽性と表現力の獲得に繋がって行く。

またグループでの活動では、創作力やコミュニケーション能力、協調性、責任感など、多様な能力を習得し、併せて自己実現と他者への理解を深める。

内容

歌唱における個々の資質を伸ばし意欲的に取り組んでいけるよう、子どものうたをはじめディズニー音楽やアニメソングなど様々なジャンルから興味関心のある事項や作品を自由に選択する。

そしてグループ活動はじめ教育実習のためのプログラムとして実習園の状況を想定し、表現に関する知識と多様な技術を駆使し模擬授業を行う。

< 授業展開 >

- ・ 唱歌、童謡、子どもの歌の作品研究と実践
- ・ 指導計画案の作成
- ・ 模擬授業
- ・ 適宜発表を行い、内容についての検討とディスカッションを行う
- ・ 実習園での実践報告

評価

模擬授業演習(80%) 実践報告(10%) 出席状況及び受講態度(10%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】後日指定

科目名	造形保育論演習		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

生活の中で自ら感じ考え行動する乳幼児を、造形を通して認め励ます意義に気づくとともに、身近な自然や素材との出会いを保障するための保育環境づくりを行えることや、子どもの強い興味関心に基づいた保育展開が図れるための造形的考察と実践的研究をすることが主なねらいである。

保育環境づくりや子どもの発達や興味に呼応させた保育活動を造形的視座から考え実行できる能力を開発する。

内容

1～4 発達と造形行動と...

5～8 心情と造形行動と...

9～12 想像と造形行動と...

13～15 協同と共同と造形行動と...

以上などのような切り口でひとりひとりの充実と集団の充実を図るための造形行動を、具体的に素材に触れて試し確かめて自らの能力開発を行い、造形を通じた保育活動が展開できるようにする。

さらに具体的な試行活動から生まれた作品は保育現場で役立つ教材開発にもなる。

評価

講義を通して学び、感じ考えたことや実際に試してみたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集(60%)とすること。まとめ方は造形表現を手がかりとした保育展開が可能になることが条件となる。そのスケッチブックや作品を通して、乳幼児と関わろうとしている感性、意欲、実践力(40%)も評価する。しかし、作品の良し悪しでの評価はしない。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に定めない。適宜参考図書を紹介する。

科目名	児童養護論		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

少子化時代において子どもが減少している反面、親元を離れ、社会的養護のもと福祉施設で生活する子どもたちの数は年々増加する一途にある。また、施設での生活にはいたらないが社会的養護の対象となる子どもたちもかなり多くいる。この授業では、子どもたち一人ひとりの「生きる喜び」を見出すべく生活を送るために、そして社会的自立を支援するために、社会的養護が果せる役割とはどのようなものか、福祉施設での「暮らし」のあり方、養護のあり方とはどのようなものかを探求することを目的とする。殊に子どもの支援を中心に扱うが、その背景にある家族の支援、学校・専門機関との連携、地域の問題等にも触れる。

内容

授業は、各テーマに即した福祉現場野の現状を開説し概観した上で、さまざま文献、資料(視聴覚資料含)をもとに課題と今後の展望についてディスカッションすることを中心に展開する予定である。

- (1) 現代の子育て事情と社会的養護を必要とする子どもの現状(2回)
 - ・ 映画のなかのメッセージに学ぶ
 - ・ 書物(小説・ノンフィクション・コミックなど)のなかのメッセージに学ぶ
 - ・ ドキュメンタリー番組のメッセージに学ぶ
- (2) 乳児院での「暮らし」と養護(2回)
- (3) 児童養護施設での「暮らし」と養護(2回)
- (4) 障害児施設での「暮らし」と養護(2回)
- (5) 児童自立支援施設での「暮らし」と養護(1回)
- (6) 児童心理施設(情緒障害児短期治療施設)での「暮らし」と養護(1回)
- (7) 親里制度と「暮らし」そして養護(2回)
- (8) さまざまな施設での児童の健全育成(3回)

評価

授業で課す小レポート(20%)、授業への参加状況(20%)と最終レポート(60%)の提出、発表により総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に参考文献等を紹介する。

科目名	児童養護論演習		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

児童養護の関心をさらに深化させ、社会的な自立を支援を目指した養護の現状と課題、可能性を、子どもの支援のみならず、家族支援、地域支援、学校・専門機関との連携などとの関係から幅広く探るものとする。

内容

授業は学生の関心をもとに文献の購読、事例研究の分析、児童福祉に関する時事問題等を中心に展開する。

内容としては以下に示すが、受講学生と相談しながら取り上げるものを検討して進める。

- (1) 社会的養護を要する子どもの現状を理解する(3回)
 - ・ 福祉施設に入所する子どもたち
 - ・ 入所にいたらないが社会的養護を要する子どもたち
- (2) 福祉施設における個別支援の現状と課題(3回)
 - ・ 個々の子どもの自立支援計画とは
 - ・ 事例に学ぶ自立支援計画
- (3) 福祉施設における家族支援の現状と課題(3回)
 - ・ 現代における「家族」とは
 - ・ 事例に学ぶ家族支援
- (4) 児童の健全育成のための社会的リソースの現状(2回)
- (5) 児童福祉に関する自己課題に対する調査研究と発表(4回)

評価

授業で課す小レポート(30%)、自己課題に即した調査研究と発表内容(70%)などから総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に適宜、参考文献を紹介する。

科目名	児童音楽文化論		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

日本の“子どもの音楽文化”について学ぶために「日本音楽教育史」「音楽教育学」「日本童謡史」などを学び、現代の子どもと音楽のかかわりを考えていきたいと思う。

本来の意味での邦楽は「浄瑠璃」「能楽」「三曲」を代表とし、日本の「わらべうた」や「こもりうた」「神楽」などを総称したものである。日本の音楽文化の歴史を追い音楽教育とは何をすべきなのか、現場の子どもたちにはどのように音楽文化を伝えていくべきかをじっくりと考えていきたい。

日本音楽の歴史と日本音楽教育史の関係は、相反するものが見え隠れする。教育の現場での音楽教育を進めながら、日本独自の音楽を受け継いでいく複雑な日本の社会の現状。

確かな「音楽」の概念をしっかりと持ち、保育現場で生かせるような授業展開を進める。

内容

第1回～第4回 邦楽の、国楽、雅楽などの歴史とその背景

第5回～第7回 日本の「わらべうた」「こもりうた」

第8回～第11回 明治時代の「唱歌」大正・昭和前期時代の「童謡」

第12回～第14回昭和時代後期・戦後の「こどものうた」「幼稚園教育要領」「保育士指針」に書かれている「表現」との関係。

評価

授業の第15回目に行う。

半期学んだ中から、自分の興味を持ったテーマでまとめて書く。

参考書、ノートなどの持ち込みは不可。90分。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】町田嘉章他編 『わらべうた』 岩波書店

増本伎共子 『雅楽入門』 音楽の友社

丸山忠璋 『田村虎蔵の生涯』 音楽の友社

科目名	児童学特別講義		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1年	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

児童学特別講義は、乳児から児童に至るまでの子どもの発達やその特性を理解し、その生育にいかに関わることが望ましいかについて学ぶことが主眼である。

その一つの視座として「子どもの造形行動を通し、その発達や特性を知る」ことは具体的な学びとなる。

人間が生きる手段として表現行動は重要である。その表現行動のひとつとして造形表現は欠くことができない行動である。その造形表現の行動は乳幼児・児童と大人と共通した行動もあれば、大きく異なる行動もある。そうした同一性と異文化性を持っていることを認識することは乳幼児・児童教育の立場だけでなく、ひろく人間の営みとして理解することになり重要である。

そのために乳幼児の造形表現に潜む意味や特徴的な表現の意味を学び、幼児期から児童期の発達過程について学び、その表現をどう読み取るのか、どのような援助方法や対応があるのか...について体得していくことがねらいである。

内容

子どもたちの実態をスライドやビデオなどで知ることや、実際の幼児画を見るなど具体的な資料を基に、観察・鑑賞・検証・考察を繰り返して、直接体験的に認識を積み上げながら学ぶ。つまり、子どもたちの独特な表現法やその読み取り方を体得し、適切な援助の仕方を体得することである。そうした中で大人との共通性(同一性)もおのずと理解されることになる。

1～2 1. 表と現と 「乳幼児独特の造形表現法について」

3～5 2. 幼児画の発達段階

- ・描き始めのころ(Scribble期・1～2歳ころ)
- ・伝達の喜び(象徴期・3～4歳ころ)

6～10 3. 幼児・児童画の特徴 「子どもの絵の読み取り方」

- ・共感する意義とそのポイント

11～15 4. 気になる、心配になる絵への理解と対応

- ・ストロークのもつ意味
- ・色彩心理との関わり

授業中に示した子どもの絵をデジタルカメラで撮影し、分類し資料にする。

評価

講義と実習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のた

めの資料集(60%)とすること。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲(40%)を評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

林 健造著 『異文化としての幼児画』 フレーベル館刊

科目名	幼児教育基礎論		
担当教員名	関口 はつ江		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1,2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

前期の保育者論に続いて保育の基本的理解を目的とする。ここでは、保育する自分から離れて、幼児教育にかかわる専門的知識を習得し、過去から現代に幼児教育の思想、方法の概略を理解し、保育のあるべき方向の考察ができるようにする。現在わが国では多様な保育方法が実施されている。それらの方法は現在の社会、経済、制度的背景、親からの要請等によっているが、乳幼児に適当な環境、保育方法は常に探求されなければならない。理論と実践の橋渡しをしながら、具体的な実践方法の考察をする。

育児や保育の今日的課題に関心を持って調べる、自分の体験を掘り下げる、実践上の問題点を探るなど保育に対する積極的な態度と自ら考える力を養いたい。

下記の内容をほぼ2回ずつ行う予定である。

内容

テキストに沿い、補助資料を用いる。テーマを作って学生同士の意見交換の時間を設けるので、活発な意見交換を期待したい。

1. 保育の概念と保育者としての発達理解(研究者と実践者)
2. 保育思想の歴史と現代への影響(教育要領、保育指針の精神)
3. 発達理論と保育方法(保育形態や教育課程)
4. 子どもの育ちと環境(自然環境、社会環境、子どもの文化等)
5. 子どもにとっての多様な保育の場、その役割と関連(家庭、幼稚園、保育所、地域社会)
6. 保育の場のダイナミックスの特質(個の育ちと集団の育ち)
7. 子どもの発達の特質と保育環境、教材、人間関係(保育実践法)
8. 多様な実践の事例研究

評価

出席及び授業中の発言 30%、 授業中に課題のレポート 30%、 期末試験 40%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】後日指定する

【参考図書】倉橋惣三 『育ての心』 フレーベル新書

科目名	幼児教育基礎論		
担当教員名	関口 はつ江		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1,2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

前期の保育者論に続いて保育の基本的理解を目的とする。ここでは、保育する自分から離れて、幼児教育にかかわる専門的知識を習得し、過去から現代に幼児教育の思想、方法の概略を理解し、保育のあるべき方向の考察ができるようにする。現在わが国では多様な保育方法が実施されている。それらの方法は現在の社会、経済、制度的背景、親からの要請等によっているが、乳幼児に適当な環境、保育方法は常に探求されなければならない。理論と実践の橋渡しをしながら、具体的な実践方法の考察をする。

育児や保育の今日的課題に関心を持って調べる、自分の体験を掘り下げる、実践上の問題点を探るなど保育に対する積極的な態度と自ら考える力を養いたい。

下記の内容をほぼ2回ずつ行う予定である。

内容

テキストに沿い、補助資料を用いる。テーマを作って学生同士の意見交換の時間を設けるので、活発な意見交換を期待したい。

1. 保育の概念と保育者としての発達理解(研究者と実践者)
2. 保育思想の歴史と現代への影響(教育要領、保育指針の精神)
3. 発達理論と保育方法(保育形態や教育課程)
4. 子どもの育ちと環境(自然環境、社会環境、子どもの文化等)
5. 子どもにとっての多様な保育の場、その役割と関連(家庭、幼稚園、保育所、地域社会)
6. 保育の場のダイナミックスの特質(個の育ちと集団の育ち)
7. 子どもの発達の特質と保育環境、教材、人間関係(保育実践法)
8. 多様な実践の事例研究

評価

出席及び授業中の発言 30%、 授業中に課題のレポート 30%、 期末試験 40%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】後日指定する

【参考図書】倉橋惣三 『育ての心』 フレーベル新書

科目名	教育制度論		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1,2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

教育を「制度」の観点からみるということは、成り立ちや仕組みに加え、実際の社会的現実のなかで教育が果たしている役割に目をむけることでもある。本科目では、わが国の学校制度の歴史的変遷について学び、教育制度の基本的原理について理解することを主たるねらいとする。また、今日的な課題について考えるために、公教育制度をはじめとする、近年のわが国の教育改革の動向についてもとりあげたい。

内容

1. 教育制度をめぐって - 教育・教育制度・学校制度・生涯教育(生涯学習支援制度)
2. 学校体系について 単線型・複線型・分岐型、諸外国との比較
3. わが国における学校制度の移り変わりと展開 - 近代学校制度の誕生
4. わが国における学校制度の移り変わりと展開 - 近代学校制度の確立
5. わが国における学校制度の移り変わりと展開 - 戦後の学校制度改革
6. 学校空間の過去と現在
7. 教育基本法について
8. 教育基本法の改正について
9. 公教育制度と基本原理について
10. 公教育を支える基本原則について(無償性・義務性・中立性)
11. 近年の教育改革 学校選択制
12. 近年の教育改革 新しい学校づくり
13. 学力問題について
14. 就学前教育をめぐる現状と制度について
15. 試験

評価

試験60%、授業への参加度20%、出席20%による総合評価とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】高橋靖直編 『第二版 学校制度と社会』 玉川大学出版部

【推薦書】藤田晃之『新しいスタイルの学校 制度改革の現状と課題』 同時代社

【参考図書】教育制度研究会編 『要説 教育制度 新訂版』 学術図書出版社

科目名	教育制度論		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1,2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

教育を「制度」の観点からみるということは、成り立ちや仕組みに加え、実際の社会的現実のなかで教育が果たしている役割に目をむけることでもある。本科目では、わが国の学校制度の歴史的変遷について学び、教育制度の基本的原理について理解することを主たるねらいとする。また、今日的な課題について考えるために、公教育制度をはじめとする、近年のわが国の教育改革の動向についてもとりあげたい。

内容

1. 教育制度をめぐって - 教育・教育制度・学校制度・生涯教育(生涯学習支援制度)
2. 学校体系について 単線型・複線型・分岐型、諸外国との比較
3. わが国における学校制度の移り変わりとは展開 - 近代学校制度の誕生
4. わが国における学校制度の移り変わりとは展開 - 近代学校制度の確立
5. わが国における学校制度の移り変わりとは展開 - 戦後の学校制度改革
6. 学校空間の過去と現在
7. 教育基本法について
8. 教育基本法の改正について
9. 公教育制度と基本原理について
10. 公教育を支える基本原則について(無償性・義務性・中立性)
11. 近年の教育改革 学校選択制
12. 近年の教育改革 新しい学校づくり
13. 学力問題について
14. 就学前教育をめぐると現状と制度について
15. 試験

評価

試験60%、授業への参加度20%、出席20%による総合評価とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】高橋靖直編 『第二版 学校制度と社会』 玉川大学出版部

【推薦書】藤田晃之『新しいスタイルの学校 制度改革の現状と課題』 同時代社

【参考図書】教育制度研究会編 『要説 教育制度 新訂版』 学術図書出版社

科目名	保育者論		
担当教員名	関口 はつ江		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

集団保育の社会的役割拡大の風潮があるが、必ずしも幼稚園、保育所の使命及び保育者の専門性が正しく理解されているとはいえない現状である。1学年当初の専門科目であるので、今後の学習への意欲を高め、正しい方向での保育観の基礎作りを目指す。保育が乳幼児の全人教育であり、保育者自身の人間性と生活態度が保育の専門性に繋がることを理解するとともに、乳幼児の内面や集団活動展開状況を的確に把握することの重要性を理解し、「保育する自分」を自覚し、保育的なかかわりへの感性、行動力を高めることを目的とする。

内容

次の内容に関して、ほぼ1テーマを2コマの割合で扱う。また、テーマとは別に保育活動場面のビデオテープ視聴を行い、乳幼児の具体的行動や生活、保育の現実についての理解を深める。

1. 保育とは何か。保育者の資質について
2. 保育と社会的背景との関連。保育の歴史と保育者
3. 保育の現行制度と保育者の社会的役割と責任
4. 乳幼児にとっての保育者(乳幼児の発達と保育的かかわり)
5. 幼稚園教育における保育実践
6. 保育所保育における保育実践
7. 成長し続ける保育者になるために(保育を学ぶとは)

評価

出席 20%、 授業中出題のレポート 30%、 期末テスト 50%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】関口・板垣編 『保育者をめざすあなたへ』 サンウエイ出版
子どもと保育総合研究所 『最新保育資料集』 ミネルヴァ書房
- 【推薦書】津守真 『保育の一日とその周辺』 フレーベル館 376.1/T
津守真 『保育者の地平』 ミネルヴァ書房

科目名	保育者論		
担当教員名	関口 はつ江		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

集団保育の社会的役割拡大の風潮があるが、必ずしも幼稚園、保育所の使命及び保育者の専門性が正しく理解されているとはいえない現状である。1学年当初の専門科目であるので、今後の学習への意欲を高め、正しい方向での保育観の基礎作りを目指す。保育が乳幼児の全人教育であり、保育者自身の人間性と生活態度が保育の専門性に繋がることを理解するとともに、乳幼児の内面や集団活動展開状況を的確に把握することの重要性を理解し、「保育する自分」を自覚し、保育的にかかわりへの感性、行動力を高めることを目的とする。

内容

次の内容に関して、ほぼ1テーマを2コマの割合で扱う。また、テーマとは別に保育活動場面のビデオテープ視聴を行い、乳幼児の具体的行動や生活、保育の現実についての理解を深める。

1. 保育とは何か。保育者の資質について
2. 保育と社会的背景との関連。保育の歴史と保育者
3. 保育の現行制度と保育者の社会的役割と責任
4. 乳幼児にとっての保育者（乳幼児の発達と保育的にかかわり）
5. 幼稚園教育における保育実践
6. 保育所保育における保育実践
7. 成長し続ける保育者になるために（保育を学ぶとは）

評価

出席 20%、 授業中出題のレポート 30%、 期末テスト 50%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】関口・板垣編 『保育者をめざすあなたへ』 サンウエイ出版
子どもと保育総合研究所 『最新保育資料集』 ミネルヴァ書房
- 【推薦書】津守真 『保育の一日とその周辺』 フレーベル館 376.1/T
津守真 『保育者の地平』 ミネルヴァ書房

科目名	教育課程総論		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育における子どもの生活、発達への理解をふまえつつ、指導計画の意味を理解し、保育実践に向けた計画作成を考える。さらに、具体的な事例等を通して保育改善のための計画 - 実践 - 評価・反省のプロセスを学び理解する。

内容

以下のような授業内容を予定している。講義が中心だが、個人・グループでの課題活動を取り入れたいと考えている。

1. 保育の基本と計画
2. 遊びと学び
3. 保育における計画の変遷
4. 幼稚園における教育課程
5. 保育所における保育課程
6. 教育課程・保育課程の編成と実際
7. 教育課程・保育課程の実施と指導計画作成
8. 長期指導計画・短期指導計画
9. 保育における記録の意義
10. 演習：記録の実践
11. 演習：指導計画作成
12. 演習：グループ活動 1
13. 演習：グループ活動 2
14. 保育における評価
15. 総括：教育課程・保育課程における諸課題

評価

出席点(30点)、授業中の課題・グループ活動(20点)、期末レポート(50点)から評価をおこない、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

神長美津子・塩谷香(編著)「教育課程・保育課程論」 光生館

科目名	教育課程総論		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育における子どもの生活、発達への理解をふまえつつ、指導計画の意味を理解し、保育実践に向けた計画作成を考える。さらに、具体的な事例等を通して保育改善のための計画 - 実践 - 評価・反省のプロセスを学び理解する。

内容

以下のような授業内容を予定している。講義が中心だが、個人・グループでの課題活動を取り入れたいと考えている。

1. 保育の基本と計画
2. 遊びと学び
3. 保育における計画の変遷
4. 幼稚園における教育課程
5. 保育所における保育課程
6. 教育課程・保育課程の編成と実際
7. 教育課程・保育課程の実施と指導計画作成
8. 長期指導計画・短期指導計画
9. 保育における記録の意義
10. 演習：記録の実践
11. 演習：指導計画作成
12. 演習：グループ活動 1
13. 演習：グループ活動 2
14. 保育における評価
15. 総括：教育課程・保育課程における諸課題

評価

出席点(30点)、授業中の課題・グループ活動(20点)、期末レポート(50点)から評価をおこない、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

神長美津子・塩谷香(編著)「教育課程・保育課程論」 光生館

科目名	乳児保育		
担当教員名	帆足 暁子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

子どもが育つ原点は、乳児期にある。出生後にどのような保育を受けるかということが、その育ちに大きく影響する。保育所における乳児保育が一般化され、保育士の国家資格化に伴い、保護者への育児指導業務も付加された。これからの保育士は、より専門的な視点で子どもにかかわることが求められている。

現在、社会問題となっている虐待等の子どもの成育環境のさまざまな課題をも踏まえ、望ましい乳児保育の在り方を明確にし、必要とされる子どもの見方や捉え方、知識を身につけていくことを目的とする。

(乳児保育の対象は、厳密には1歳未満であるが、発達の流れを考慮して3歳未満児を中心とする)

内容

1. 乳児保育の意義

現代の社会環境 乳児保育の必要性 保育保育所指針における乳児保育

2. 乳児の発達

精神面の発達 身体面の発達 新生児反射と運動発達 言語の発達

3. 乳児の生活

生活リズム 睡眠・覚醒 排泄 摂食 清潔 遊び その他

4. コミュニケーションの発達

保育者と乳児のかかわり 乳児同士の関わり

5. 乳児の保育計画

指導計画 個別の指導計画

その他、適宜絵本の紹介・読み聞かせを行う

評価

積極的な講義参加を期待する。毎講義終了時に質問や感想・意見等を書く時間をとり、翌週にそれらに対応しながら、次の課題へとすすめていく。

講義は一方的なものではなく、お互いに作り上げていくものと考えている。講義に臨む積極性も評価対象の考慮とする。

正式な評価は、項目ごとの小レポート及び、全講義終了後の試験による。

出席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。

毎回のコメント30点、テスト70点により、評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】監修帆足英一／帆足暁子他編著 『実習保育学』 日本小児医事出版
子とものとも 012の絵本(4月号から3月号)12冊 福音館書店

【参考図書】その他の絵本等も含めて適宜紹介。

科目名	乳児保育		
担当教員名	帆足 暁子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

子どもが育つ原点は、乳児期にある。出生後にどのような保育を受けるかということが、その育ちに大きく影響する。保育所における乳児保育が一般化され、保育士の国家資格化に伴い、保護者への育児指導業務も付加された。これからの保育士は、より専門的な視点で子どもにかかわることが求められている。

現在、社会問題となっている虐待等の子どもの成育環境のさまざまな課題をも踏まえ、望ましい乳児保育の在り方を明確にし、必要とされる子どもの見方や捉え方、知識を身につけていくことを目的とする。

(乳児保育の対象は、厳密には1歳未満であるが、発達の流れを考慮して3歳未満児を中心とする)

内容

1. 乳児保育の意義

現代の社会環境 乳児保育の必要性 保育保育所指針における乳児保育

2. 乳児の発達

精神面の発達 身体面の発達 新生児反射と運動発達 言語の発達

3. 乳児の生活

生活リズム 睡眠・覚醒 排泄 摂食 清潔 遊び その他

4. コミュニケーションの発達

保育者と乳児のかかわり 乳児同士の関わり

5. 乳児の保育計画

指導計画 個別の指導計画

その他、適宜絵本の紹介・読み聞かせを行う

評価

積極的な講義参加を期待する。毎講義終了時に質問や感想・意見等を書く時間をとり、翌週にそれらに対応しながら、次の課題へとすすめていく。

講義は一方的なものではなく、お互いに作り上げていくものと考えている。講義に臨む積極性も評価対象の考慮とする。

正式な評価は、項目ごとの小レポート及び、全講義終了後の試験による。

出席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。

毎回のコメント30点、テスト70点により、評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】監修帆足英一／帆足暁子他編著 『実習保育学』 日本小児医事出版
子とものとも 012の絵本（4月号から3月号）12冊 福音館書店

【参考図書】その他の絵本等も含めて適宜紹介。

科目名	乳児保育		
担当教員名	帆足 暁子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

子どもが育つ原点は、乳児期にある。出生後にどのような保育を受けるかということが、その育ちに大きく影響する。保育所における乳児保育が一般化され、保育士の国家資格化に伴い、保護者への育児指導業務も付加された。これからの保育士は、より専門的な視点で子どもにかかわることが求められている。

現在、社会問題となっている虐待等の子どもの成育環境のさまざまな課題をも踏まえ、望ましい乳児保育の在り方を明確にし、必要とされる子どもの見方や捉え方、知識を身につけていくことを目的とする。

(乳児保育の対象は、厳密には1歳未満であるが、発達の流れを考慮して3歳未満児を中心とする)

内容

1. 乳児保育の意義

現代の社会環境 乳児保育の必要性 保育保育所指針における乳児保育

2. 乳児の発達

精神面の発達 身体面の発達 新生児反射と運動発達 言語の発達

3. 乳児の生活

生活リズム 睡眠・覚醒 排泄 摂食 清潔 遊び その他

4. コミュニケーションの発達

保育者と乳児のかかわり 乳児同士の関わり

5. 乳児の保育計画

指導計画 個別の指導計画

その他、適宜絵本の紹介・読み聞かせを行う

評価

積極的な講義参加を期待する。毎講義終了時に質問や感想・意見等を書く時間をとり、翌週にそれらに対応しながら、次の課題へとすすめていく。

講義は一方的なものではなく、お互いに作り上げていくものと考えている。講義に臨む積極性も評価対象の考慮とする。

正式な評価は、項目ごとの小レポート及び、全講義終了後の試験による。

出席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。

毎回のコメント30点、テスト70点により、評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】監修帆足英一／帆足暁子他編著 『実習保育学』 日本小児医事出版
子とものとも 012の絵本（4月号から3月号）12冊 福音館書店

【参考図書】その他の絵本等も含めて適宜紹介。

科目名	障害児保育		
担当教員名	宮崎 豊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この授業においては、保育の中で特別な支援を必要とする乳幼児の「障害の理解」を深め、統合保育および専門的な療育場面での保育における援助のあり方を具体的に学ぶこととする。また、一人ひとりの発達課題をとらえ、継続的な保育、教育が進められるよう医療機関・福祉機関・学校教育機関や家庭・地域が連携し育ちを支える「特別支援教育」のシステムも理解しながら、発達保障をする具体的な保育方法を学ぶ。

内容

1. 生命の尊さ - さまざまな育ちと生活 - (1 回)
2. 「障害」とは何か(1 回)
3. 関係性の中で育つこと(2 回)
 - ・ 「障害」観の歴史的変遷を辿る
 - ・ 障害児の保育・教育実践の歴史
4. 障害の理解の促進と個々の育ちと生活に応じた具体的な援助を考える
 - ・ 情報入力に難しさのある子どもの理解と支援(3 回)
 - ・ 身体の調整に難しさのある子どもの理解と支援(1 回)
 - ・ ことばの育ちに難しさのある子どもの理解と支援(1 回)
 - ・ 知的な育ちに遅れのある子どもの理解と支援(1 回)
 - ・ 人とのかかわりや行動の統制が苦手な子どもの理解と支援(2 回)
5. 保育の中での「気になる子」と称される子どもの理解と支援(1 回)
6. 専門機関と家庭の連携 - 特別支援教育における実践と課題 - (1 回)
7. 生涯発達を見通した保育の場での援助とは(1 回)

評価

期末のレポート(70%)、授業内のレポート(30%)により総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】野本茂夫監修 『障害児保育入門 どの子にもうれしい保育をめざして』 ミネルヴァ書房

378/S

若井淳二他編著 『幼稚園・保育所の先生のための 障害児保育テキスト』 教育出版 378/W

科目名	障害児保育		
担当教員名	宮崎 豊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この授業においては、保育の中で特別な支援を必要とする乳幼児の「障害の理解」を深め、統合保育および専門的な療育場面での保育における援助のあり方を具体的に学ぶこととする。また、一人ひとりの発達課題をとらえ、継続的な保育、教育が進められるよう医療機関・福祉機関・学校教育機関や家庭・地域が連携し育ちを支える「特別支援教育」のシステムも理解しながら、発達保障をする具体的な保育方法を学ぶ。

内容

1. 生命の尊さ - さまざまな育ちと生活 - (1 回)
2. 「障害」とは何か(1 回)
3. 関係性の中で育つこと(2 回)
 - ・ 「障害」観の歴史的変遷を辿る
 - ・ 障害児の保育・教育実践の歴史
4. 障害の理解の促進と個々の育ちと生活に応じた具体的な援助を考える
 - ・ 情報入力に難しさのある子どもの理解と支援(3 回)
 - ・ 身体の調整に難しさのある子どもの理解と支援(1 回)
 - ・ ことばの育ちに難しさのある子どもの理解と支援(1 回)
 - ・ 知的な育ちに遅れのある子どもの理解と支援(1 回)
 - ・ 人とのかかわりや行動の統制が苦手な子どもの理解と支援(2 回)
5. 保育の中での「気になる子」と称される子どもの理解と支援(1 回)
6. 専門機関と家庭の連携 - 特別支援教育における実践と課題 - (1 回)
7. 生涯発達を見通した保育の場での援助とは(1 回)

評価

期末のレポート(70%)、授業内のレポート(30%)により総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】野本茂夫監修 『障害児保育入門 どの子にもうれしい保育をめざして』 ミネルヴァ書房

378/S

若井淳二他編著 『幼稚園・保育所の先生のための 障害児保育テキスト』 教育出版 378/W

科目名	障害児保育		
担当教員名	宮崎 豊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この授業においては、保育の中で特別な支援を必要とする乳幼児の「障害の理解」を深め、統合保育および専門的な療育場面での保育における援助のあり方を具体的に学ぶこととする。また、一人ひとりの発達の課題をとらえ、継続的な保育、教育が進められるよう医療機関・福祉機関・学校教育機関や家庭・地域が連携し育ちを支える「特別支援教育」のシステムも理解しながら、発達保障をする具体的な保育方法を学ぶ。

内容

1. 生命の尊さ - さまざまな育ちと生活 - (1 回)
2. 「障害」とは何か(1 回)
3. 関係性の中で育つこと(2 回)
 - ・ 「障害」観の歴史的変遷を辿る
 - ・ 障害児の保育・教育実践の歴史
4. 障害の理解の促進と個々の育ちと生活に応じた具体的な援助を考える
 - ・ 情報入力に難しさのある子どもの理解と支援(3 回)
 - ・ 身体の調整に難しさのある子どもの理解と支援(1 回)
 - ・ ことばの育ちに難しさのある子どもの理解と支援(1 回)
 - ・ 知的な育ちに遅れのある子どもの理解と支援(1 回)
 - ・ 人とのかかわりや行動の統制が苦手な子どもの理解と支援(2 回)
5. 保育の中での「気になる子」と称される子どもの理解と支援(1 回)
6. 専門機関と家庭の連携 - 特別支援教育における実践と課題 - (1 回)
7. 生涯発達を見通した保育の場での援助とは(1 回)

評価

期末のレポート(70%)、授業内のレポート(30%)により総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】野本茂夫監修 『障害児保育入門 どの子にもうれしい保育をめざして』 ミネルヴァ書房

378/S

若井淳二他編著 『幼稚園・保育所の先生のための 障害児保育テキスト』 教育出版 378/W

科目名	教育心理学		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1,2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼児についての理解を深め、保育をより効果的に進めるための、心理学的知見を学ぶ。テーマとしては、子どもの発達、学習や認知、性格、適応などを取り上げるほか、障害のある幼児を理解し、より適切な保育を進めるためのカウンセリングや学習指導などについても、教育心理学・保育心理学の立場から考察する。

内容

- (1) 教育心理学とは何か： 教育心理学の歴史、 教育心理学の課題、 教育心理学の研究法
- (2) 発達理論： 発達とは、 さまざまな発達理論の紹介とその比較
- (3) 発達段階の心理： 乳幼児期、 児童期、
- (4) 発達段階の心理： 思春期・青年期、 成人期・老人期
- (5) 学習理論： 学習とは、 古典的条件付けと道具的条件付け、 学習性無力感、 保育と「学習」
- (6) 乳幼児期の記憶： 記憶の過程と種類、 乳幼児期の記憶
- (7) 知能： 知能とは、 知能の発達を規定する要因、 知能の評価、 言語の発達と障害
- (8) 性格・人格の理解： 人格・性格とは、 乳児の気質、 様々な人格・性格論、 人格・性格の評価、 性格の形成、 子どもにおける性格の理解
- (9) 適応： 適応とは、 欲求、 コンフリクトとフラストレーション、 適応機制、 子どもの感じるストレスとストレスを乗り越える力、 子どものストレスへの援助
- (10) カウンセリング： カウンセリングとは、 カウンセリングの領域、 カウンセリングの理論と技法
- (11) 保育と評価、学習指導： 日本の幼児教育、 教育評価の目的と手続き、 評価基準と評価方法、 学習の動機づけ、 保育の形態と方法、 個人差の考慮
- (12) 心の健康： メンタルヘルスにおける教師の役割、 いじめと不登校
- (13) 障害児の理解と教育： 障害の種類、 障害理解の段階と心理的側面、 障害理解教育の必要性、 障害児に対する教育の実際
- (14) まとめ
- (15) 試験

評価

平常点(授業内の感想票)20点、学期末の筆記試験80点として評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】北尾倫彦・中島実・林龍平・廣瀬雄彦・高岡昌子・伊藤美加著 『精選コンパクト教育心理学』 北大路書房
無藤隆・清水益治編著 『保育心理学』 北大路書房
- 【推薦書】無藤隆・麻生武編著 『教育心理学』 北大路書房

科目名	教育心理学		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1,2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼児についての理解を深め、保育をより効果的に進めるための、心理学的知見を学ぶ。テーマとしては、子どもの発達、学習や認知、性格、適応などを取り上げるほか、障害のある幼児を理解し、より適切な保育を進めるためのカウンセリングや学習指導などについても、教育心理学・保育心理学の立場から考察する。

内容

- (1) 教育心理学とは何か： 教育心理学の歴史、 教育心理学の課題、 教育心理学の研究法
- (2) 発達理論： 発達とは、 さまざまな発達理論の紹介とその比較
- (3) 発達段階の心理： 乳幼児期、 児童期、
- (4) 発達段階の心理： 思春期・青年期、 成人期・老人期
- (5) 学習理論： 学習とは、 古典的条件付けと道具的条件付け、 学習性無力感、 保育と「学習」
- (6) 乳幼児期の記憶： 記憶の過程と種類、 乳幼児期の記憶
- (7) 知能： 知能とは、 知能の発達を規定する要因、 知能の評価、 言語の発達と障害
- (8) 性格・人格の理解： 人格・性格とは、 乳児の気質、 様々な人格・性格論、 人格・性格の評価、 性格の形成、 子どもにおける性格の理解
- (9) 適応： 適応とは、 欲求、 コンフリクトとフラストレーション、 適応機制、 子どもの感じるストレスとストレスを乗り越える力、 子どものストレスへの援助
- (10) カウンセリング： カウンセリングとは、 カウンセリングの領域、 カウンセリングの理論と技法
- (11) 保育と評価、学習指導： 日本の幼児教育、 教育評価の目的と手続き、 評価基準と評価方法、 学習の動機づけ、 保育の形態と方法、 個人差の考慮
- (12) 心の健康： メンタルヘルスにおける教師の役割、 いじめと不登校
- (13) 障害児の理解と教育： 障害の種類、 障害理解の段階と心理的側面、 障害理解教育の必要性、 障害児に対する教育の実践
- (14) まとめ
- (15) 試験

評価

平常点(授業内の感想票)20点、学期末の筆記試験80点として評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】北尾倫彦・中島実・林龍平・廣瀬雄彦・高岡昌子・伊藤美加著 『精選コンパクト教育心理学』 北大路書房
無藤隆・清水益治編著 『保育心理学』 北大路書房
- 【推薦書】無藤隆・麻生武編著 『教育心理学』 北大路書房

科目名	臨床発達心理学		
担当教員名	長田 瑞恵、佐藤 礼子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1,2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

乳幼児期・児童期の子どもを臨床発達心理学的観点から考える。

理論的背景としてPiaget、Eriksonの主張や、発達心理学の領域で注目されている「心の理論」などについて学ぶ。さらに、さまざまな発達障がいについて理解を深め、障がいをもっている子どもたちの保育・教育や子育てについて考える。

内容

- (1) 臨床発達心理学総論(長田)
- (2) Piagetの発達段階論(長田)
- (3) Piagetの発達段階論(長田)
- (4) Eriksonの発達理論(長田)
- (5) Eriksonの発達理論(長田)
- (6) 「心の理論」(長田)
- (7) 「心の理論」(長田)
- (8) 発達障がい総論(佐藤)
- (9) 発達障がい各論 : 広汎性発達障害(佐藤)
- (10) 発達障がい各論 : ADHD(佐藤)
- (11) 発達障がい各論 : LD(佐藤)
- (12) 発達障がい各論 : 発達障がいを持つ子どもを持つということ(佐藤)
- (13) もう一つの「発達障がい」 : 虐待1(佐藤)
- (14) もう一つの「発達障がい」 : 虐待2(佐藤)
- (15) 試験

評価

平常点(授業内の感想票)20点、学期末の筆記試験80点として評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】 白石正久著 『発達の扉 上』 かもがわ出版
白石正久著 『発達の扉 下』 かもがわ出版
- 【推薦書】 市川宏伸著 『子どもの心の病気がわかる本』 講談社
小西 行郎 『子どもの心の発達がわかる本』 講談社

科目名	保育・教育相談		
担当教員名	赤井 美智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この教科は、子どもの臨床的な課題と子どもへの心理的援助の方法についての基盤的な理解の上に、保育者は保護者との保育・教育相談をどのように担うべきかという理論と技法の基本を学ぶための教科である。

現代社会では、子どもの臨床的課題の解決、発展には、子どもへの臨床的なアプローチばかりでなく、保護者との保育・教育相談、カウンセリングが並行することによる保護者と保育者との連携の必要性がますます高まっている。

保育・教育相談の基本となるカウンセリングの理論と実践実技の学びを基盤として、幼稚園や保育所、子育て支援センター等における保育現場で、保育・教育相談をも担える保育者の養成を目標とする。

内容

まわりの環境に強く規定されやすい子どもの内面への臨床的な理解、心理的援助を学ぶには、子どもと保護者との関係への理解と、保護者への働きかけ方の学びが統合的になされる必要がある。

子どもへの臨床活動と共に保護者との保育・教育相談が展開する保育現場（幼稚園、保育所、地域の子育て支援センターなど）で展開する相談の実際とその特色について、実践事例と対応させながら学ぶ。

カウンセリングの基礎理論

保育者の担う保育・教育相談の特質に対応する実践理論

相談関係を促進する相談者の関係認識と行為の基本

保育・教育相談と連携する関係機関における発達臨床活動の実際

事例研究（地域の関係機関や地域の子育て支援ネットワークとの連携による相談の展開事例等）

評価

レポート、試験（70%）、講義への参加態度（30%）を総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

赤井美智子「園における保育相談と地域の他機関との連携」ぶんしん出版

科目名	保育・教育相談		
担当教員名	赤井 美智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この教科は、子どもの臨床的な課題と子どもへの心理的援助の方法についての基盤的な理解の上に、保育者は保護者との保育・教育相談をどのように担うべきかという理論と技法の基本を学ぶための教科である。

現代社会では、子どもの臨床的課題の解決、発展には、子どもへの臨床的なアプロ-チばかりでなく、保護者との保育・教育相談やカウンセリングが並行することによる保護者と保育者との連携の必要性がますます高まっている。

保育・教育相談の基本となるカウンセリングの理論と相談者として必要とされる認識と行為の基本(カウンセリングマインド)についての学びを基盤として、幼稚園や保育所、子育て支援センターにおける保育現場での保育・教育相談をも担える保育者の養成を目標とする。

内容

まわりの環境に強く規定されている子どもの内面への臨床的な理解、心理的援助を学ぶには、子どもと保護者との関係への理解と、保護者への働きかけ方の学びが連結してなされる必要がある。

子どもへのカウンセリングマインドを基本とした臨床活動と共に、保育現場(幼稚園、保育所、地域の子育て支援センター等)で展開する保育・教育相談の実際とその特色について、実践事例と対応させながら学ぶ。

カウンセリングの基礎理論

保育者の担う保育・教育相談の特質に対応する実践理論

相談関係を促進する相談者の関係認識と行為(=カウンセリングマインド)の基本と相談技法

保育・教育相談と連携する関係機関における発達臨床活動の実際

事例研究(地域の関係機関や地域の子育て支援ネットワークとの連携による相談の展開事例等)

評価

レポート, 試験の成績(70%)と授業への参加態度(30%)を総合して評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

赤井美智子著「園における保育相談と地域の他機関との連携」ぶんしん出版

科目名	多文化教育		
担当教員名	星 三和子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3,4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

教育、特に乳幼児期の教育・保育は子どもが育つことについての文化的な背景と切り離すことができない。日本の文化のなかで人が育つ過程と他の文化(欧米、アフリカ、インド)のなかで育つ人々の比較を通して、人がどのように文化のなかで作られていくかを考える。また今日の多文化共生社会のなかで、文化的背景の異なる子どもたちが共に育つために大人が何をすべきかについて考える。

内容

資料、映像、図を用いて、できるだけわかりやすい授業をしたい。

1. 社会・文化のなかの社会化過程
2. 世界のさまざまな子育て
3. アフリカ、インドの伝統的育児
4. 西洋の育児の伝統
5. 日本の育児と子育て観
- 6~7. 社会化過程の日米比較
9. 保育の場での社会化の日仏比較
10. 国際比較からみる日本人の「自己」の発達
11. 世界の教育と文化
- 12~13. 多文化多民族社会における子どもと教育
14. 日本における多文化共生保育・教育
15. まとめ

評価

期末レポート(60点)、授業時のレポート(20点)および授業時の積極的な討論参加(20点)。合格点60点。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【推薦書】恒吉僚子 「人間形成の日米比較」中公新書 1992
 東洋 「日本人のしつけと教育」東京大学出版会1994
- 【参考図書】土居健郎 「甘えの構造」 弘文堂

科目名	児童学研究法		
担当教員名	長田 瑞恵、野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

検査法、質問紙法、観察法など、子どもをより深く理解するために児童学で用いられる様々な研究法について、よく用いられる方法を中心に概説する。

それぞれの研究法について、研究の具体例を交えながら、その背景にある理論、実際の実施方法、実施に際しての注意点などについて理解し、可能な限り学生自身体験を通して理解を深める。あわせて統計の基礎についても学ぶ。

内容

まず、児童学の研究法の種類とその特徴、長所や短所などを理解した上で、どのような場合にどのような研究法が用いられるのかを理解する。その後、研究例や実際の体験を通して、それぞれの研究法についての理解を深める。

1. 児童学の研究法の種類とその必要性
2. 児童学の研究法の種類とその必要性
3. 質問紙法 : 標準化された質問紙
4. 質問紙法 : 質問紙の作成方法
5. 質問紙法 : 統計基礎
6. 検査法
7. 検査法
8. 観察法
9. 観察法
10. 面接法
11. 事例研究法
12. 実践研究
13. 記録法
14. まとめ
15. 試験

評価

授業内のレポート60点、学期末の筆記試験40点として評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】松原達哉 『心理テスト法入門第4版<基礎知識と技術習得のために>』 日本文化科学社

【推薦書】保坂亨・中沢潤 『心理学マニュアル面接法』 北大路書房

鎌原雅彦 『心理学マニュアル質問紙法』 北大路書房

中沢潤 『心理学マニュアル観察法』 北大路書房

大野木裕明・中沢潤 『心理学マニュアル研究法レッスン』 北大路書房

秋田喜代美・藤江康彦(編) 『はじめての質的研究法 教育・学習編』 東京図書

科目名	保育方法		
担当教員名	槇谷 厚子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼児期における教育は、生涯にわたる人間形成の基礎を培うために大切なものです。

幼稚園、保育園は、幼児にとって初めての集団生活であり、そこで一人ひとりの成長を願い、ともに生活する保育者の役割は、きわめて重要です。その役割を確かめ、幼児期にふさわしい生活を支え、一人ひとりの成長に即した援助ができる保育者のあり方を考えます。

内容

幼稚園での日常の幼児の生活を、具体的に捉えつつ、各自が自分自身の問題として保育を考えられるよう、現場の幼児の姿を伝えていきます。実習などで各自が経験した幼児とのかかわりを思い出しながら、自分なりの保育観が描いていけるように考えています。

年間計画

- ・幼稚園って、どんなところだろう
- ・幼児が安心して、自分の思いを出せるようにするためには
- ・信頼関係を築くとは・・・
- ・「遊ぶことって 楽しい!」
- ・トラブルの大切さ
- ・人と関わることの心地よさが実感できる生活
- ・行事について・・・生活に変化と潤いを与えるために
- ・一人ひとりの充実感を支える 保育者のあり方とは
- ・一人ひとりの成長を どう捉えるか
- ・再び、幼稚園ってどんなところだろう そしてどんな保育者になりたい?

評価

出席50点(その都度小レポートあり)及びレポート50点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考図書】 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省

科目名	乳児保育		
担当教員名	帆足 暁子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3,4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

乳児保育 を基礎とする。現在、乳児保育を行う保育現場では、さまざまな問題を抱えている。発達障害の可能性が見られるような「抱っこを嫌がる乳児」「睡眠が安定しない乳児」「排泄への拘りが強い乳幼児」「不安定な乳児」「言葉の発達の遅れ」、また「虐待の可能性のある乳児」「病児への対応」「保護者対応」等である。これらの現状を踏まえ、子どもひとり一人を大切にする保育の在り方を模索する過程で、学生自身の乳児保育観を構築していくことを目的とする。また、乳児及び3歳未満児保育の中で学生自らがテ - マを選択し、学生自身の意欲に基づいて、自ら具体的に学ぶ - すなわち、保育課題に対する追求方法についても学ぶことを目的とする。

内容

保育現場の実践例からの「事例研究」及び、個人・グループにおける「テ - マ研究」の選択から分析まで、学生の主体性を尊重する。可能な限り、授業で提供される事例のみではなく、学生自身の乳児との体験や自分の乳児期の成育歴等、各自の体験の中から研究をすすめたい。この授業では、乳児の捉え方、課題の設定、研究の進め方、分析方法、研究結果の整理方法等を具体的に学習する。

また、乳児の映像等を活用して、乳児の心理や発達状況を捉える演習も行う。

評価

選択科目である以上、積極的な参加を期待する。

評価は、学生自身の積極性及び、研究発表や討論の内容による。

出欠席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。

毎日のコメント及びレポートを各々50点により評価を行い、総合60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】必要に応じて適宜紹介する。

科目名	乳児保育		
担当教員名	帆足 暁子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3,4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

乳児保育 を基礎とする。現在、乳児保育を行う保育現場では、さまざまな問題を抱えている。発達障害の可能性が見られるような「抱っこを嫌がる乳児」「睡眠が安定しない乳児」「排泄への拘りが強い乳幼児」「不安定な乳児」「言葉の発達の遅れ」、また「虐待の可能性のある乳児」「病児への対応」「保護者対応」等である。これらの現状を踏まえ、子どもひとり一人を大切に保育の在り方を模索する過程で、学生自身の乳児保育観を構築していくことを目的とする。また、乳児及び3歳未満児保育の中で学生自らがテ - マを選択し、学生自身の意欲に基づいて、自ら具体的に学ぶ - すなわち、保育課題に対する追求方法についても学ぶことを目的とする。

内容

保育現場の実践例からの「事例研究」及び、個人・グループにおける「テ - マ研究」の選択から分析まで、学生の主体性を尊重する。可能な限り、授業で提供される事例のみではなく、学生自身の乳児との体験や自分の乳児期の成育歴等、各自の体験の中から研究をすすめたい。この授業では、乳児の捉え方、課題の設定、研究の進め方、分析方法、研究結果の整理方法等を具体的に学習する。

また、乳児の映像等を活用して、乳児の心理や発達状況を捉える演習も行う。

評価

選択科目である以上、積極的な参加を期待する。

評価は、学生自身の積極性及び、研究発表や討論の内容による。

出欠席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。

毎日のコメント及びレポートを各々50点により評価を行い、総合60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】必要に応じて適宜紹介する。

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	A1クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

半期を通して、ピアノ技術習得のため、ピアノ実技を勉強していく。ピアノ演奏技術は保育者や教育者の音楽活動には、必要不可欠な要素であると共に、保育現場や教育現場においての自己表現の手段として求められるものである。

また、音楽の感性を磨き自己充実を図ることで、演奏をする快さを学び、更なる深い学びを得てもらいたいと考える。自己の中にある音楽をピアノという楽器を媒体として表現するには、伝える手段としての技術を獲得することが表現の喜びを伝える第一歩となるのである。

その基礎的な技術をそれぞれ個人で充実することで授業を進めていく。

内容

バイエル終了後のピアノ演奏、もしくはそれ以上のピアノ演奏を目的とする。

「ピアノ奏法」のなかでバイエルが終了見込みの学生及び、それ以上のレベルを持つ学生が履修する科目である。最初のガイダンスでピアノの担当教員と相談の上で履修登録を進める。半期で終了が見込めない学生は「ピアノ奏法」から取得する。

90分に約6・7人で個人レッスンを行う。授業を受けるにあたり毎回出される宿題を、一週間自己練習を行うことで進めていく授業である。家庭学習で指示を受けたことをこなすことが最も大切な条件であり、授業だけでこなすことは決してできない。

教本は個人レッスンであるので、担当教員が相談の上曲決めをし、本を指定する。

なお、学内のピアノ練習室はいつでも自由に練習することが可能であり、開門から閉門まで、日曜・祝日及び夏季、冬季、春季などの長期休暇も使用することができる。

評価

実技試験を行い評価する。

- ・ 授業数の三分の一以上の欠席者は、テストが受けられない。
- ・ 出席が満たされても、さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合はテストが受けられない。
- ・ バイエル終了予定で履修をしても、バイエルを終了できなかった場合は、試験を受けることができない

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1,2	ク ラ ス	A5クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

半期を通して、ピアノ技術習得のため、ピアノ実技を勉強していく。ピアノ演奏技術は保育者や教育者の音楽活動には、必要不可欠な要素であると共に、保育現場や教育現場においての自己表現の手段として求められるものである。

また、音楽の感性を磨き自己充実を図ることで、演奏をする快さを学び、更なる深い学びを得てもらいたいと考える。自己の中にある音楽をピアノという楽器を媒体として表現するには、伝える手段としての技術を獲得することが表現の喜びを伝える第一歩となるのである。

その基礎的な技術をそれぞれ個人で充実することで授業を進めていく。

内容

バイエル終了後のピアノ演奏、もしくはそれ以上のピアノ演奏を目的とする。

「ピアノ奏法」のなかでバイエルが終了見込みの学生及び、それ以上のレベルを持つ学生が履修する科目である。最初のガイダンスでピアノの担当教員と相談の上で履修登録を進める。半期で終了が見込めない学生は「ピアノ奏法」から取得する。

90分に約6・7人で個人レッスンを行う。授業を受けるにあたり毎回出される宿題を、一週間自己練習を行うことで進めていく授業である。家庭学習で指示を受けたことをこなすことが最も大切な条件であり、授業だけでこなすことは決してできない。

教本は個人レッスンであるので、担当教員が相談の上曲決めをし、本を指定する。

なお、学内のピアノ練習室はいつでも自由に練習することが可能であり、開門から閉門まで、日曜・祝日及び夏季、冬季、春季などの長期休暇も使用することができる。

評価

実技試験を行い評価する。

- ・ 授業数の三分の一以上の欠席者は、テストが受けられない。
- ・ 出席が満たされても、さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合はテストが受けられない。
- ・ バイエル終了予定で履修をしても、バイエルを終了できなかった場合は、試験を受けることができない

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1,2	ク ラ ス	A7クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

半期を通して、ピアノ技術習得のため、ピアノ実技を勉強していく。ピアノ演奏技術は保育者や教育者の音楽活動には、必要不可欠な要素であると共に、保育現場や教育現場においての自己表現の手段として求められるものである。

また、音楽の感性を磨き自己充実を図ることで、演奏をする快さを学び、更なる深い学びを得てもらいたいと考える。自己の中にある音楽をピアノという楽器を媒体として表現するには、伝える手段としての技術を獲得することが表現の喜びを伝える第一歩となるのである。

その基礎的な技術をそれぞれ個人で充実することで授業を進めていく。

内容

バイエル終了後のピアノ演奏、もしくはそれ以上のピアノ演奏を目的とする。

「ピアノ奏法」のなかでバイエルが終了見込みの学生及び、それ以上のレベルを持つ学生が履修する科目である。最初のガイダンスでピアノの担当教員と相談の上で履修登録を進める。半期で終了が見込めない学生は「ピアノ奏法」から取得する。

90分に約6・7人で個人レッスンを行う。授業を受けるにあたり毎回出される宿題を、一週間自己練習を行うことで進めていく授業である。家庭学習で指示を受けたことをこなすことが最も大切な条件であり、授業だけでこなすことは決してできない。

教本は個人レッスンであるので、担当教員が相談の上曲決めをし、本を指定する。

なお、学内のピアノ練習室はいつでも自由に練習することが可能であり、開門から閉門まで、日曜・祝日及び夏季、冬季、春季などの長期休暇も使用することができる。

評価

実技試験を行い評価する。

- ・ 授業数の三分の一以上の欠席者は、テストが受けられない。
- ・ 出席が満たされても、さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合はテストが受けられない。
- ・ バイエル終了予定で履修をしても、バイエルを終了できなかった場合は、試験を受けることができない

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	A8クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

半期を通して、ピアノ技術習得のため、ピアノ実技を勉強していく。ピアノ演奏技術は保育者や教育者の音楽活動には、必要不可欠な要素であると共に、保育現場や教育現場においての自己表現の手段として求められるものである。

また、音楽の感性を磨き自己充実を図ることで、演奏をする快さを学び、更なる深い学びを得てもらいたいと考える。自己の中にある音楽をピアノという楽器を媒体として表現するには、伝える手段としての技術を獲得することが表現の喜びを伝える第一歩となるのである。

その基礎的な技術をそれぞれ個人で充実することで授業を進めていく。

内容

バイエル終了後のピアノ演奏、もしくはそれ以上のピアノ演奏を目的とする。

「ピアノ奏法」のなかでバイエルが終了見込みの学生及び、それ以上のレベルを持つ学生が履修する科目である。最初のガイダンスでピアノの担当教員と相談の上で履修登録を進める。半期で終了が見込めない学生は「ピアノ奏法」から取得する。

90分に約6・7人で個人レッスンを行う。授業を受けるにあたり毎回出される宿題を、一週間自己練習を行うことで進めていく授業である。家庭学習で指示を受けたことをこなすことが最も大切な条件であり、授業だけでこなすことは決してできない。

教本は個人レッスンであるので、担当教員が相談の上曲決めをし、本を指定する。

なお、学内のピアノ練習室はいつでも自由に練習することが可能であり、開門から閉門まで、日曜・祝日及び夏季、冬季、春季などの長期休暇も使用することができる。

評価

実技試験を行い評価する。

- ・ 授業数の三分の一以上の欠席者は、テストが受けられない。
- ・ 出席が満たされても、さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合はテストが受けられない。
- ・ バイエル終了予定で履修をしても、バイエルを終了できなかった場合は、試験を受けることができない

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B1クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

半期を通して、ピアノ技術習得のため、ピアノ実技を勉強していく。ピアノ演奏技術は保育者や教育者の音楽活動には、必要不可欠な要素であると共に、保育現場や教育現場においての自己表現の手段として求められるものである。

また、音楽の感性を磨き自己充実を図ることで、演奏をする快さを学び、更なる深い学びを得てもらいたいと考える。自己の中にある音楽をピアノという楽器を媒体として表現するには、伝える手段としての技術を獲得することが表現の喜びを伝える第一歩となるのである。

その基礎的な技術をそれぞれ個人で充実することで授業を進めていく。

内容

バイエル終了後のピアノ演奏、もしくはそれ以上のピアノ演奏を目的とする。

「ピアノ奏法」のなかでバイエルが終了見込みの学生及び、それ以上のレベルを持つ学生が履修する科目である。最初のガイダンスでピアノの担当教員と相談の上で履修登録を進める。半期で終了が見込めない学生は「ピアノ奏法」から取得する。

90分に約6・7人で個人レッスンを行う。授業を受けるにあたり毎回出される宿題を、一週間自己練習を行うことで進めていく授業である。家庭学習で指示を受けたことをこなすことが最も大切な条件であり、授業だけでこなすことは決してできない。

教本は個人レッスンであるので、担当教員が相談の上曲決めをし、本を指定する。

なお、学内のピアノ練習室はいつでも自由に練習することが可能であり、開門から閉門まで、日曜・祝日及び夏季、冬季、春季などの長期休暇も使用することができる。

評価

実技試験を行い評価する。

- ・ 授業数の三分の一以上の欠席者は、テストが受けられない。
- ・ 出席が満たされても、さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合はテストが受けられない。
- ・ バイエル終了予定で履修をしても、バイエルを終了できなかった場合は、試験を受けることができない

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B2クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

半期を通して、ピアノ技術習得のため、ピアノ実技を勉強していく。ピアノ演奏技術は保育者や教育者の音楽活動には、必要不可欠な要素であると共に、保育現場や教育現場においての自己表現の手段として求められるものである。

また、音楽の感性を磨き自己充実を図ることで、演奏をする快さを学び、更なる深い学びを得てもらいたいと考える。自己の中にある音楽をピアノという楽器を媒体として表現するには、伝える手段としての技術を獲得することが表現の喜びを伝える第一歩となるのである。

その基礎的な技術をそれぞれ個人で充実することで授業を進めていく。

内容

バイエル終了後のピアノ演奏、もしくはそれ以上のピアノ演奏を目的とする。

「ピアノ奏法」のなかでバイエルが終了見込みの学生及び、それ以上のレベルを持つ学生が履修する科目である。最初のガイダンスでピアノの担当教員と相談の上で履修登録を進める。半期で終了が見込めない学生は「ピアノ奏法」から取得する。

90分に約6・7人で個人レッスンを行う。授業を受けるにあたり毎回出される宿題を、一週間自己練習を行うことで進めていく授業である。家庭学習で指示を受けたことをこなすことが最も大切な条件であり、授業だけでこなすことは決してできない。

教本は個人レッスンであるので、担当教員が相談の上曲決めをし、本を指定する。

なお、学内のピアノ練習室はいつでも自由に練習することが可能であり、開門から閉門まで、日曜・祝日及び夏季、冬季、春季などの長期休暇も使用することができる。

評価

実技試験を行い評価する。

- ・ 授業数の三分の一以上の欠席者は、テストが受けられない。
- ・ 出席が満たされても、さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合はテストが受けられない。
- ・ バイエル終了予定で履修をしても、バイエルを終了できなかった場合は、試験を受けることができない

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B3クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

半期を通して、ピアノ技術習得のため、ピアノ実技を勉強していく。ピアノ演奏技術は保育者や教育者の音楽活動には、必要不可欠な要素であると共に、保育現場や教育現場においての自己表現の手段として求められるものである。

また、音楽の感性を磨き自己充実を図ることで、演奏をする快さを学び、更なる深い学びを得てもらいたいと考える。自己の中にある音楽をピアノという楽器を媒体として表現するには、伝える手段としての技術を獲得することが表現の喜びを伝える第一歩となるのである。

その基礎的な技術をそれぞれ個人で充実することで授業を進めていく。

内容

バイエル終了後のピアノ演奏、もしくはそれ以上のピアノ演奏を目的とする。

「ピアノ奏法」のなかでバイエルが終了見込みの学生及び、それ以上のレベルを持つ学生が履修する科目である。最初のガイダンスでピアノの担当教員と相談の上で履修登録を進める。半期で終了が見込めない学生は「ピアノ奏法」から取得する。

90分に約6・7人で個人レッスンを行う。授業を受けるにあたり毎回出される宿題を、一週間自己練習を行うことで進めていく授業である。家庭学習で指示を受けたことをこなすことが最も大切な条件であり、授業だけでこなすことは決してできない。

教本は個人レッスンであるので、担当教員が相談の上曲決めをし、本を指定する。

なお、学内のピアノ練習室はいつでも自由に練習することが可能であり、開門から閉門まで、日曜・祝日及び夏季、冬季、春季などの長期休暇も使用することができる。

評価

実技試験を行い評価する。

- ・ 授業数の三分の一以上の欠席者は、テストが受けられない。
- ・ 出席が満たされても、さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合はテストが受けられない。
- ・ バイエル終了予定で履修をしても、バイエルを終了できなかった場合は、試験を受けることができない

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名	市川 節子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1,3	ク ラ ス	B4クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

半期を通して、ピアノ技術習得のため、ピアノ実技を勉強していく。ピアノ演奏技術は保育者や教育者の音楽活動には、必要不可欠な要素であると共に、保育現場や教育現場においての自己表現の手段として求められるものである。

また、音楽の感性を磨き自己充実を図ることで、演奏をする快さを学び、更なる深い学びを得てもらいたいと考える。自己の中にある音楽をピアノという楽器を媒体として表現するには、伝える手段としての技術を獲得することが表現の喜びを伝える第一歩となるのである。

その基礎的な技術をそれぞれ個人で充実することで授業を進めていく。

内容

バイエル終了後のピアノ演奏、もしくはそれ以上のピアノ演奏を目的とする。

「ピアノ奏法」のなかでバイエルが終了見込みの学生及び、それ以上のレベルを持つ学生が履修する科目である。最初のガイダンスでピアノの担当教員と相談の上で履修登録を進める。半期で終了が見込めない学生は「ピアノ奏法」から取得する。

90分に約6・7人で個人レッスンを行う。授業を受けるにあたり毎回出される宿題を、一週間自己練習を行うことで進めていく授業である。家庭学習で指示を受けたことをこなすことが最も大切な条件であり、授業だけでこなすことは決してできない。

教本は個人レッスンであるので、担当教員が相談の上曲決めをし、本を指定する。

なお、学内のピアノ練習室はいつでも自由に練習することが可能であり、開門から閉門まで、日曜・祝日及び夏季、冬季、春季などの長期休暇も使用することができる。

評価

実技試験を行い評価する。

- ・ 授業数の三分の一以上の欠席者は、テストが受けられない。
- ・ 出席が満たされても、さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合はテストが受けられない。
- ・ バイエル終了予定で履修をしても、バイエルを終了できなかった場合は、試験を受けることができない

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1,2	ク ラ ス	B5クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

半期を通して、ピアノ技術習得のため、ピアノ実技を勉強していく。ピアノ演奏技術は保育者や教育者の音楽活動には、必要不可欠な要素であると共に、保育現場や教育現場においての自己表現の手段として求められるものである。

また、音楽の感性を磨き自己充実を図ることで、演奏をする快さを学び、更なる深い学びを得てもらいたいと考える。自己の中にある音楽をピアノという楽器を媒体として表現するには、伝える手段としての技術を獲得することが表現の喜びを伝える第一歩となるのである。

その基礎的な技術をそれぞれ個人で充実することで授業を進めていく。

内容

バイエル終了後のピアノ演奏、もしくはそれ以上のピアノ演奏を目的とする。

「ピアノ奏法」のなかでバイエルが終了見込みの学生及び、それ以上のレベルを持つ学生が履修する科目である。最初のガイダンスでピアノの担当教員と相談の上で履修登録を進める。半期で終了が見込めない学生は「ピアノ奏法」から取得する。

90分に約6・7人で個人レッスンを行う。授業を受けるにあたり毎回出される宿題を、一週間自己練習を行うことで進めていく授業である。家庭学習で指示を受けたことをこなすことが最も大切な条件であり、授業だけでこなすことは決してできない。

教本は個人レッスンであるので、担当教員が相談の上曲決めをし、本を指定する。

なお、学内のピアノ練習室はいつでも自由に練習することが可能であり、開門から閉門まで、日曜・祝日及び夏季、冬季、春季などの長期休暇も使用することができる。

評価

実技試験を行い評価する。

- ・ 授業数の三分の一以上の欠席者は、テストが受けられない。
- ・ 出席が満たされても、さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合はテストが受けられない。
- ・ バイエル終了予定で履修をしても、バイエルを終了できなかった場合は、試験を受けることができない

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	A5クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ピアノ演奏技術の向上を目指して、各自の技術に応じた個人レッスン方式で授業を展開する。各自、自覚ある目標を担当の教員と相談の上、テキストを定め学習していく。

「ピアノ奏法」取得のために履修する学生及び、「ピアノ奏法」を取得した学生の更なる向上を目指し、受講する科目である。

ピアノ技術をそれぞれが個人で学びを定め、挑戦していくことに重点を置く

内容

初心者：大学へ入ってからピアノを始める学生または、始めたばかりの学生及びバイエル初級程度の技術を持つ学生は、技術習得のため「ピアノ奏法」から履修を始める。

90分を約6・7人の個人レッスンで行うため自分の学習次第でどんどん進行する。じっくりとピアノに向かい基礎からしっかりと学ぶ体制で履修することが望ましい。

ピアノ奏法の技術を獲得する方針として、「バイエルピアノ教則本」を終了することを目安にしているので、まったくの初心者はバイエルから取り組み、一曲でも先へ進み終了に向かえるようにしたい。

少し経験のある学生は担当教員と相談の上、教則本を決める。いずれにせよ、バイエル終了程度の技術の習得を目指す。

中級以上：すでに「ピアノ奏法」の単位を取り終え更なる技術習得のため履修を行うものとする。ピアノの運指技術にとどまらず、ピアノ表現さらには音楽表現など高度な演奏技術が習得できるよう履修する。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	A7クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ピアノ演奏技術の向上を目指して、各自の技術に応じた個人レッスン方式で授業を展開する。各自、自覚ある目標を担当の教員と相談の上、テキストを定め学習していく。

「ピアノ奏法」取得のために履修する学生及び、「ピアノ奏法」を取得した学生の更なる向上を目指し、受講する科目である。

ピアノ技術をそれぞれが個人で学びを定め、挑戦していくことに重点を置く

内容

初心者：大学へ入ってからピアノを始める学生または、始めたばかりの学生及びバイエル初級程度の技術を持つ学生は、技術習得のため「ピアノ奏法」から履修を始める。

90分を約6・7人の個人レッスンで行うため自分の学習次第でどんどん進行する。じっくりとピアノに向かい基礎からしっかりと学ぶ体制で履修することが望ましい。

ピアノ奏法の技術を獲得する方針として、「バイエルピアノ教則本」を終了することを目安にしているので、まったくの初心者はバイエルから取り組み、一曲でも先へ進み終了に向かえるようにしたい。

少し経験のある学生は担当教員と相談の上、教則本を決める。いずれにせよ、バイエル終了程度の技術の習得を目指す。

中級以上：すでに「ピアノ奏法」の単位を取り終え更なる技術習得のため履修を行うものとする。ピアノの運指技術にとどまらず、ピアノ表現さらには音楽表現など高度な演奏技術が習得できるよう履修する。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	A8クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ピアノ演奏技術の向上を目指して、各自の技術に応じた個人レッスン方式で授業を展開する。各自、自覚ある目標を担当の教員と相談の上、テキストを定め学習していく。

「ピアノ奏法」取得のために履修する学生及び、「ピアノ奏法」を取得した学生の更なる向上を目指し、受講する科目である。

ピアノ技術をそれぞれが個人で学びを定め、挑戦していくことに重点を置く

内容

初心者：大学へ入ってからピアノを始める学生または、始めたばかりの学生及びバイエル初級程度の技術を持つ学生は、技術習得のため「ピアノ奏法」から履修を始める。

90分を約6・7人の個人レッスンで行うため自分の学習次第でどんどん進行する。じっくりとピアノに向かい基礎からしっかりと学ぶ体制で履修することが望ましい。

ピアノ奏法の技術を獲得する方針として、「バイエルピアノ教則本」を終了することを目安にしているため、まったくの初心者はバイエルから取り組み、一曲でも先へ進み終了に向かえるようにしたい。

少し経験のある学生は担当教員と相談の上、教則本を決める。いずれにせよ、バイエル終了程度の技術の習得を目指す。

中級以上：すでに「ピアノ奏法」の単位を取り終え更なる技術習得のため履修を行うものとする。ピアノの運指技術にとどまらず、ピアノ表現さらには音楽表現など高度な演奏技術が習得できるよう履修する。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B1クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ピアノ演奏技術の向上を目指して、各自の技術に応じた個人レッスン方式で授業を展開する。各自、自覚ある目標を担当の教員と相談の上、テキストを定め学習していく。

「ピアノ奏法」取得のために履修する学生及び、「ピアノ奏法」を取得した学生の更なる向上を目指し、受講する科目である。

ピアノ技術をそれぞれが個人で学びを定め、挑戦していくことに重点を置く

内容

初心者：大学へ入ってからピアノを始める学生または、始めたばかりの学生及びバイエル初級程度の技術を持つ学生は、技術習得のため「ピアノ奏法」から履修を始める。

90分を約6・7人の個人レッスンで行うため自分の学習次第でどんどん進行する。じっくりとピアノに向かい基礎からしっかりと学ぶ体制で履修することが望ましい。

ピアノ奏法の技術を獲得する方針として、「バイエルピアノ教則本」を終了することを目安にしているので、まったくの初心者はバイエルから取り組み、一曲でも先へ進み終了に向かえるようにしたい。

少し経験のある学生は担当教員と相談の上、教則本を決める。いずれにせよ、バイエル終了程度の技術の習得を目指す。

中級以上：すでに「ピアノ奏法」の単位を取り終え更なる技術習得のため履修を行うものとする。ピアノの運指技術にとどまらず、ピアノ表現さらには音楽表現など高度な演奏技術が習得できるよう履修する。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B2クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ピアノ演奏技術の向上を目指して、各自の技術に応じた個人レッスン方式で授業を展開する。各自、自覚ある目標を担当の教員と相談の上、テキストを定め学習していく。

「ピアノ奏法」取得のために履修する学生及び、「ピアノ奏法」を取得した学生の更なる向上を目指し、受講する科目である。

ピアノ技術をそれぞれが個人で学びを定め、挑戦していくことに重点を置く

内容

初心者：大学へ入ってからピアノを始める学生または、始めたばかりの学生及びバイエル初級程度の技術を持つ学生は、技術習得のため「ピアノ奏法」から履修を始める。

90分を約6・7人の個人レッスンで行うため自分の学習次第でどんどん進行する。じっくりとピアノに向かい基礎からしっかりと学ぶ体制で履修することが望ましい。

ピアノ奏法の技術を獲得する方針として、「バイエルピアノ教則本」を終了することを目安にしているので、まったくの初心者はバイエルから取り組み、一曲でも先へ進み終了に向かえるようにしたい。

少し経験のある学生は担当教員と相談の上、教則本を決める。いずれにせよ、バイエル終了程度の技術の習得を目指す。

中級以上：すでに「ピアノ奏法」の単位を取り終え更なる技術習得のため履修を行うものとする。ピアノの運指技術にとどまらず、ピアノ表現さらには音楽表現など高度な演奏技術が習得できるよう履修する。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B3クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ピアノ演奏技術の向上を目指して、各自の技術に応じた個人レッスン方式で授業を展開する。各自、自覚ある目標を担当の教員と相談の上、テキストを定め学習していく。

「ピアノ奏法」取得のために履修する学生及び、「ピアノ奏法」を取得した学生の更なる向上を目指し、受講する科目である。

ピアノ技術をそれぞれが個人で学びを定め、挑戦していくことに重点を置く

内容

初心者：大学へ入ってからピアノを始める学生または、始めたばかりの学生及びバイエル初級程度の技術を持つ学生は、技術習得のため「ピアノ奏法」から履修を始める。

90分を約6・7人の個人レッスンで行うため自分の学習次第でどんどん進行する。じっくりとピアノに向かい基礎からしっかりと学ぶ体制で履修することが望ましい。

ピアノ奏法の技術を獲得する方針として、「バイエルピアノ教則本」を終了することを目安にしているので、まったくの初心者はバイエルから取り組み、一曲でも先へ進み終了に向かえるようにしたい。

少し経験のある学生は担当教員と相談の上、教則本を決める。いずれにせよ、バイエル終了程度の技術の習得を目指す。

中級以上：すでに「ピアノ奏法」の単位を取り終え更なる技術習得のため履修を行うものとする。ピアノの運指技術にとどまらず、ピアノ表現さらには音楽表現など高度な演奏技術が習得できるよう履修する。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名	市川 節子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	B4クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ピアノ演奏技術の向上を目指して、各自の技術に応じた個人レッスン方式で授業を展開する。各自、自覚ある目標を担当の教員と相談の上、テキストを定め学習していく。

「ピアノ奏法」取得のために履修する学生及び、「ピアノ奏法」を取得した学生の更なる向上を目指し、受講する科目である。

ピアノ技術をそれぞれが個人で学びを定め、挑戦していくことに重点を置く

内容

初心者：大学へ入ってからピアノを始める学生または、始めたばかりの学生及びバイエル初級程度の技術を持つ学生は、技術習得のため「ピアノ奏法」から履修を始める。

90分を約6・7人の個人レッスンで行うため自分の学習次第でどんどん進行する。じっくりとピアノに向かい基礎からしっかりと学ぶ体制で履修することが望ましい。

ピアノ奏法の技術を獲得する方針として、「バイエルピアノ教則本」を終了することを目安にしているので、まったくの初心者はバイエルから取り組み、一曲でも先へ進み終了に向かえるようにしたい。

少し経験のある学生は担当教員と相談の上、教則本を決める。いずれにせよ、バイエル終了程度の技術の習得を目指す。

中級以上：すでに「ピアノ奏法」の単位を取り終え更なる技術習得のため履修を行うものとする。ピアノの運指技術にとどまらず、ピアノ表現さらには音楽表現など高度な演奏技術が習得できるよう履修する。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	B5クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ピアノ演奏技術の向上を目指して、各自の技術に応じた個人レッスン方式で授業を展開する。各自、自覚ある目標を担当の教員と相談の上、テキストを定め学習していく。

「ピアノ奏法」取得のために履修する学生及び、「ピアノ奏法」を取得した学生の更なる向上を目指し、受講する科目である。

ピアノ技術をそれぞれが個人で学びを定め、挑戦していくことに重点を置く

内容

初心者：大学へ入ってからピアノを始める学生または、始めたばかりの学生及びバイエル初級程度の技術を持つ学生は、技術習得のため「ピアノ奏法」から履修を始める。

90分を約6・7人の個人レッスンで行うため自分の学習次第でどんどん進行する。じっくりとピアノに向かい基礎からしっかりと学ぶ体制で履修することが望ましい。

ピアノ奏法の技術を獲得する方針として、「バイエルピアノ教則本」を終了することを目安にしているので、まったくの初心者はバイエルから取り組み、一曲でも先へ進み終了に向かえるようにしたい。

少し経験のある学生は担当教員と相談の上、教則本を決める。いずれにせよ、バイエル終了程度の技術の習得を目指す。

中級以上：すでに「ピアノ奏法」の単位を取り終え更なる技術習得のため履修を行うものとする。ピアノの運指技術にとどまらず、ピアノ表現さらには音楽表現など高度な演奏技術が習得できるよう履修する。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術A		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	A1クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法 ・ 」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法 ・ 」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術A は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で欠かすことのできない『マーチ』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「声楽」

個人レッスン、重唱、コーラス、ミュージカルといったさまざまな形態を通して、歌唱力及び表現を身につける。発声法や歌唱法を少人数で、より本格的な指導が受けられる。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術A		
担当教員名	曾我 淑人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	A3クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術A は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で欠かすことのできない『マーチ』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「声楽」

個人レッスン、重唱、コーラス、ミュージカルといったさまざまな形態を通して、歌唱力及び表現を身につける。発声法や歌唱法を少人数で、より本格的な指導が受けられる。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術A		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	B1クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法 ・ 」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法 ・ 」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術A は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で欠かすことのできない『マーチ』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「声楽」

個人レッスン、重唱、コーラス、ミュージカルといったさまざまな形態を通して、歌唱力及び表現を身につける。発声法や歌唱法を少人数で、より本格的な指導が受けられる。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術A		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B2クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法 ・ 」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法 ・ 」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを实践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術A は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で欠かすことのできない『マーチ』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「声楽」

個人レッスン、重唱、コーラス、ミュージカルといったさまざまな形態を通して、歌唱力及び表現を身につける。発声法や歌唱法を少人数で、より本格的な指導が受けられる。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術A		
担当教員名	曾我 淑人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	B3クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法 ・ 」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法 ・ 」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術A は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で欠かすことのできない『マーチ』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「声楽」

個人レッスン、重唱、コーラス、ミュージカルといったさまざまな形態を通して、歌唱力及び表現を身につける。発声法や歌唱法を少人数で、より本格的な指導が受けられる。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術A		
担当教員名	市川 節子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	B4クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを实践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術A は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で欠かすことのできない『マーチ』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「声楽」

個人レッスン、重唱、コーラス、ミュージカルといったさまざまな形態を通して、歌唱力及び表現を身につける。発声法や歌唱法を少人数で、より本格的な指導が受けられる。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術A		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	B5クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法 ・ 」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法 ・ 」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを实践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術A は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で欠かすことのできない『マーチ』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「声楽」

個人レッスン、重唱、コーラス、ミュージカルといったさまざまな形態を通して、歌唱力及び表現を身につける。発声法や歌唱法を少人数で、より本格的な指導が受けられる。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術A		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	A8クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを实践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術A は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で欠かすことのできない『マーチ』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「声楽」

個人レッスン、重唱、コーラス、ミュージカルといったさまざまな形態を通して、歌唱力及び表現を身につける。発声法や歌唱法を少人数で、より本格的な指導が受けられる。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術B		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	A1クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術B は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『アニメソング』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「楽器演奏」

簡易楽器やその他の身近な楽器の演奏を行う。本大学では、合奏の時間が設けられておらず保育現場での合奏教材をここで学ぶのは大変有意義である。

「簡易楽器」と呼ばれる保育現場では一番活用される、すず・カスタネット・タンブリン・マラカスなどに加えて、トライアングル・木琴・ピアニカなどの楽器演奏を一つ一つの楽器を勉強しながら進める。

保育現場で求められる楽しい合奏のやり方、楽譜の作り方、演奏の仕方など「子ども」に向けた楽器演奏の実技を勉強する。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術B		
担当教員名	曾我 淑人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	A3クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術B は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『アニメソング』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「楽器演奏」

簡易楽器やその他の身近な楽器の演奏を行う。本大学では、合奏の時間が設けられておらず保育現場での合奏教材をここで学ぶのは大変有意義である。

「簡易楽器」と呼ばれる保育現場では一番活用される、すず・カスタネット・タンブリン・マラカスなどに加えて、トライアングル・木琴・ピアノカなどの楽器演奏を一つ一つの楽器を勉強しながら進める。

保育現場で求められる楽しい合奏のやり方、楽譜の作り方、演奏の仕方など「子ども」に向かった楽器演奏の実技を勉強する。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術B		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	A8クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術B は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『アニメソング』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「楽器演奏」

簡易楽器やその他の身近な楽器の演奏を行う。本大学では、合奏の時間が設けられておらず保育現場での合奏教材をここで学ぶのは大変有意義である。

「簡易楽器」と呼ばれる保育現場では一番活用される、すず・カスタネット・タンブリン・マラカスなどに加えて、トライアングル・木琴・ピアニカなどの楽器演奏を一つ一つの楽器を勉強しながら進める。

保育現場で求められる楽しい合奏のやり方、楽譜の作り方、演奏の仕方など「子ども」に向けた楽器演奏の実技を勉強する。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術B		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	B1クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術B は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『アニメソング』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「楽器演奏」

簡易楽器やその他の身近な楽器の演奏を行う。本大学では、合奏の時間が設けられておらず保育現場での合奏教材をここで学ぶのは大変有意義である。

「簡易楽器」と呼ばれる保育現場では一番活用される、すず・カスタネット・タンブリン・マラカスなどに加えて、トライアングル・木琴・ピアノカなどの楽器演奏を一つ一つの楽器を勉強しながら進める。

保育現場で求められる楽しい合奏のやり方、楽譜の作り方、演奏の仕方など「子ども」に向かった楽器演奏の実技を勉強する。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術B		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B2クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術B は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『アニメソング』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「楽器演奏」

簡易楽器やその他の身近な楽器の演奏を行う。本大学では、合奏の時間が設けられておらず保育現場での合奏教材をここで学ぶのは大変有意義である。

「簡易楽器」と呼ばれる保育現場では一番活用される、すず・カスタネット・タンブリン・マラカスなどに加えて、トライアングル・木琴・ピアニカなどの楽器演奏を一つ一つの楽器を勉強しながら進める。

保育現場で求められる楽しい合奏のやり方、楽譜の作り方、演奏の仕方など「子ども」に向けた楽器演奏の実技を勉強する。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術B		
担当教員名	曾我 淑人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	B3クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術B は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『アニメソング』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「楽器演奏」

簡易楽器やその他の身近な楽器の演奏を行う。本大学では、合奏の時間が設けられておらず保育現場での合奏教材をここで学ぶのは大変有意義である。

「簡易楽器」と呼ばれる保育現場では一番活用される、すず・カスタネット・タンブリン・マラカスなどに加えて、トライアングル・木琴・ピアノカなどの楽器演奏を一つ一つの楽器を勉強しながら進める。

保育現場で求められる楽しい合奏のやり方、楽譜の作り方、演奏の仕方など「子ども」に向けた楽器演奏の実技を勉強する。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術B		
担当教員名	市川 節子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	B4クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術B は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『アニメソング』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「楽器演奏」

簡易楽器やその他の身近な楽器の演奏を行う。本大学では、合奏の時間が設けられておらず保育現場での合奏教材をここで学ぶのは大変有意義である。

「簡易楽器」と呼ばれる保育現場では一番活用される、すず・カスタネット・タンブリン・マラカスなどに加えて、トライアングル・木琴・ピアノカなどの楽器演奏を一つ一つの楽器を勉強しながら進める。

保育現場で求められる楽しい合奏のやり方、楽譜の作り方、演奏の仕方など「子ども」に向けた楽器演奏の実技を勉強する。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術B		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	B5クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術B は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『アニメソング』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「楽器演奏」

簡易楽器やその他の身近な楽器の演奏を行う。本大学では、合奏の時間が設けられておらず保育現場での合奏教材をここで学ぶのは大変有意義である。

「簡易楽器」と呼ばれる保育現場では一番活用される、すず・カスタネット・タンブリン・マラカスなどに加えて、トライアングル・木琴・ピアニカなどの楽器演奏を一つ一つの楽器を勉強しながら進める。

保育現場で求められる楽しい合奏のやり方、楽譜の作り方、演奏の仕方など「子ども」に向かった楽器演奏の実技を勉強する。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術C		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	A1クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術C は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『ディズニー』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

「箏」

「わらべうた」や「日本古謡」を中心とした日本音楽の実技を箏の演奏で学んで行く。

日本の文化財として大切なわらべうたや古謡は、日本の子どもにとって大切な教材である。その様な歌を箏をとおして楽しく学ぶ。技術に応じて1人～3人までの合奏形態で行う。箏の合奏、箏と尺八の合奏など演奏会の形態も取る。初心者でも箏の演奏は楽しむことができる。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術C		
担当教員名	曾我 淑人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	A3クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術C は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『ディズニー』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

「箏」

「わらべうた」や「日本古謡」を中心とした日本音楽の実技を箏の演奏で学んで行く。

日本の文化財として大切なわらべうたや古謡は、日本の子どもにとって大切な教材である。その様な歌を箏をとおして楽しく学ぶ。技術に応じて1人～3人までの合奏形態で行う。箏の合奏、箏と尺八の合奏など演奏会の形態も取る。初心者でも箏の演奏は楽しむことができる。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術C		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	A8クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術C は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『ディズニー』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

「箏」

「わらべうた」や「日本古謡」を中心とした日本音楽の実技を箏の演奏で学んで行く。

日本の文化財として大切なわらべうたや古謡は、日本の子どもにとって大切な教材である。その様な歌を箏をとおして楽しく学ぶ。技術に応じて1人～3人までの合奏形態で行う。箏の合奏、箏と尺八の合奏など演奏会の形態も取る。初心者でも箏の演奏は楽しむことができる。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術C		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	B1クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術C は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『ディズニー』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

「箏」

「わらべうた」や「日本古謡」を中心とした日本音楽の実技を箏の演奏で学んで行く。

日本の文化財として大切なわらべうたや古謡は、日本の子どもにとって大切な教材である。その様な歌を箏をとおして楽しく学ぶ。技術に応じて1人～3人までの合奏形態で行う。箏の合奏、箏と尺八の合奏など演奏会の形態も取る。初心者でも箏の演奏は楽しむことができる。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術C		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B2クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術C は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『ディズニー』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

「箏」

「わらべうた」や「日本古謡」を中心とした日本音楽の実技を箏の演奏で学んで行く。

日本の文化財として大切なわらべうたや古謡は、日本の子どもにとって大切な教材である。その様な歌を箏をとおして楽しく学ぶ。技術に応じて1人～3人までの合奏形態で行う。箏の合奏、箏と尺八の合奏など演奏会の形態も取る。初心者でも箏の演奏は楽しむことができる。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術C		
担当教員名	曾我 淑人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	B3クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術C は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『ディズニー』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

「箏」

「わらべうた」や「日本古謡」を中心とした日本音楽の実技を箏の演奏で学んで行く。

日本の文化財として大切なわらべうたや古謡は、日本の子どもにとって大切な教材である。その様な歌を箏をとおして楽しく学ぶ。技術に応じて1人～3人までの合奏形態で行う。箏の合奏、箏と尺八の合奏など演奏会の形態も取る。初心者でも箏の演奏は楽しむことができる。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術C		
担当教員名	市川 節子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	B4クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術C は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『ディズニー』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

「箏」

「わらべうた」や「日本古謡」を中心とした日本音楽の実技を箏の演奏で学んで行く。

日本の文化財として大切なわらべうたや古謡は、日本の子どもにとって大切な教材である。その様な歌を箏をとおして楽しく学ぶ。技術に応じて1人～3人までの合奏形態で行う。箏の合奏、箏と尺八の合奏など演奏会の形態も取る。初心者でも箏の演奏は楽しむことができる。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術C		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	B5クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術C は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『ディズニー』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

「箏」

「わらべうた」や「日本古謡」を中心とした日本音楽の実技を箏の演奏で学んで行く。

日本の文化財として大切なわらべうたや古謡は、日本の子どもにとって大切な教材である。その様な歌を箏をとおして楽しく学ぶ。技術に応じて1人～3人までの合奏形態で行う。箏の合奏、箏と尺八の合奏など演奏会の形態も取る。初心者でも箏の演奏は楽しむことができる。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術D		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	A1クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術Dは下記の内容で、それぞれの実技の勉強をする。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場で大変役に立つ『保育行事の演奏曲』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「エレクトーン演奏」

鍵盤楽器の中でもエレクトーンは豊富な音色と、リズムとパーカッションの学びが他の鍵盤楽器には持っていない特色を有する楽器である。

クラシックもさることながら、クラシック以外のジャンルの演奏にこの楽器は大変力を発揮できる。シンセサイザーとコンピューター内臓で演奏の巾が広がり、機械の扱い方も応用できる。

保育現場で歌われる「アニメソング」や「ディズニーソング」などの演奏のリズミカルなところを中心に学ぶ。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術D		
担当教員名	曾我 淑人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	A3クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを实践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術Dは下記の内容で、それぞれの実技の勉強をする。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場で大変役に立つ『保育行事の演奏曲』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「エレクトーン演奏」

鍵盤楽器の中でもエレクトーンは豊富な音色と、リズムとパーカッションの学びが他の鍵盤楽器には持っていない特色を有する楽器である。

クラシックもさることながら、クラシック以外のジャンルの演奏にこの楽器は大変力を発揮できる。シンセサイザーとコンピューター内臓で演奏の巾が広がり、機械の扱い方も応用できる。

保育現場で歌われる「アニメソング」や「ディズニーソング」などの演奏のリズミカルなところを中心に学ぶ。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術D		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	A8クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術Dは下記の内容で、それぞれの実技の勉強をする。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場で大変役に立つ『保育行事の演奏曲』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「エレクトーン演奏」

鍵盤楽器の中でもエレクトーンは豊富な音色と、リズムとパーカッションの学びが他の鍵盤楽器には持っていない特色を有する楽器である。

クラシックもさることながら、クラシック以外のジャンルの演奏にこの楽器は大変力を発揮できる。シンセサイザーとコンピューター内臓で演奏の巾が広がり、機械の扱い方も応用できる。

保育現場で歌われる「アニメソング」や「ディズニーソング」などの演奏のリズミカルなところを中心に学ぶ。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術D		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	B1クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術Dは下記の内容で、それぞれの実技の勉強をする。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場で大変役に立つ『保育行事の演奏曲』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「エレクトーン演奏」

鍵盤楽器の中でもエレクトーンは豊富な音色と、リズムとパーカッションの学びが他の鍵盤楽器には持っていない特色を有する楽器である。

クラシックもさることながら、クラシック以外のジャンルの演奏にこの楽器は大変力を発揮できる。シンセサイザーとコンピューター内臓で演奏の巾が広がり、機械の扱い方も応用できる。

保育現場で歌われる「アニメソング」や「ディズニーソング」などの演奏のリズミカルなところを中心に学ぶ。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術D		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B2クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを实践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術Dは下記の内容で、それぞれの実技の勉強をする。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場で大変役に立つ『保育行事の演奏曲』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「エレクトーン演奏」

鍵盤楽器の中でもエレクトーンは豊富な音色と、リズムとパーカッションの学びが他の鍵盤楽器には持っていない特色を有する楽器である。

クラシックもさることながら、クラシック以外のジャンルの演奏にこの楽器は大変力を発揮できる。シンセサイザーとコンピューター内臓で演奏の巾が広がり、機械の扱い方も応用できる。

保育現場で歌われる「アニメソング」や「ディズニーソング」などの演奏のリズミカルなところを中心に学ぶ。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術D		
担当教員名	曾我 淑人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	B3クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法 ・ 」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法 ・ 」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術Dは下記の内容で、それぞれの実技の勉強をする。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場で大変役に立つ『保育行事の演奏曲』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「エレクトーン演奏」

鍵盤楽器の中でもエレクトーンは豊富な音色と、リズムとパーカッションの学びが他の鍵盤楽器には持っていない特色を有する楽器である。

クラシックもさることながら、クラシック以外のジャンルの演奏にこの楽器は大変力を発揮できる。シンセサイザーとコンピューター内臓で演奏の巾が広がり、機械の扱い方も応用できる。

保育現場で歌われる「アニメソング」や「ディズニーソング」などの演奏のリズミカルなところを中心に学ぶ。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術D		
担当教員名	市川 節子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	B4クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術Dは下記の内容で、それぞれの実技の勉強をする。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場で大変役に立つ『保育行事の演奏曲』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「エレクトーン演奏」

鍵盤楽器の中でもエレクトーンは豊富な音色と、リズムとパーカッションの学びが他の鍵盤楽器には持っていない特色を有する楽器である。

クラシックもさることながら、クラシック以外のジャンルの演奏にこの楽器は大変力を発揮できる。シンセサイザーとコンピューター内臓で演奏の巾が広がり、機械の扱い方も応用できる。

保育現場で歌われる「アニメソング」や「ディズニーソング」などの演奏のリズミカルなところを中心に学ぶ。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術D		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	B5クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、簡易楽器による合奏、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「合奏」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術Dは下記の内容で、それぞれの実技の勉強をする。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場で大変役に立つ『保育行事の演奏曲』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「エレクトーン演奏」

鍵盤楽器の中でもエレクトーンは豊富な音色と、リズムとパーカッションの学びが他の鍵盤楽器には持っていない特色を有する楽器である。

クラシックもさることながら、クラシック以外のジャンルの演奏にこの楽器は大変力を発揮できる。シンセサイザーとコンピューター内臓で演奏の巾が広がり、機械の扱い方も応用できる。

保育現場で歌われる「アニメソング」や「ディズニーソング」などの演奏のリズミカルなところを中心に学ぶ。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	歌唱法		
担当教員名	曾我 淑人、神谷 明美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

急速な変化を遂げる現代社会にあって、より人間らしく心豊かに生活していくために音楽は重要な役割を果たしている。その中でも歌唱はことばを伴っているため他の楽器とは異なり感情や情景など、より具体的な表現が可能である。しかしそのためにクリアしなければならない課題も多い。

この科目では様々な角度から歌唱における基本的な知識や技術を習得し、音楽の歓びを享受するとともに作品の理解を深め、いかに自己の描くイメージや思いをよりの確に表現するかを学んでいく。

またグループ活動に於いては各人が問題意識を持ち積極的且つ主体的に関り、相互信頼と協力を通して、幅広い音楽的能力の向上を図っていく。

内容

1. 音楽の基礎知識の学習 : 楽典及び声楽・器楽について。
2. 基本的発声法及び呼吸法 : 発声諸器官の構造及び機能の学習と実践。
3. 基礎的音感の習得 : コーリュウブンゲンや「わらべうた」を教材に、リズムや音程の正確な音感を養うと共に、初見視唱などの読譜力を身に付ける。
4. 歌唱法:教科書「みんなのうた」を使用し、レパートリーを広げながら楽しく伸びやかに歌うことを目的とする。そのために音楽と歌詞との関係や、作品の生まれた背景などを学習し、内容に即した唱法を学んでいく。
5. 鑑賞: 幼児音楽に限らず他のジャンルの音楽を鑑賞し、さまざまな角度から音楽を捉え、話し合いと実践を通して深い理解力と音楽性を身に付けていく。
6. 発表: 人形劇やオペレッタなどグループ発表によって歌唱へ積極的に関り、一つの作品を作り上げると共に、音楽面だけでなく責任感や信頼感、協調性、創造性など人間形成を図っていく。

評価

実技試験(60%) 鑑賞レポート(30%) 授業態度(10%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】小林美実 『幼児のうた楽譜集』、『コーリュウ・ブンゲン』、『コンコーネ』ほか

【推薦書】真篠将編著 『音楽通論』 全音楽譜出版社 761/M

科目名	歌唱法		
担当教員名	曾我 淑人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ここでは「歌唱法」で習得した知識や技術を更にグレードアップし、様々な演習を通して作品の理解を深め歌うことの喜びを体得する。また保育現場の環境や状況に合わせ、適宜対応できる多様な音楽的能力の獲得をねらいとする。

そして前期の経験を生かしオペレッタのグループ活動では、各人新たな課題を持って積極的に関わり、舞台発表を通して相互協力と信頼関係を築き、音楽的能力のみならず人間形成の向上も図っていく。

また手遊びや手作り楽器の発表では、レパートリーを増やすと共に子どもを対象とした演奏技法や指導法について学んでいく。

内容

- 1、発声法と音感訓練
- 2、新しい教科書「歌の本」を使用し多様な表現方法の習得
- 3、舞台発表のフィードバック
- 4、手遊びのグループ発表
- 5、手作り楽器の製作と演奏
- 6、オペレッタ発表

評価

授業態度(20%) 試験(70%) レポート(10%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書】加宮葵 『子どもが音楽を好きになるとき』 音楽之友社 376.157/K

畑中良輔 『日本名歌曲百選 詩の分析と解釈』 音楽之友社 911.66/N/1-2

科目名	歌唱法		
担当教員名	曾我 淑人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ここでは「歌唱法」で習得した知識や技術を更にグレードアップし、様々な演習を通して作品の理解を深め歌うことの喜びを体得する。また保育現場の環境や状況に合わせ、適宜対応できる多様な音楽的能力の獲得をねらいとする。

そして前期の経験を生かしオペレッタのグループ活動では、各人新たな課題を持って積極的に関わり、舞台発表を通して相互協力と信頼関係を築き、音楽的能力のみならず人間形成の向上も図っていく。

また手遊びや手作り楽器の発表では、レパートリーを増やすと共に子どもを対象とした演奏技法や指導法について学んでいく。

内容

- 1、発声法と音感訓練
- 2、新しい教科書「歌の本」を使用し多様な表現方法の習得
- 3、舞台発表のフィードバック
- 4、手遊びのグループ発表
- 5、手作り楽器の製作と演奏
- 6、オペレッタ発表

評価

授業態度(20%) 試験(70%) レポート(10%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書】加宮葵 『子どもが音楽を好きになるとき』 音楽之友社 376.157/K

畑中良輔 『日本名歌曲百選 詩の分析と解釈』 音楽之友社 911.66/N/1-2

科目名	造形基礎		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ考え心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳幼児児童期に保障していけるだろうか。

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形行動に無関心になっている学生に、造形行動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材(主に紙など)”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。

1. 紙との出会い 1
2. 紙との出会い 2
3. 紙との出会い 3
4. 段ボール箱との出会い 1
5. 段ボール箱との出会い 2
6. 段ボール箱との出会い 3
7. 段ボール箱との出会い 4
8. 段ボール箱との出会い 5
9. 紙との出会い 4
10. 紙との出会い 5
11. 紙との出会い 6
12. 紙の工夫 1
13. 紙の工夫 2
14. 紙の工夫 3
15. 紙の工夫 4

評価

演習を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料を基に書き加えて、自分自身の資料集を作り上げる(60%)。そのスケッチブックによって各々の感性、意欲について評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に定めない。必要に応じ授業中に紹介する。

科目名	造形基礎		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼稚園教育要領の第1章総則、第1 幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と、示している。また、保育所保育指針では第1章 総則、3 保育の原理の(3) 保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と、示している。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。

子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

内容

1. プロローグ・自然との出会い-1-
2. 自然との出会い-2-
3. 自然との出会い-3-
4. ものとの出会い-1-
5. ものとの出会い-2-
6. ものとの出会い-3-
7. ものとの出会い-4-
8. ものとの出会い-5-
9. ものとの出会い-6-
10. ひととの出会い-1-
11. ひととの出会い-2-
12. ひととの出会い-3-
13. 社会の事象と造形-1-
14. 社会の事象と造形-2-
15. エピローグ・社会の事象と造形-3-

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

演習にふさわしい服装と心構えで望むこと。

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

幼少年教育研究所編 『スペースデザイン』 チャイルド本社刊

科目名	造形基礎		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ考え心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳幼児児童期に保障していけるだろうか。

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形行動に無関心になっている学生に、造形行動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材(主に紙など)”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。

1. 紙との出会い 1
2. 紙との出会い 2
3. 紙との出会い 3
4. 段ボール箱との出会い 1
5. 段ボール箱との出会い 2
6. 段ボール箱との出会い 3
7. 段ボール箱との出会い 4
8. 段ボール箱との出会い 5
9. 紙との出会い 4
10. 紙との出会い 5
11. 紙との出会い 6
12. 紙の工夫 1
13. 紙の工夫 2
14. 紙の工夫 3
15. 紙の工夫 4

評価

演習を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料を基に書き加えて、自分自身の資料集を作り上げる(60%)。そのスケッチブックによって各々の感性、意欲について評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に定めない。必要に応じ授業中に紹介する。

科目名	造形基礎		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ考え心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳幼児児童期に保障していけるだろうか。

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形行動に無関心になっている学生に、造形行動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材(主に紙など)”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。

1. 紙との出会い 1
2. 紙との出会い 2
3. 紙との出会い 3
4. 段ボール箱との出会い 1
5. 段ボール箱との出会い 2
6. 段ボール箱との出会い 3
7. 段ボール箱との出会い 4
8. 段ボール箱との出会い 5
9. 紙との出会い 4
10. 紙との出会い 5
11. 紙との出会い 6
12. 紙の工夫 1
13. 紙の工夫 2
14. 紙の工夫 3
15. 紙の工夫 4

評価

演習を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料を基に書き加えて、自分自身の資料集を作り上げる(60%)。そのスケッチブックによって各々の感性、意欲について評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に定めない。必要に応じ授業中に紹介する。

科目名	造形基礎		
担当教員名	照沼 晃子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

乳児は泣き声や表情の変化などで、生きている感覚を全身で表わそうとする。そして環境・他者・そして自分と次第に出会っていく、このことが造形的な活動の始まりである。育ちの過程で多様に変化する出会い・感じ・関わり、その感性の軌跡が、乳幼児の造形である。保育者は、その‘生きている’感覚とどのように関わり、また共感し受けとめればよいのか、人的な環境や保育環境づくりの在り方などを学ぶ。

内容

ものや人との関わりあいの中で、素材と触れあい、自己表現していくことは、造形活動として大切な要素である。人と素材との営みを相互に融合させながら、感性の培いや創る喜びを体験的に理解していく。

<内容1 素材との触れ合い>

様々な描画材を体感する・・・クレヨン・パス・絵の具・フェルトペンなどの特性を知り、表現方法を深める。描画材料のもつ魅力をしることにより、描くことの開放感を味わう。

身近な素材の発見・・・紙、新聞紙、泥土、砂、水、葉っぱなど身近な可塑性のある素材を通して、表現の喜びを体感する。気づきやイメージをふくらませるキッカケをつくり、それぞれの材料の特性を知ることにより、保育に生かす力を身につける。

<内容2 自己表現>

発想を広げる・・・素材との触れ合いにより、そこから生まれるイメージを大切に、創ることの喜びを体験していく。描くことや、つくることによって生まれる発見や感動を味わうことにより、ものとの触れ合いを深めていく。

イメージからの発展・・・素材性を理解することにより、表現の幅を広げ、豊かな創造性を養っていく。形見つけや、イメージ探しなどにより、概念的な絵画のイメージを壊し、新たな表現活動へと発展していくことができる。子どものような自由な発想ができるように、いろいろな実技を通し学んでいく。

評価

体験的活動を通して、意欲ある主体的な関わりについてみていく。

出席 25%

スケッチブックの内容 25%

積極性 20%

テーマや素材への応答性 20%

その他 10%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】【推薦書】【参考図書】

「毎日が造形あそび0～5歳児」平田智久著、学研

科目名	造形基礎		
担当教員名	照沼 晃子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

乳児は泣き声や表情の変化などで、生きている感覚を全身で表わそうとする。そして環境・他者・そして自分と次第に出会っていく、このことが造形的な活動の始まりである。育ちの過程で多様に変化する出会い・感じ・関わり、その感性の軌跡が、乳幼児の造形である。保育者は、その‘生きている’感覚とどのように関わり、また共感し受けとめればよいのか、人的な環境や保育環境づくりの在り方などを学ぶ。

内容

ものや人との関わりあいの中で、素材と触れあい、自己表現していくことは、造形活動として大切な要素である。人と素材との営みを相互に融合させながら、感性の培いや創る喜びを体験的に理解していく。

<内容1 素材との触れ合い>

様々な描画材を体感する…クレヨン・パス・絵の具・フェルトペンなどの特性を知り、表現方法を深める。描画材料のもつ魅力をしることにより、描くことの開放感を味わう。

身近な素材の発見…紙、新聞紙、泥土、砂、水、葉っぱなど身近な可塑性のある素材を通して、表現の喜びを体感する。気づきやイメージをふくらませるキッカケをつくり、それぞれの材料の特性を知ることにより、保育に生かす力を身につける。

<内容2 自己表現>

発想を広げる…素材との触れ合いにより、そこから生まれるイメージを大切に、創ることの喜びを体験していく。描くことや、つくることによって生まれる発見や感動を味わうことにより、ものとの触れ合いを深めていく。

イメージからの発展…素材性を理解することにより、表現の幅を広げ、豊かな創造性を養っていく。形見つけや、イメージ探しなどにより、概念的な絵画のイメージを壊し、新たな表現活動へと発展していくことができる。子どものような自由な発想ができるように、いろいろな実技を通し学んでいく。

評価

体験的活動を通して、意欲ある主体的な関わりについてみていく。

出席 25%

スケッチブックの内容 25%

積極性 20%

テーマや素材への応答性 20%

その他 10%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】【推薦書】【参考図書】

「毎日が造形あそび0～5歳児」平田智久著、学研

科目名	造形基礎		
担当教員名	照沼 晃子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

乳児は泣き声や表情の変化などで、生きている感覚を全身で表わそうとする。そして環境・他者・そして自分と次第に出会っていく、このことが造形的な活動の始まりである。育ちの過程で多様に変化する出会い・感じ・関わり、その感性の軌跡が、乳幼児の造形である。保育者は、その‘生きている’感覚とどのように関わり、また共感し受けとめればよいのか、人的な環境や保育環境づくりの在り方などを学ぶ。

内容

ものや人との関わりあいの中で、素材と触れあい、自己表現していくことは、造形活動として大切な要素である。人と素材との営みを相互に融合させながら、感性の培いや創る喜びを体験的に理解していく。

<内容1 素材との触れ合い>

様々な描画材を体感する・・・クレヨン・パス・絵の具・フェルトペンなどの特性を知り、表現方法を深める。描画材料のもつ魅力をしることにより、描くことの開放感を味わう。

身近な素材の発見・・・紙、新聞紙、泥土、砂、水、葉っぱなど身近な可塑性のある素材を通して、表現の喜びを体感する。気づきやイメージをふくらませるキッカケをつくり、それぞれの材料の特性を知ることにより、保育に生かす力を身につける。

<内容2 自己表現>

発想を広げる・・・素材との触れ合いにより、そこから生まれるイメージを大切に、創ることの喜びを体験していく。描くことや、つくることによって生まれる発見や感動を味わうことにより、ものとの触れ合いを深めていく。

イメージからの発展・・・素材性を理解することにより、表現の幅を広げ、豊かな創造性を養っていく。形見つけや、イメージ探しなどにより、概念的な絵画のイメージを壊し、新たな表現活動へと発展していくことができる。子どものような自由な発想ができるように、いろいろな実技を通し学んでいく。

評価

体験的活動を通して、意欲ある主体的な関わりについてみていく。

出席 25%

スケッチブックの内容 25%

積極性 20%

テーマや素材への応答性 20%

その他 10%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】【推薦書】【参考図書】

「毎日が造形あそび0～5歳児」平田智久著、学研

科目名	身体表現基礎		
担当教員名	坪倉 紀代子、仁井田 千寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間の中に生まれる形のないもの(イメージ、感情、感動等)を、身体運動・動きにおきかえる活動を通して、感性豊かな学生の育成をはかるとともに、保育の中での幼児の身体活動をどのようにとらえ発展させていくかをあわせて考えていく。

内容

身体を解きほぐす

自身の身体への認識を深める

基本的な運動から身体表現へ

基本的な運動の理解

基本的な運動を発展させたあそび

運動を構成する要因への理解

運動を発展・展開させていく方法

子どもたちの身近なあそびから身体表現へ

各種ジャンケンゲーム、伝承あそび、集団あそび

手あそび、指あそびから全身を使った表現へ

リズムカルな運動、身体表現的なあそび

音楽にあわせてリズムカルに動く

いろいろな刺激に身体で反応する

のように動いてみる

ノートの作成に関して(以下の観点から授業内容の記録をする)

- ・授業内容
- ・<動詞>を集める
- ・<擬音語・擬態語>を集める
- ・自身の反応、仲間の反応(生理的、心理的、運動的側面から)
- ・五感がキャッチしたこと
- ・今後の課題、問題点、調べたこと
- ・子どもウォッチング
- ・全体的な感想

評価

出席状況、授業への取り組み方をベースに、実技試験の結果、レポート・記録ノート等の内容から総合的に判断する。出席点50%、実技試験40%、レポート10%で評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】レイチェル・カーソン 『センス・オブ・ワンダー』 新潮社 404/C

石亀泰雄 『さあ 森のようちえんへ』 ぱるす出版 376.1/I

レオ・バスカーリア 『葉っぱのフレディ』 童話屋 E/B

科目名	子どもと運動		
担当教員名	杉原 隆		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

教育や運動の指導は子どもの発達の特徴に応じて行われる必要があることは言うまでもない。しかしながら、発達に応じた指導とは具体的にどのようなことかについてはさまざまな考え方がある。この授業では、発達に応じた指導の基盤となる運動の発達段階とその特徴について講義する。すなわち、この授業の主なねらいは以下のものである。1) 人間の発達において運動がどのような意味を持ちどのように捉えられてきたかを理解する。2) 幼児期・児童期の運動発達の特徴を青年・成人期との対比で理解する。3) 運動の発達が精神的な発達とどのような関係を持っているかを理解する。4) これらをふまえて、子どもの発達の特徴に応じた運動指導のあり方について考える。

内容

- 人間にとっての運動の意味と価値
文化としての運動・スポーツ
- 発達の意味と発達観
伝統的な発達観と新しい生涯発達の考え方
- 運動発達の全体的な経過
発達の法則性
- 胎児・新生児の運動発達とその特徴
自発運動と新生児原始反射
- 乳児の運動発達とその特徴
初歩的随意運動の発達 運動と知的発達の未分化性 運動のかたちであらわれる個性
- 幼児・児童の運動発達とその特徴
基礎的運動パターンの習得と完成 運動コントロール能力発達の敏感期 知的発達と運動の関係
自己概念の発達と運動
- 青年期の運動発達とその特徴
体力発達の敏感期 体力要因の分化
- 幼児期の発達の特徴に応じた運動指導

評価

原則として毎時間行う小テストにより評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦図書 杉原隆編著 『新版幼児の体育』 建帛社

参考図書 日本スポーツ心理学会編 『スポーツ心理学事典』 大修館書店

科目名	子どもと運動		
担当教員名	杉原 隆		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

教育や運動の指導は子どもの発達的特徴に応じて行われる必要があることは言うまでもない。しかしながら、発達に応じた指導とは具体的にどのようなことかについてはさまざまな考え方がある。この授業では、発達に応じた指導の基盤となる運動の発達段階とその特徴について講義する。すなわち、この授業の主なねらいは以下のようである。1) 人間の発達において運動がどのような意味を持ちどのように捉えられてきたかを理解する。2) 幼児期・児童期の運動発達の特徴を青年・成人期との対比で理解する。3) 運動の発達が精神的な発達とどのような関係を持っているかを理解する。4) これらをふまえて、子どもの発達的特徴に応じた運動指導のあり方について考える。

内容

1. 人間にとっての運動の意味と価値

文化としての運動・スポーツ

2. 発達の意味と発達観

伝統的な発達観と新しい生涯発達の考え方

3. 運動発達の全体的な経過

発達の法則性

4. 胎児・新生児の運動発達とその特徴

自発運動と新生児原始反射

5. 乳児の運動発達とその特徴

初歩的随意運動の発達 運動と知的発達の未分化性 運動のかたちであられる個性

6. 幼児・児童の運動発達とその特徴

基礎的運動パターンの習得と完成 運動コントロール能力発達の敏感期 知的発達と運動の関係

自己概念の発達と運動

7. 青年期の運動発達とその特徴

体力発達の敏感期 体力要因の分化

8. 幼児期の発達的特徴に応じた運動指導

評価

原則として毎時間行う小テストにより評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦図書 杉原隆編著 『新版幼児の体育』 建帛社

参考図書 日本スポーツ心理学会編 『スポーツ心理学事典』 大修館書店

科目名	子どもと運動		
担当教員名	杉原 隆		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

教育や運動の指導は子どもの発達的特徴に応じて行われる必要があることは言うまでもない。しかしながら、発達に応じた指導とは具体的にどのようなことかについてはさまざまな考え方がある。この授業では、発達に応じた指導の基盤となる運動の発達段階とその特徴について講義する。すなわち、この授業の主なねらいは以下のようである。1) 人間の発達において運動がどのような意味を持ちどのように捉えられてきたかを理解する。2) 幼児期・児童期の運動発達の特徴を青年・成人期との対比で理解する。3) 運動の発達が精神的な発達とどのような関係を持っているかを理解する。4) これらをふまえて、子どもの発達的特徴に応じた運動指導のあり方について考える。

内容

1. 人間にとっての運動の意味と価値

文化としての運動・スポーツ

2. 発達の意味と発達観

伝統的な発達観と新しい生涯発達の考え方

3. 運動発達の全体的な経過

発達の法則性

4. 胎児・新生児の運動発達とその特徴

自発運動と新生児原始反射

5. 乳児の運動発達とその特徴

初歩的随意運動の発達 運動と知的発達の未分化性 運動のかたちであられる個性

6. 幼児・児童の運動発達とその特徴

基礎的運動パターンの習得と完成 運動コントロール能力発達の敏感期 知的発達と運動の関係

自己概念の発達と運動

7. 青年期の運動発達とその特徴

体力発達の敏感期 体力要因の分化

8. 幼児期の発達的特徴に応じた運動指導

評価

原則として毎時間行う小テストで評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦図書 杉原隆編著 『新版幼児の体育』 建帛社

参考図書 日本スポーツ心理学界編著 『スポーツ心理学事典』 大修館書店

科目名	保育内容総論		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育内容を捉える視点を養い、領域ごとに学ぶ保育内容を総合的に関連付けて学ぶことを目的とする。

また、現代社会とともに変化する子どもや親、幼稚園、保育所を取り巻く現状や課題について学ぶことで取り上げ、保育全体や保育方法をより深く捉え、実践に即して考える力を養う。

内容

以下の内容に沿って、授業をおこなう予定である。授業の中では、受講者ができるべく具体的なイメージを持って理解し学べるよう、視聴覚映像や資料等を用いていきたい。

1. 保育の基本

保育内容の概要

歴史的変遷

保育の特質

2. 保育における子どもの発達と生活

保育における一日の生活の流れ(乳児)

保育における一日の生活の流れ(幼児)

子どもの遊び

子どもの発達を捉える視点

3. 保育内容とその展開

保育計画と指導計画

記録の方法

4. 社会の変化と課題

子どもを取り巻く環境の変化

認定こども園

保育の質と評価

保育・教育の意味

評価

授業への参加姿勢及び課題の提出、学期末におこなう試験により評価をおこなう。

(評価の配分: 試験50%、授業への参加姿勢及び課題の提出50%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】民秋言・狐塚和江 『保育ライブラリー 保育内容総論』 北大路書房

【参考書】森上史朗編 『最新保育資料集』 ミネルヴァ書房

科目名	保育内容総論		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育内容を捉える視点を養い、領域ごとに学ぶ保育内容を総合的に関連付けて学ぶことを目的とする。

また、現代社会とともに変化する子どもや親、幼稚園、保育所を取り巻く現状や課題について学ぶことで取り上げ、保育全体や保育方法をより深く捉え、実践に即して考える力を養う。

内容

以下の内容に沿って、授業をおこなう予定である。授業の中では、受講者がなるべく具体的なイメージを持って理解し学べるよう、視聴覚映像や資料等を用いていきたい。

1. 保育の基本

保育内容の概要

歴史的変遷

保育の特質

2. 保育における子どもの発達と生活

保育における一日の生活の流れ(乳児)

保育における一日の生活の流れ(幼児)

子どもの遊び

子どもの発達を捉える視点

3. 保育内容とその展開

保育計画と指導計画

記録の方法

4. 社会の変化と課題

子どもを取り巻く環境の変化

認定こども園

保育の質と評価

保育・教育の意味

評価

授業への参加姿勢及び課題の提出、学期末におこなう試験により評価をおこなう。

(評価の配分: 試験50%、授業への参加姿勢及び課題の提出50%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】民秋言・狐塚和江 『保育ライブラリー 保育内容総論』 北大路書房

【参考書】森上史朗編 『最新保育資料集』 ミネルヴァ書房

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	堂本 真実子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領および保育所保育指針において示されている領域「健康」の内容とねらいについて学ぶことが目的です。幼児期は、生涯にわたる心身の健康の基礎を培い、自ら健康に生活しようとする意欲を育てる大切な時期です。

この授業では、幼児期の身体面、運動面、精神面の発達と特徴をおさえ、幼児の発達において遊びが重要であることを学びます。また、現代の子どもの生活環境をふまえながら、子どもにふさわしい生活とは何かにつて、運動遊びや、生活リズム、基本的生活習慣、安全の問題から考えて行きます。

内容

1. 「健康」とは何か
2. 領域「健康」のねらいと内容
3. 子どもの健康と現代の生活環境
4. 身体の発達
5. 運動能力の発達
6. 心の発達
7. 子どもの体力づくりとスポーツ指導
8. 子どもの健康と運動遊び
9. 子どもの遊びを支える保育者の役割
10. 子どもの遊びと環境の構成
11. 基本的生活習慣の形成（生活リズム）
12. 基本的生活習慣の形成（園での生活・食事・アレルギー）
13. 安全教育（事故と対応・けがや病気とその予防）
14. 安全教育（安全指導と避難訓練など）
15. まとめと現代的課題

評価

平常点（出席および課題の状況）40点

レポート 60点

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】倉持清美・河邊貴子・田代幸代（編著）『事例で学ぶ保育内容＜領域＞』 萌文書林

【推薦書】杉原隆・柴崎正行（編著）『保育内容「健康」』 ミネルヴァ書房

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	吉田 伊津美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「健康」について、乳幼児期の健康の位置づけ、領域「健康」のねらいと内容について学習するとともに、幼児の健康に関わる身体的側面、運動的側面、精神的側面の発達について学んでいきます。

領域「健康」は幼児の心と体の健康と育ちを中心に扱う領域です。幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される身体的特徴、運動的特徴、精神的特徴のいずれにおいても、幼児期には大人と違った特徴があります。これらについて理解することにより、より適切な指導（かかわり）ができるようになることを目指します。また、幼児にとっての遊びの意義、特に運動遊びについて幼児の発達との関連で学習していきます。

内容

教科書を中心に、以下の内容についてお話していきます。また、学習した内容について演習を通して理解を深めていきます。

1	「健康」とは
2	乳幼児の健康について
3	領域「健康」のねらいと内容
4	領域「健康」の指導の基本
5	「遊び」とは
6	乳幼児期の身体発達の特徴
7	乳幼児期の生理的機能の発達の特徴
8	乳幼児期の運動発達の特徴
9	生活習慣の確立と関連動作の発達
10	情緒の発達と運動
11	社会性の発達と運動
12	自己概念の発達と運動
13	知的能力の発達と運動
14	安全の指導とその配慮
15	試験

評価

平常点を60点（ ）、試験40点（ ）とし、総合的に評価します。

出席：毎回授業終了時に簡単な課題を課します。出席とともにこれを平常点として評価します。

試験：授業内容に関する理解度を論述にて評価します。

なお、試験はテキストおよびノートを持ち込みは不可とします。また、出席回数の不足する者は受験資格がありません。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「演習 保育内容健康」 河邊貴子(編著) 建帛社 2008 (1,470円)

【参考図書】文部省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 2008 (200円)

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	吉田 伊津美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「健康」について、乳幼児期の健康の位置づけ、領域「健康」のねらいと内容について学習するとともに、幼児の健康に関わる身体的側面、運動的側面、精神的側面の発達について学んでいきます。

領域「健康」は幼児の心と体の健康と育ちを中心に扱う領域です。幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される身体的特徴、運動的特徴、精神的特徴のいずれにおいても、幼児期には大人と違った特徴があります。これらについて理解することにより、より適切な指導（かかわり）ができるようになることを目指します。また、幼児にとっての遊びの意義、特に運動遊びについて幼児の発達との関連で学習していきます。

内容

教科書を中心に、以下の内容についてお話していきます。また、学習した内容について演習を通して理解を深めていきます。

1	「健康」とは
2	乳幼児の健康について
3	領域「健康」のねらいと内容
4	領域「健康」の指導の基本
5	「遊び」とは
6	乳幼児期の身体発達の特徴
7	乳幼児期の生理的機能の発達の特徴
8	乳幼児期の運動発達の特徴
9	生活習慣の確立と関連動作の発達
10	情緒の発達と運動
11	社会性の発達と運動
12	自己概念の発達と運動
13	知的能力の発達と運動
14	安全の指導とその配慮
15	試験

評価

平常点を60点（ ）、試験40点（ ）とし、総合的に評価します。

出席：毎回授業終了時に簡単な課題を課します。出席とともにこれを平常点として評価します。

試験：授業内容に関しての理解度を論述にて評価します。

なお、試験はテキストおよびノートを持ち込みは不可とします。また、出席回数の不足する者は受験資格がありません。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「演習 保育内容健康」 河邊貴子(編著) 建帛社 2008 (1,470円)

【参考図書】文部省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 2008 (200円)

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

保育における「環境」とは何か、子どもの発達や遊び、保育者の役割に関する基本的知識を身につけ、乳幼児期の環境の重要性を理解する。また、自分の周囲の環境をあらためて意識しつつ現代社会における保育・教育をめぐる状況について考察し、理解を深める。その上で、保育の場における保育者の指導や実践に関するイメージを培うことを目的とする。事例やビデオなどいくつかの資料を用いたり、グループディスカッションをおこなったり発表の機会を設けるなど、受講者が身近な問題として環境を捉え具体的に考えることができるようにしたい。

内容

以下の内容で授業をおこなう予定である。

1.概説

- (1) 保育における「環境」とは
- (2) 保育内容「環境」
- (3) 遊びと環境

2.幼児の育ちと環境

- (4) 子どもの発達
- (5) 幼児期の学び
- (6) 子どもと自然

3.保育者と環境

- (7) 生活環境と保育
- (8) 保育者の環境構成
- (9) 保育者の環境構成

4.保育の場と環境

- (10) 環境と保育計画
- (11) 記録

5.日本社会における保育

- (12) 保育と子育てを取り巻く日本の社会状況
- (13) 地域における連携 /
- (14) 世界の保育・幼児教育
- (15) 今日の社会における保育者の専門性とは

評価

出席点（30点）、授業時の課題提出（20点）、期末レポート（50点）による評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

無藤隆・福元真由美編 『環境』 萌文書林

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

保育における「環境」とは何か、子どもの発達や遊び、保育者の役割に関する基本的知識を身につけ、乳幼児期の環境の重要性を理解する。また、自分の周囲の環境をあらためて意識しつつ現代社会における保育・教育をめぐる状況について考察し、理解を深める。その上で、保育の場における保育者の指導や実践に関するイメージを培うことを目的とする。事例やビデオなどいくつかの資料を用いたり、グループディスカッションをおこなったり発表の機会を設けるなど、受講者が身近な問題として環境を捉え具体的に考えることができるようにしたい。

内容

以下の内容で授業をおこなう予定である。

1.概説

- (1) 保育における「環境」とは
- (2) 保育内容「環境」
- (3) 遊びと環境

2.幼児の育ちと環境

- (4) 子どもの発達
- (5) 幼児期の学び
- (6) 子どもと自然

3.保育者と環境

- (7) 生活環境と保育
- (8) 保育者の環境構成
- (9) 保育者の環境構成

4.保育の場と環境

- (10) 環境と保育計画
- (11) 記録

5.日本社会における保育

- (12) 保育と子育てを取り巻く日本の社会状況
- (13) 地域における連携 /
- (14) 世界の保育・幼児教育
- (15) 今日の社会における保育者の専門性とは

評価

出席点（30点）、授業時の課題提出（20点）、期末レポート（50点）による評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

無藤隆・福元真由美編 『環境』 萌文書林

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

保育における「環境」とは何か、子どもの発達や遊び、保育者の役割に関する基本的知識を身につけ、乳幼児期の環境の重要性を理解する。また、自分の周囲の環境をあらためて意識しつつ現代社会における保育・教育をめぐる状況について考察し、理解を深める。その上で、保育の場における保育者の指導や実践に関するイメージを培うことを目的とする。事例やビデオなどいくつかの資料を用いたり、グループディスカッションをおこなったり発表の機会を設けるなど、受講者が身近な問題として環境を捉え具体的に考えることができるようにしたい。

内容

以下の内容で授業をおこなう予定である。

1.概説

- (1) 保育における「環境」とは
- (2) 保育内容「環境」
- (3) 遊びと環境

2.幼児の育ちと環境

- (4) 子どもの発達
- (5) 幼児期の学び
- (6) 子どもと自然

3.保育者と環境

- (7) 生活環境と保育
- (8) 保育者の環境構成
- (9) 保育者の環境構成

4.保育の場と環境

- (10) 環境と保育計画
- (11) 記録

5.日本社会における保育

- (12) 保育と子育てを取り巻く日本の社会状況
- (13) 地域における連携 /
- (14) 世界の保育・幼児教育
- (15) 今日の社会における保育者の専門性とは

評価

出席点（30点）、授業時の課題提出（20点）、期末レポート（50点）による評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

無藤隆・福元真由美編 『環境』 萌文書林

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	宮崎 豊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」に示されている「人間関係」の指導法について学ぶ教科である。

この教科では、乳幼児における人間関係の芽生えを育てるために必要な基盤的な環境と、その発達の道すじ、と質的な変化・発展への理解を深める。

そして、高度な物質文明と、都市化、少子化が進む現代社会においては、乳幼児に豊かな人間関係体験や人間関係認識が育ち、人とかがわり合う力が伸びるような環境をどのように保障すべきなのか、保育者は乳幼児集団において、個々の子どもたちへどのような配慮や具体的な援助を心がける必要があるかを探求することを目標とする。

内容

乳幼児における対人関係の芽生えを大切にし、対人関係体験の幅を広げるために一人一人の子どもにどのように寄り添い、援助していくかという人間関係の指導法の基礎理論を学んでから、具体的な乳幼児の生活場面や実習場面の記録などを資料にして、人間関係の把握や保育者のかかわり方についての考えを深めていく活動を行う。

多様な人間関係状況における子どもの心理と表現の意味、人間関係の展開などを丁寧に把握する活動の過程で、子ども理解を深め、乳幼児期における人間関係の育ちを大切にし、暖かく援助しながら伸ばす方法を自己の子ども時代への回顧法や現在の学生生活における対人関係分析、グループ討議を導入しながら探求する。

今、なぜ人間関係か

人間関係をとらえる視点

人間関係の発達

こどもと人間関係（家庭、地域、集団、社会文化の中で育つ人間関係）

保育と人間関係

個と集団

評価

レポート（60%）、学習への参加状況（40%）を総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

畠中徳子、赤井美智子他 「人間関係論－かかわり合い、育ち合い」 不昧堂

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	宮崎 豊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」に示されている「人間関係」の指導法について学ぶ教科である。この教科では、乳幼児における人間関係の芽生えを育てるために必要な基盤的な環境と、その発達の道すじと質的な変化・発展への理解を深める。

そして、高度な物質文明と、都市化、少子化が進む現代社会において、乳幼児に豊かな人間関係体験や人間関係認識が育ち、人とのかかわり合う力が伸びるような環境をどのように保障すべきなのか、保育者は乳幼児集団において、どのような配慮や具体的な援助を心がけることが必要かについて探求することを目標とする。

内容

乳幼児における対人関係の芽生えを大切にし、対人関係体験の幅を広げるために一人一人の子どもにどのように寄り添い、援助していくかという人間関係の指導法の基礎理論を学んでから、具体的な乳幼児の生活場面や実習場面の記録などを資料にして、人間関係の把握や保育者のかかわり方についての考察を深めていく活動を行う。

多様な人間関係状況における子どもの心理と表現の意味、人間関係の展開などを丁寧に把握する活動の過程で、子ども理解を深め、乳幼児期における人間関係の育ちを大切にし、暖かく援助しながら伸ばす方法を自己の子ども時代への回顧法、学生生活における対人関係の分析、グループ討議等も導入しながら探求する。

今、なぜ人間関係か

人間関係をとらえる視点

人間関係の発達

こどもと人間関係（家庭、地域、集団、社会文化の中で育つ人間関係）

保育と人間関係

個と集団

評価

レポート成績（60%）と授業への参加態度（40%）を総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

畠中徳子、赤井美智子他共著 「人間関係 - かかわりあい・育ちあい」 不昧堂出版

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	赤井 美智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」に示されている「人間関係」の指導法について学ぶ教科である。
この教科では、乳幼児における人間関係の芽生えを育てるために必要な基盤的な環境と、その発達の道すじと質的な変化・発展への理解を深める。そして、高度な物質文明と、都市化、少子化が進む現代社会において、乳幼児に豊かな人間関係体験や人間関係認識が育ち、人とかがわり合う力が伸びるような環境をどのように保障すべきなのか、保育者は幼稚園や保育所の乳幼児集団において、どのような環境への配慮や具体的な援助が必要なのかについて探求することを目標とする。

内容

乳幼児における対人関係の芽生えを大切にし、対人関係体験の幅を広げるために一人一人の子どもにどのように寄り添い、援助していくかという人間関係の指導法の基礎理論を学んでから、具体的な乳幼児の生活場面や実習場面の記録などを資料にして、人間関係の把握や保育者のかかわり方についての考察を深めていく活動を行う。

多様な人間関係状況における子どもの心理と表現の意味、人間関係の展開などを丁寧に把握する活動の過程で、子ども理解を深め、乳幼児期における人間関係の育ちを大切にし、暖かく援助しながら伸ばす方法を自己の子ども時代への振り返りや現在の学生としての自分の対人関係の分析、グループ討議を導入しながら探求する。

今、なぜ人間関係か 人間関係をとらえる視点 人間関係の発達 こどもと人間関係（家庭、地域、集団、社会文化の中で育つ人間関係） 保育と人間関係 個と集団

また、ビデオを使用し、保育の中での指導のあり方を確認することも試みる。

評価

レポート（60％）、集団活動への参加学習状況（40％）を総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】畠中徳子、赤井美智子他 『人間関係 - かかわり合い、育ち合い - 』 不昧堂

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	赤井 美智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」に示されている「人間関係」の指導法について学ぶ教科である。
この教科では、乳幼児における人間関係の芽生えを育てるために必要な基盤的な環境と、その発達の道すじと質的な変化・発展への理解を深める。そして、高度な物質文明と、都市化、少子化が進む現代社会において、乳幼児に豊かな人間関係体験や人間関係認識が育ち、人とかがわり合う力が伸びるような環境をどのように保障すべきなのか、保育者は幼稚園や保育所の乳幼児集団において、どのような環境への配慮や具体的な援助が必要なのかについて探求することを目標とする。

内容

乳幼児における対人関係の芽生えを大切にし、対人関係体験の幅を広げるために一人一人の子どもにどのように寄り添い、援助していくかという人間関係の指導法の基礎理論を学んでから、具体的な乳幼児の生活場面や実習場面の記録などを資料にして、人間関係の把握や保育者のかかわり方についての考察を深めていく活動を行う。

多様な人間関係状況における子どもの心理と表現の意味、人間関係の展開などを丁寧に把握する活動の過程で、子ども理解を深め、乳幼児期における人間関係の育ちを大切にし、暖かく援助しながら伸ばす方法を自己の子ども時代への振り返りや現在の学生としての自分の対人関係の分析、グループ討議を導入しながら探求する。

今、なぜ人間関係か 人間関係をとらえる視点 人間関係の発達 こどもと人間関係（家庭、地域、集団、社会文化の中で育つ人間関係） 保育と人間関係 個と集団

また、ビデオを使用し、保育の中での指導のあり方を確認することも試みる。

評価

レポート（60％）、集団活動への参加学習状況（40％）を総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】畠中徳子、赤井美智子他 『人間関係 - かかわり合い、育ち合い - 』 不昧堂

科目名	保育内容の指導法（言葉）		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための科目であり、幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」に関して学ぶことが基本となるが、それに留まらず、乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に考えていきたい。絵本等の児童文化財についても、保育の観点から取り上げる。

ビデオ教材や保育実践記録を用いて、実際の保育事例を手がかりに、遊びを通して言葉への興味・関心を育て、言葉に対する感覚を養うということについて考えていく。後半には、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評することも行いたい。

受講することでコミュニケーションと文化について考察すると共に、文化の受け手としてだけでなく作り手としての自己を啓発することを望むものである。

内容

- 1 インTRODakション：子どもの言葉は何を私たちに伝えるのか？
子どもの詩と類人猿のコミュニケーション行動研究の知見を手がかりに
- 2 コミュニケーション能力の発達
- 3 実際の子どもの姿から考える
 - 3 - 1 子どものコミュニケーション様式
 - 3 - 2 遊びの中の言葉 / ごっこ遊びの中での会話
 - 3 - 3 保育者の言葉と援助
- 4 絵本・物語とイメージーション
 - 4 - 1 絵本との出会い
 - 4 - 2 ことば遊び / 劇遊び
 - 4 - 3 簡単なペープサート作成と劇遊び体験
- 5 文字・数・記号の獲得と保育
- 6 気になる言葉の遅れや問題
- 7 絵本作りと合評

評価

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書解説、（他に毎回プリント資料配布）

【推薦書】

【参考図書】授業開始時に指示する

科目名	保育内容の指導法（言葉）		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための科目であり、幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」に関して学ぶことが基本となるが、それに留まらず、乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に考えていきたい。絵本等の児童文化財についても、保育の観点から取り上げる。

ビデオ教材や保育実践記録を用いて、実際の保育事例を手がかりに、遊びを通して言葉への興味・関心を育て、言葉に対する感覚を養うということについて考えていく。後半には、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評することも行いたい。

受講することでコミュニケーションと文化について考察すると共に、文化の受け手としてだけでなく作り手としての自己を啓発することを望むものである。

内容

- 1 イン트로ダクション：子どもの言葉は何を私たちに伝えるのか？
子どもの詩と類人猿のコミュニケーション行動研究の知見を手がかりに
- 2 コミュニケーション能力の発達
- 3 実際の子どもの姿から考える
 - 3 - 1 子どものコミュニケーション様式
 - 3 - 2 遊びの中の言葉 / ごっこ遊びの中での会話
 - 3 - 3 保育者の言葉と援助
- 4 絵本・物語とイメージーション
 - 4 - 1 絵本との出会い
 - 4 - 2 ことば遊び / 劇遊び
 - 4 - 3 簡単なペープサート作成と劇遊び体験
- 5 文字・数・記号の獲得と保育
- 6 気になる言葉の遅れや問題
- 7 絵本作りと合評

評価

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書解説、（他に毎回プリント資料配布）

【推薦書】

【参考図書】授業開始時に指示する

科目名	保育内容の指導法（音楽表現）		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「ピアノ奏法」を取得し、さらに学んだ技術を、実際の童謡や子どもの歌の伴奏に活用する技術を学ぶ。子どもにとってうたいやすい伴奏とはどのようなものなのか、保育者にとって弾きやすい伴奏とはどのようなものなのか、さらに伴奏で音楽表現を豊かにするにはどのようにしていくのかを勉強する。

編曲法をベースに自分でピアノの編曲を行い、身につけていく。

内容

- 音楽理論をしっかり理解する。
- 理論を応用した編曲法を学ぶ
- 各自の技術に合わせた無理のない伴奏編曲をする
- 個性を生かした編曲を学ぶ

このような基礎学習から次の項目をマスターしていく

- 伴奏の難易度かわらずどのような伴奏でも弾くことができる
- 伴奏譜がなくても考えて伴奏ができる
- 自在に楽譜を書くことができる
- 子ども主体の音楽が展開できる

上記の内容でクラスの進度を見ながら進めていく。

評価

ペーパーテスト、ノート提出、授業への取り組みの三点で決定する。

ペーパーは持ち込み不可。15回目、90分で行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- | | | | | |
|--------|----------------|--------|---------|-------|
| 【教科書】 | 「音楽通論」 | 真篠 将著 | 全音楽譜出版社 | ¥1000 |
| 【参考図書】 | 「ポケットいっぱいのおうた」 | 鈴木恵津子著 | 教育芸術社 | ¥2100 |

科目名	保育内容の指導法（音楽表現）		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「ピアノ」を取得し、学んだ技術をさらに実際の童謡や子どもの歌の伴奏に活用する技術を学ぶ。
子どもにとってうたいやすい伴奏とはどのようなものなのか、保育者にとって弾きやすい伴奏とはどのようにするのか、さらに伴奏で豊かな音楽表現をすることはどのようなことなのかを勉強する。
編曲法をベースに自分でピアノの編曲を行う。

内容

- 音楽理論をしっかり理解する
- 理論を応用した編曲法を学ぶ
- 各自の技術に応じた無理のない伴奏編曲をする
- 個性を生かした編曲を学ぶ

このような基礎学習から次の項目をマスターする

- 伴奏の難易度にかかわらず、どのような伴奏でも弾くことができる
- 伴奏譜がなくても伴奏を作ることができる
- 自在に楽譜を書くことができる
- 子ども主体の音楽が展開できる

上記の内容に添ってクラスの進度を見ながら進めていく

評価

ペーパーテスト、ノート提出、授業への取り組み姿勢の三点で決定する。
ペーパーテストは持ち込み不可。15回目に90分で行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- | | | | | |
|--------|---------------|--------|--------|-------|
| 【教科書】 | 「音楽通論」 | 真篠 将著 | 全音楽譜出版 | ¥1000 |
| 【参考図書】 | 「ポケットいっぱいのおた」 | 鈴木恵津子著 | 教育芸術社 | ¥1200 |

科目名	保育内容の指導法（音楽表現）		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「ピアノ」を取得し、学んだ技術をさらに実際の童謡や子どもの歌の伴奏に活用する技術を学ぶ。
 子どものにとってうたいやすい伴奏とはどのようなものなのか、保育者にとって弾きやすい伴奏とはどのようにするのか、さらに伴奏で豊かな音楽表現をすることはどのようなことなのかを勉強する。
 編曲法をベースに自分でピアノの編曲を行い、身につけていく。

内容

- 音楽理論をしっかり理解する
- 理論を応用した編曲法を学ぶ
- 各自の技術に応じた無理のない伴奏編曲を学ぶ

このような基礎学習から次の項目をマスターする

- 伴奏の難易度にかかわらず、どのような伴奏でも弾くことができる
- 伴奏譜がなくても伴奏を作ることができる
- 自在に楽譜を書くことができる
- 子ども主体の音楽が展開できる

上記の内容に添ってクラスの進度を見ながら進めていく

評価

ペーパーテスト、ノート提出、授業への取り組み姿勢の三点で決定する。
 ペーパーテストは持ち込み不可。15回目に90分で行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】「音楽通論」 真篠 将著 全音楽譜出版 ￥1000
- 【参考図書】「ポケットいっぱいのおうた」 鈴木恵津子著 ￥1200

科目名	保育内容の指導法（音楽表現）		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「ピアノ」を取得し、学んだ技術をさらに実際の童謡や子どもの歌の伴奏に活用する技術を学ぶ。
子どもにとって歌いやすい伴奏とはどのようなものなのか、保育者にとって弾きやすい伴奏とはどのようにするのか、さらに伴奏で豊かな音楽表現をすることはどのようなことなのかを勉強する。
編曲法をベースに自分でピアノの編曲を行い、身につけていく。

内容

- 音楽理論をしっかり理解する
- 理論を応用した編曲法を学ぶ
- 各自の技術に応じた無理のない伴奏編曲をする
- 個性を生かした編曲を学ぶ

このような基礎学習から次の項目をマスターする

- 伴奏の難易度にかかわらず、どのような伴奏でも弾きこなせる
- 伴奏譜がなくても伴奏を作ることができる
- 自在に楽譜を書くことができる
- 子ども主体の音楽が展開できる

上記の内容に添ってクラスの進度を見ながら進めていく

評価

ペーパーテスト、ノート提出、授業への取り組みの姿勢の三点で決定する。
ペーパーテストは持ち込み不可。15回目に90分で行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】「音楽通論」 真篠 将著 全音楽譜出版 ￥1000
- 【参考図書】「ポケットいっぱいのおた」 鈴木恵津子著 教育芸術社 ￥1200

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	平田 智久、照沼 晃子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領の第1章総則、第1幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と、示している。また、保育所保育指針では第1章 総則、3保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と、示している。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。

子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

内容

- 1.プロローグ・自然との出会い-1-
2. 自然との出会い-2-
3. 自然との出会い-3-
4. ものとの出会い-1-
5. ものとの出会い-2-
6. ものとの出会い-3-
7. ものとの出会い-4-
8. ものとの出会い-5-
9. ものとの出会い-6-
10. ひととの出会い-1-
11. ひととの出会い-2-
12. ひととの出会い-3-
13. 社会の事象と造形-1-
14. 社会の事象と造形-2-
- 15.エピローグ・社会の事象と造形-3-

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

演習にふさわしい服装と心構えで望むこと。

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

幼少年教育研究所編 『スペースデザイン』 チャイルド本社刊

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	平田 智久、照沼 晃子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領の第1章総則、第1幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と、示している。また、保育所保育指針では第1章 総則、3保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と、示している。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。

子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

内容

- 1.プロローグ・自然との出会い-1-
2. 自然との出会い-2-
3. 自然との出会い-3-
4. ものとの出会い-1-
5. ものとの出会い-2-
6. ものとの出会い-3-
7. ものとの出会い-4-
8. ものとの出会い-5-
9. ものとの出会い-6-
10. ひととの出会い-1-
11. ひととの出会い-2-
12. ひととの出会い-3-
13. 社会の事象と造形-1-
14. 社会の事象と造形-2-
- 15.エピローグ・社会の事象と造形-3-

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

演習にふさわしい服装と心構えで望むこと。

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

幼少年教育研究所編 『スペースデザイン』 チャイルド本社刊

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	平田 智久、照沼 晃子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領の第1章総則、第1幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と、示している。また、保育所保育指針では第1章 総則、3保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と、示している。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。

子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

内容

- 1.プロローグ・自然との出会い-1-
2. 自然との出会い-2-
3. 自然との出会い-3-
4. ものとの出会い-1-
5. ものとの出会い-2-
6. ものとの出会い-3-
7. ものとの出会い-4-
8. ものとの出会い-5-
9. ものとの出会い-6-
10. ひととの出会い-1-
11. ひととの出会い-2-
12. ひととの出会い-3-
13. 社会の事象と造形-1-
14. 社会の事象と造形-2-
- 15.エピローグ・社会の事象と造形-3-

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

演習にふさわしい服装と心構えで望むこと。

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

幼少年教育研究所編 『スペースデザイン』 チャイルド本社刊

科目名	保育内容の指導法（身体表現）		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「身体表現基礎」を受けて、さらにその内容を深め、発展させていく。

身体表現の活動を、幼児の活動を基に経験していく中で、学生自身の動きのボキャブラリーを増やし、発想を豊かにしていく。その上で幼児期の＜身体のおしゃべり＞を受け止め、保育の中で発展させていく方法を考えていく。

内容

心と身体を解きほぐす

自身の身体への認識を深める

基本的な運動から身体表現へ

身近なあそびから身体表現へ

音楽的な刺激から身体表現へ

子どもたちの好きな歌から

様々なジャンルの音楽から

声、音、効果音の活用

擬音語・擬態語の活用

身体で描く、身体を粘土にしてみる

絵本から身体表現へ

からだでおしゃべり

からだでごっこあそび

からだでお話づくり

評価

出席状況、授業への取り組み方をベースに、実技試験の結果、レポート・記録ノート等の内容から総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】 斉藤孝、山下柚美 『「五感力」を育てる』 中公新書 141.2/S

高田ケラー有子 『平らな国デンマーク』 NHK出版 302.389/T

科目名	保育内容の指導法（身体表現）		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「身体表現基礎」を受けて、さらにその内容を深め、発展させていく。

身体表現の活動を、幼児の活動を基に経験していく中で、学生自身の動きのボキャブラリーを増やし、発想を豊かにしていく。その上で幼児期の＜身体のおしゃべり＞を受け止め、保育の中で発展させていく方法を考えていく。

内容

心と身体を解きほぐす

自身の身体への認識を深める

基本的な運動から身体表現へ

身近なあそびから身体表現へ

音楽的な刺激から身体表現へ

子どもたちの好きな歌から

様々なジャンルの音楽から

声、音、効果音の活用

擬音語・擬態語の活用

身体で描く、身体を粘土にしてみる

絵本から身体表現へ

からだでおしゃべり

からだでごっこあそび

からだでお話づくり

評価

出席状況、授業への取り組み方をベースに、実技試験の結果、レポート・記録ノート等の内容から総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】 斉藤孝、山下柚美 『「五感力」を育てる』 中公新書 141.2/S

高田ケラー有子 『平らな国デンマーク』 NHK出版 302.389/T

科目名	保育内容の指導法（身体表現）		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「身体表現基礎」を受けて、さらにその内容を深め、発展させていく。

身体表現の活動を、幼児の活動を基に経験していく中で、学生自身の動きのボキャブラリーを増やし、発想を豊かにしていく。その上で幼児期の＜身体のおしゃべり＞を受け止め、保育の中で発展させていく方法を考えていく。

内容

心と身体を解きほぐす

自身の身体への認識を深める

基本的な運動から身体表現へ

身近なあそびから身体表現へ

音楽的な刺激から身体表現へ

子どもたちの好きな歌から

様々なジャンルの音楽から

声、音、効果音の活用

擬音語・擬態語の活用

身体で描く、身体を粘土にしてみる

絵本から身体表現へ

からだでおしゃべり

からだでごっこあそび

からだでお話づくり

評価

出席状況、授業への取り組み方をベースに、実技試験の結果、レポート・記録ノート等の内容から総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】 斉藤孝、山下柚美 『「五感力」を育てる』 中公新書 141.2/S

高田ケラー有子 『平らな国デンマーク』 NHK出版 302.389/T

科目名	保育内容の指導法（身体表現）		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「身体表現基礎」を受けて、さらにその内容を深め、発展させていく。

身体表現の活動を、幼児の活動を基に経験していく中で、学生自身の動きのボキャブラリーを増やし、発想を豊かにしていく。その上で幼児期の＜身体のおしゃべり＞を受け止め、保育の中で発展させていく方法を考えていく。

内容

心と身体を解きほぐす

自身の身体への認識を深める

基本的な運動から身体表現へ

身近なあそびから身体表現へ

音楽的な刺激から身体表現へ

子どもたちの好きな歌から

様々なジャンルの音楽から

声、音、効果音の活用

擬音語・擬態語の活用

身体で描く、身体を粘土にしてみる

絵本から身体表現へ

からだでおしゃべり

からだでごっこあそび

からだでお話づくり

評価

出席状況、授業への取り組み方をベースに、実技試験の結果、レポート・記録ノート等の内容から総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】 斉藤孝、山下柚美 『「五感力」を育てる』 中公新書 141.2/S

高田ケラー有子 『平らな国デンマーク』 NHK出版 302.389/T

科目名	国語概説		
担当教員名	萩原 昌好		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この講座は、義務教育課程の学生に必要な国語知識を身につけることを目的としている。即ち日本語の持つ言語体系、言語文化への理解を深め、教育に資することである。即ち、国語史、国文学、国語教育に関する基礎的な素養を身につけるための講座で、将来国語という、最も基礎的な領域を横断的に理解し、日本人として愧じる事の無いようねがっている。

内容

先ず、わが国の言語、即ち母国語としての日本語がどの様に成立し、「こくご」という概念に至ったかを明らかにする。その後どの様な変遷を辿って今日に至ったかも考察する。また、現在から未来に向けてどのように国語が方向付けられるべきかも考えなくてはならない。そのための基礎・基本となる知識や、教育とどの様にかかわるか考察する。いずれ国際的な言語の一つとなるかもしれない可能性をどの様に位置づけるかが大切なことである。尚、受講生はただ講義内容を受身に聴くだけでなく、みずから進んで関連事項を調べ、整理する事を期待している。

評価

出席点50、レポート点50、とする。レポート課題はその都度指示する。ノート整理をきちんとしておく事。また止むを得ない場合を除き欠席の多い聴講生の評価は行わない。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特にないが、簡潔にまとめたものに『図解日本語』(三省堂)がある。講義は多岐にわたるので、その都度必要に応じて、紹介する。

科目名	算数概説		
担当教員名	増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

算数科の学習は低学年から高学年の学年進行にしたがって、内容は段階的に高度なものとなっている。しかし、子どもたちは小学校に入学する前の幼児期から遊びや生活を通して、学習ではないが数や形に体験的に触れ、自然に経験を積み重ねている。この時期における教師や保育者の投げかけは重要である。

本講座では、幼児期から形成される数学的な概念を、小学校算数科の内容と関連づけ、さらに中学校以上の数学の基礎との関連も考察し、その中での算数科の学びの基本や、その内容や方法を、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域で考察していく。

内容

1	ガイダンス、小学校における算数科の役割と幼児教育
2	学習指導要領における算数、数感覚、個数を数えること、1対1対応
3	幼児の数感覚、十進位取り記数法
4	同じ数ずつの集まり、数の相対的な大きさ
5	どちらが多い、すごろく遊び、ものと数詞の対応、数の表し方
6	幼稚園での遊びの中での数、数概念、数直線
7	数の大小、順序と系列あわせていくつ、ピンゴ・ゲーム
8	幼稚園で数に関わること、加法・減法の意味、加法・減法の計算
9	数の増減、数当てゲーム、整数の性質、問題解決的な学習
10	仲間集めと分類、くらべてみよう
11	身近な量の大きさ
12	比べ方と量の保存、量の測定
13	幼児の図形と空間の感覚、形作り、型押し、影遊び、模様作り
14	幼児児童の数量感覚、変わり方のパターン
15	試験

評価

出席状況と毎回の小テストや提出物(70%)、試験(30%)で評価し、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

小学校学習指導要領解説 算数編 文科省 著 東洋館出版社 版

【推薦書】

学力向上70テーマの実践8 『算数科コース別指導による確かな学び
理論編』明治図書

同上9『1-3年実践編』、同上10『4-6年実践編』明治図書

科目名	生活概説		
担当教員名	流田 直		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

小学校低学年教科の生活科がどのような学習であるかの概要を知り、ねらいや内容を具体的な実習や活動場面に触れることでより詳しく理解し、指導のポイントを身につける。また、仲間と協働してさまざまな体験を通し、これからの生活科のあり方を模索して、教員としての指導力や資質の向上を高めることをねらう。

内容

- 生活概説についてのガイダンス
- 幼児や低学年児童にとっての遊びや学校生活の意義
 - 保育の中の子どもや保育者の役割
 - 幼小連携とは何か
- 小学校入門機の指導
 - 学校生活と入門機の学習
 - 生活科についての概要(小学校学習指導要領、幼稚園指導要綱のねらいと内容)
- 生活科とはどのような教科か
 - 自然にかかわるねらいと内容
 - 大学キャンパス内の自然見つけと落ち葉の造形製作
 - 製作にかかわるねらいと内容
 - 廃品等を利用して製作する
 - 地域社会にかかわるねらいと内容
 - 自分の町をマップで表現する
- 実際の指導はどのようにするか
 - 年間カリキュラム編成
 - 学習指導案の事例から指導案の意義を学ぶ

評価

授業への出席状況30点、課題・レポート・作品70点、を総合して評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 特になし その都度作成資料配付

【参考図書】 学習指導要領・生活科の指導書 「新しい生活」小学校生活科教科書 東京書籍
生活科事典 東京書籍 他の参考図書は授業内で提示する。

科目名	子どもと自然		
担当教員名	二宮 穰		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

子どもは自然との関わりから、様々なことを学び、成長していく。多くの子どもの育ちの中で、自然と関わる機会が制限されがちな今ほど、その大切さが強調されている時代はない。この科目では、「自然」に含まれる多くの事象と子どもとの関わりについて、具体的なねらいと援助の方法を、講義と実体験を通して理解し、保育実践に生かせるようになることを目指す。特に、動物や植物との関わりについては、“生命とどう向き合うか”という視点から、重点的に扱う。

内容

主な内容は以下の通り。なお、キャンパス内の季節の自然を活用する都合上、順序などは若干前後する可能性がある。

1. 子どもにとっての自然
2. 身近な自然体験
 - 小動物との関わり / 植物との関わり / 季節の自然への気づきと活用
3. 子どもと動物
 - ねらい / 動物とは? / 保育の中でどう関わるか / 実践事例から学ぶ
4. 子どもと植物
 - ねらい / 植物とは? / 保育の中でどう関わるか / 実践事例から学ぶ
5. 子どもと自然事象
 - ねらい / 自然事象とは? / 保育の中でどう関わるか / 実践事例から学ぶ
6. まとめ

評価

期末試験またはレポート50点、平常の提出物20点、出席および授業への参加状況30点で評価し、学内の評価基準に従って成績をつける。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用せず。

【推薦書】山内昭道・幼児の自然研究会 『子どもと環境』 文化書房博文社

佐藤信次 『庭にきた虫 いのちのドラマを親子でみる』 農山漁村文化協会 486/S

今森光彦 『昆虫記』 福音館書店 486/I

【参考図書】埴沙萌 『植物記』 福音館書店 471・H

河合雅雄 『少年動物誌』 福音館書店 913.6/K

科目名	子どもと自然		
担当教員名	二宮 穰		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

子どもは自然との関わりから、様々なことを学び、成長していく。多くの子どもの育ちの中で、自然と関わる機会が制限されがちな今ほど、その大切さが強調されている時代はない。この科目では、「自然」に含まれる多くの事象と子どもとの関わりについて、具体的なねらいと援助の方法を、講義と実体験を通して理解し、保育実践に生かせるようになることを目指す。特に、動物や植物との関わりについては、“生命とどう向き合うか”という視点から、重点的に扱う。

内容

主な内容は以下の通り。なお、キャンパス内の季節の自然を活用する都合上、順序などは若干前後する可能性がある。

1. 子どもにとっての自然
2. 身近な自然体験
 - 小動物との関わり / 植物との関わり / 季節の自然への気づきと活用
3. 子どもと動物
 - ねらい / 動物とは? / 保育の中でどう関わるか / 実践事例から学ぶ
4. 子どもと植物
 - ねらい / 植物とは? / 保育の中でどう関わるか / 実践事例から学ぶ
5. 子どもと自然事象
 - ねらい / 自然事象とは? / 保育の中でどう関わるか / 実践事例から学ぶ
6. まとめ

評価

期末試験またはレポート50点、平常の提出物20点、出席および授業への参加状況30点で評価し、学内の評価基準に従って成績をつける。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用せず。

【推薦書】山内昭道・幼児の自然研究会 『子どもと環境』 文化書房博文社

佐藤信次 『庭にきた虫 いのちのドラマを親子でみる』 農山漁村文化協会 486/S

今森光彦 『昆虫記』 福音館書店 486/I

【参考図書】埴沙萌 『植物記』 福音館書店 471・H

河合雅雄 『少年動物誌』 福音館書店 913.6/K

科目名	子どもと自然		
担当教員名	二宮 穰		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

子どもは自然との関わりから、様々なことを学び、成長していく。多くの子どもの育ちの中で、自然と関わる機会が制限されがちで、その大切さが強調されている時代はない。この科目では、「自然」に含まれる多くの事象と子どもとの関わりについて、具体的なねらいと援助の方法を、講義と実体験を通して理解し、保育実践に生かせるようになることを目指す。特に、動物や植物との関わりについては、“生命とどう向き合うか”という視点から、重点的に扱う。

内容

主な内容は以下の通り。なお、キャンパス内の季節の自然を活用する都合上、順序などは若干前後する可能性がある。

1. 子どもにとっての自然
2. 身近な自然体験
 - 小動物との関わり / 植物との関わり / 季節の自然への気づきと活用
3. 子どもと動物
 - ねらい / 動物とは? / 保育の中でどう関わるか / 実践事例から学ぶ
4. 子どもと植物
 - ねらい / 植物とは? / 保育の中でどう関わるか / 実践事例から学ぶ
5. 子どもと自然事象
 - ねらい / 自然事象とは? / 保育の中でどう関わるか / 実践事例から学ぶ
6. まとめ

評価

期末試験またはレポート50点、平常の提出物20点、出席および授業への参加状況30点で評価し、学内の評価基準に従って成績をつける。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用せず。

【推薦書】山内昭道・幼児の自然教育研究会 『子どもと自然』 文化書房博文社

佐藤信次 『庭にきた虫 いのちのドラマを親子でみる』 農山漁村文化協会 486/S

今森光彦 『昆虫記』 福音館書店 486/I

【参考図書】埴沙萌 『植物記』 福音館書店 471・H

河合雅雄 『少年動物誌』 福音館書店 913.6/K

科目名	子ども家庭福祉		
担当教員名	小泉 かおる		
ナンバリング			
学科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学年	1	クラス	1Aクラス
開講期	前期	必修・選択の別	必修*
授業形態		単位数	2
資格関係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 保育者として必要な子ども家庭福祉に関する基礎的な知識を得る。
- 2 子ども及びその家族に対する援助、支援について理解する。
- 3 子ども家庭福祉における保育士の役割を理解する。

内容

1	オリエンテーション・私達の眼から見た「今の子どもをめぐる状況」
2	最新データから～「今の子どもをめぐる状況」と課題
3	今までのあゆみをたどってみると～子ども家庭福祉の歴史
4	法律ではどう定められているだろうか～子ども家庭福祉の法体系
5	どのような組織があるのだろうか ～子ども家庭福祉の行政機関
6	どのような組織があるのだろうか ～子ども家庭福祉施設
7	もう一度確認しよう～中間試験(基本知識の確認のために)
8	子どもの権利条約
9	子どもへの虐待(基礎知識中心に)
10	子どもへの虐待(予防と対応策について)
11	子育て支援と次世代育成支援サービスの展開
12	子育て支援・次世代育成支援と保育士の役割
13	子ども家庭福祉実践とは～専門職としての保育士の役割
14	まとめ～子ども家庭福祉の課題
15	定期試験

評価

定期テスト40点、中間テスト30点、提出物(小レポート)20点、出席点10点により評価を行い60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

伊藤良高 編「子ども家庭福祉のフロンティア」晃洋書房

科目名	子ども家庭福祉		
担当教員名	小泉 かおる		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 保育者として必要な子ども家庭福祉に関する基礎的な知識を得る。
- 2 子ども及びその家族に対する援助、支援について理解する。
- 3 子ども家庭福祉における保育士の役割を理解する。

内容

1	オリエンテーション・私達の眼から見た「今の子どもをめぐる状況」
2	最新データから～「今の子どもをめぐる状況」と課題
3	今までのあゆみをたどってみると～子ども家庭福祉の歴史
4	法律ではどう定められているだろうか～子ども家庭福祉の法体系
5	どのような組織があるのだろうか ～子ども家庭福祉の行政機関
6	どのような組織があるのだろうか ～子ども家庭福祉施設
7	もう一度確認しよう～中間試験(基本知識の確認のために)
8	子どもの権利条約
9	子どもへの虐待 (基礎知識中心に)
10	子どもへの虐待 (予防と対応策について)
11	子育て支援と次世代育成支援サービスの展開
12	子育て支援・次世代育成支援と保育士の役割
13	子ども家庭福祉実践とは～専門職としての保育士の役割
14	まとめ～子ども家庭福祉の課題
15	定期試験

評価

定期テスト40点、中間テスト30点、提出物(小レポート)20点、出席点10点により評価を行い60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

伊藤良高 編「子ども家庭福祉のフロンティア」晃洋書房

科目名	子ども家庭福祉		
担当教員名	小泉 かおる		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

子ども家庭福祉の今日的な課題を把握し、法規・施策・実際の援助について考察を深めることを目的とします。各自の実習体験や実生活での経験も踏まえながら、ビデオ視聴やディスカッション、テーマに応じたグループワークなどを通して「子ども家庭福祉」で学んだ知識をさらに深めていきます。

内容

1	オリエンテーション 現代社会の子どもを取り巻く環境の変化や現状
2	現代社会の子どもを取り巻く環境の変化や現状
3	子ども観の変遷と子どもの人権
4	子ども観の変遷と子どもの人権
5	保護の必要な子どもへの援助・支援システム (法規及び施策)
6	保護の必要な子どもへの援助・支援システム (援助の実際)
7	児童虐待について
8	障害を持つ子どもや家庭の福祉について
9	子育て支援について
10	非行問題への対応と自立支援について
11	海外の子どもの福祉について
12	海外の子どもの福祉について
13	福祉施設で働く専門職の役割について
14	まとめ
15	定期試験

評価

定期テスト50点、平常点(小レポートなど)40点、出席点10点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず、毎回配布するプリントを中心に進めていきます。参考文献、資料は講義内で適宜紹介します。

科目名	子ども家庭福祉		
担当教員名	小泉 かおる		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

子ども家庭福祉の今日的な課題を把握し、法規・施策・実際の援助について考察を深めることを目的とします。各自の実習体験や実生活での経験も踏まえながら、ビデオ視聴やディスカッション、テーマに応じたグループワークなどを通して「子ども家庭福祉」で学んだ知識をさらに深めていきます。

内容

1	オリエンテーション 現代社会の子どもを取り巻く環境の変化や現状
2	現代社会の子どもを取り巻く環境の変化や現状
3	子ども観の変遷と子どもの人権
4	子ども観の変遷と子どもの人権
5	保護の必要な子どもへの援助・支援システム (法規及び施策)
6	保護の必要な子どもへの援助・支援システム (援助の実際)
7	児童虐待について
8	障害を持つ子どもや家庭の福祉について
9	子育て支援について
10	非行問題への対応と自立支援について
11	海外の子どもの福祉について
12	海外の子どもの福祉について
13	福祉施設で働く専門職の役割について
14	まとめ
15	定期試験

評価

定期テスト50点、平常点(小レポートなど)40点、出席点10点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず、毎回配布するプリントを中心に進めていきます。参考文献、資料は講義内で適宜紹介します。

科目名	社会福祉		
担当教員名	垂水 謙児		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会福祉の動向にあわせて新しい福祉の特徴を学ぶ。社会福祉基礎構造改革が具体的に動き出し、あわせて次世代育成支援法や介護保険法改定、さらに障害者自立支援法の制定が福祉現場に提起している課題は何かを学ぶ。

前半で、さまざまな社会福祉状況を事例をふまえて学んでいく。その上で広い意味での援助論リソナル・グループワークを集団保育に関連づけて余暇指導の実技を取り入れ、社会福祉の原理を後半に学ぶ。

先に社会福祉の現状を考え、それを土台にして歴史や制度への関心につなげて現代の社会福祉の理解を深めていくことをねらっている。

社会福祉が生活問題を解決するための単なるサービスにとどまらず、人として深く関わることをノーマライゼーションの考え、QOLの追求等を含む人権や人権尊重の運動と理念から学ぶ。

内容

- 1 社会福祉とは<身近な事例を通して>
- 2 どうして社会福祉は必要なのか
- 3 児童福祉<子ども虐待の実態、要保護児童の実態
- 4 保育と子育て支援女性福祉と家庭福祉の接点、家庭内暴力DVの定義
- 5 障害者福祉<特別なニーズの事例：映像VTRで学ぶ>
- 6 高齢者福祉 公的扶助=セーフティ・ネットワーク
- 7 医療福祉 司法福祉
- 8 地域福祉
- 9 社会福祉の経営
- 10 社会福祉の援助
- 11 社会保障と社会福祉 ~社会福祉基礎構造改革~
- 12 欧米の社会福祉の歴史
- 13 日本の社会福祉の歴史
- 14 社会福祉の財政と法制度と実施機関
- 15 まとめ：社会福祉の学習を深める。

評価

自主的、自発的活動報告レポートが20%、定期試験50% 出席が20%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】宮田和明、柿本誠、木戸利秋、小松理佐子、竹中哲夫、山口みほ編
『現代の社会福祉入門』 みらい

科目名	社会福祉		
担当教員名	垂水 謙児		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会福祉の動向にあわせて新しい福祉の特徴を学ぶ。社会福祉基礎構造改革が具体的に動き出し、あわせて次世代育成支援法や介護保険法改定、さらに障害者自立支援法の制定が福祉現場に提起している課題は何かを学ぶ。

前半で、さまざまな社会福祉状況を事例をふまえて学んでいく。その上で広い意味での援助論リソナル・グループワークを集団保育に関連づけて余暇指導の実技を取り入れ、社会福祉の原理を後半に学ぶ。

先に社会福祉の現状を考え、それを土台にして歴史や制度への関心につなげて現代の社会福祉の理解を深めていくことをねらっている。

社会福祉が生活問題を解決するための単なるサービスにとどまらず、人として深く関わることをノーマライゼーションの考え、QOLの追求等を含む人権や人権尊重の運動と理念から学ぶ。

内容

- 1 社会福祉とは<身近な事例を通して>
- 2 どうして社会福祉は必要なのか
- 3 児童福祉<子ども虐待の実態、要保護児童の実態>
- 4 保育と子育て支援女性福祉と家庭福祉の接点、家庭内暴力DVの定義
- 5 障害者福祉<特別なニーズの事例：映像VTRで学ぶ>
- 6 高齢者福祉 公的扶助=セーフティ・ネットワーク
- 7 医療福祉 司法福祉
- 8 地域福祉
- 9 社会福祉の経営
- 10 社会福祉の援助
- 11 社会保障と社会福祉 ~社会福祉基礎構造改革~
- 12 欧米の社会福祉の歴史
- 13 日本の社会福祉の歴史
- 14 社会福祉の財政と法制度と実施機関
- 15 まとめ：社会福祉の学習を深める。

評価

自主的、自発的活動報告レポートが20%、定期試験50% 出席が20%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】宮田和明、柿本誠、木戸利秋、小松理佐子、竹中哲夫、山口みほ編
『現代の社会福祉入門』 みらい

科目名	養護原理		
担当教員名	垂水 謙児		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

養護とは「養育」と「保護」を合せた言葉である。子どもの情緒的、身体的、社会的な成育を行う「養育」、親による「保護」および、その「養育」に不足が生じた子どもを社会が代わって行う「社会的保護」とが合わさったものである。

子どもの減少に反して社会的養護の対象児童が増えてきている。すべての子どもが要養護化してきている。施設入所に行かないまでも、施設でのショートステイの利用者の家庭を見ると「一時的、利用で本当に良いのかと思われるほど子どもが諸問題をかかえている」と現場の関係者は心配している。

3年生の施設実習(保育所以外)の準備を念頭において 乳児院 児童養護 知的障害 身体障害のどの施設に配属されても対応できるように、児童養護のテキストを中心に学んでいく。

内容

- 1、 施設で暮らす子どもと施設の役割 (1回) 1章 2章 3章 20章
- 2、 養護問題の発生と関係機関との関わり(1回) 4章 12章<里親その他の社会的養護>
- 3、 施設養護の体系 児童養護の歴史、欧米と日本(1回)
- 4、 ホスピタリズム、ノーマライゼーションと児童養護の理論 (1回)
- 5、 児童養護の領域と制度・政策 (1回)
- 6、 施設における子どもの権利 (1回)
- 7、 児童養護の原理・原則 (1回)
- 8、 養育環境に問題のある子どもの施設養護の実際
- 9、 障害のある児童のための施設と養護 (1回)
- 10、 子どもの生活と職員の援助の実際 (1回)
- 11、 困難を抱えた子どもへの対応と援助 (1回)
- 12、 虐待を受けた子どもへの援助の実際 (1回)
- 13、 施設の設備と運営 (1回)
- 14、 施設保育士の専門性
- 15、 復習、まとめ

評価

試験：50% 出席：30% レポート：20%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】監修 浅井春夫、編集 中山正雄 『児童養護の原理と実践的活用』

科目名	養護原理		
担当教員名	垂水 謙児		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

養護とは「養育」と「保護」を合せた言葉である。子どもの情緒的、身体的、社会的な成育を行う「養育」、親による「保護」および、その「養育」に不足が生じた子どもを社会が代わって行う「社会的保護」とが合わさったものである。

子どもの減少に反して社会的養護の対象児童が増えてきている。すべての子どもが要養護化してきている。施設入所に行かないまでも、施設でのショートステイの利用者の家庭を見ると「一時的、利用で本当に良いのかと思われるほど子どもが諸問題をかかえている」と現場の関係者は心配している。

3年生の施設実習(保育所以外)の準備を念頭において 乳児院 児童養護 知的障害 身体障害のどの施設に配属されても対応できるように、児童養護のテキストを中心に学んでいく。

内容

- 1、 施設で暮らす子どもと施設の役割 (1回) 1章 2章 3章 20章
- 2、 養護問題の発生と関係機関との関わり(1回) 4章 12章<里親その他の社会的養護>
- 3、 施設養護の体系 児童養護の歴史、欧米と日本(1回)
- 4、 ホスピタリズム、ノーマライゼーションと児童養護の理論 (1回)
- 5、 児童養護の領域と制度・政策 (1回)
- 6、 施設における子どもの権利 (1回)
- 7、 児童養護の原理・原則 (1回)
- 8、 養育環境に問題のある子どもの施設養護の実際
- 9、 障害のある児童のための施設と養護 (1回)
- 10、 子どもの生活と職員の援助の実際 (1回)
- 11、 困難を抱えた子どもへの対応と援助 (1回)
- 12、 虐待を受けた子どもへの援助の実際 (1回)
- 13、 施設の設備と運営 (1回)
- 14、 施設保育士の専門性
- 15、 復習、まとめ

評価

試験：50% 出席：30% レポート：20%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】監修 浅井春夫、編集 中山正雄 『児童養護の原理と実践的活用』

科目名	養護内容		
担当教員名	垂水 謙児		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

養護内容は、2年後期の養護原理の授業で学んだ内容を踏まえて学習をすすめていく。児童養護施設を中心にした教科書を使用し施設保育士(レジデンシャル・ケア・ワーカー児童指導員)の担当すべき領域について理解を深めていく。それと平行して担当者の児童養護施設の資料(断片的な記録)知的障害児施設での実習記録を養護内容の項目と照らし合わせていただく。その作業を通して疑問に思い、さらに興味・関心もった内容を取りあげレポートし意見交換する形ですすめたい。テキスト、実習記録、紹介された文献を手がかりに自発的にレポートを提出し共に刺激し学びを深める演習授業になることをねらっている。

内容

- 1、 施設養護の原理 1～6 児童養護の実践指針、子ども版実践指針
- 2、 施設との出会い 7施設入所の前夜 13施設の1日～ゆとりある楽しい生活をめざす
子どもを受け入れるとき 援助方針の樹立 ラポールの形成
- 3、 施設で暮らす・地域で暮らす 14個別の援助 集団の援助 幼児の援助
休息・余暇・遊びの援助 体罰や粗野な扱いをなくす
- 4、 性への援助一年長児への援助 年少児への援助
- 5、 進路援助・進学援助・自立への援助
- 6、 子どもと家族への援助 29共同子育てのすすめ 32在日外国人と養護問題
- 8、 問題行動などの理解と援助の基本
- 9、 家出、暴力、いじめ、薬物濫用など
- 10、 児童虐待問題にどう取り組むか
- 11、 施設保育士として働く意義・働きがい
- 12、 若い職員<実習生>への期待
- 13、 施設運営と法律問題
- 14、 児童養護問題をもう少し深く学ぶために
- 15、 まとめ、児童養護の新しい動き

評価

テキストで学んだこと、配布された資料についてレポート提出 50%
自発的に提出された読書感想、文献実践記録コメント 20% 出席 30%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】朝倉恵一・神田ふみよ・喜多一憲・竹中哲夫編集 『児童養護への招待』

【参考図書】浅井春夫監修、中山正雄 『児童養護の原理と実践的活用』

<養護原理で使用した参考図書は、毎時間、教科書と一緒に持参すること>

科目名	養護内容		
担当教員名	垂水 謙児		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

養護内容は、2年後期の養護原理の授業で学んだ内容を踏まえて学習をすすめていく。児童養護施設を中心にした教科書を使用し施設保育士(レジデンシャル・ケア・ワーカー児童指導員)の担当すべき領域について理解を深めていく。それと平行して担当者の児童養護施設の資料(断片的な記録)知的障害児施設での実習記録を養護内容の項目と照らし合わせていただく。その作業を通して疑問に思い、さらに興味・関心もった内容を取りあげレポートし意見交換する形ですすめたい。テキスト、実習記録、紹介された文献を手がかりに自発的にレポートを提出し共に刺激し学びを深める演習授業になることをねらっている。

内容

- 1、 施設養護の原理 1～6 児童養護の実践指針、子ども版実践指針
- 2、 施設との出会い 7施設入所の前夜 13施設の1日～ゆとりある楽しい生活をめざす
子どもを受け入れるとき 援助方針の樹立 ラポールの形成
- 3、 施設で暮らす・地域で暮らす 14個別の援助 集団の援助 幼児の援助
休息・余暇・遊びの援助 体罰や粗野な扱いをなくす
- 4、 性への援助一年長児への援助 年少児への援助
- 5、 進路援助・進学援助・自立への援助
- 6、 子どもと家族への援助 29共同子育てのすすめ 32在日外国人と養護問題
- 8、 問題行動などの理解と援助の基本
- 9、 家出、暴力、いじめ、薬物濫用など
- 10、 児童虐待問題にどう取り組むか
- 11、 施設保育士として働く意義・働きがい
- 12、 若い職員<実習生>への期待
- 13、 施設運営と法律問題
- 14、 児童養護問題をもう少し深く学ぶために
- 15、 まとめ、児童養護の新しい動き

評価

テキストで学んだこと、配布された資料についてレポート提出 50%
自発的に提出された読書感想、文献実践記録コメント 20% 出席 30%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】朝倉恵一・神田ふみよ・喜多一憲・竹中哲夫編集 『児童養護への招待』

【参考図書】浅井春夫監修、中山正雄 『児童養護の原理と実践的活用』

<養護原理で使用した参考図書は、毎時間、教科書と一緒に持参すること>

科目名	養護内容		
担当教員名	垂水 謙児		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

養護内容は、2年後期の養護原理の授業で学んだ内容を踏まえて学習をすすめていく。児童養護施設を中心にした教科書を使用し施設保育士(レジデンシャル・ケア・ワーカー児童指導員)の担当すべき領域について理解を深めていく。それと平行して担当者の児童養護施設の資料(断片的な記録)知的障害児施設での実習記録を養護内容の項目と照らし合わせていただく。その作業を通して疑問に思い、さらに興味・関心もった内容を取りあげレポートし意見交換する形ですすめたい。テキスト、実習記録、紹介された文献を手がかりに自発的にレポートを提出し共に刺激し学びを深める演習授業になることをねらっている。

内容

- 1、 施設養護の原理 1～6 児童養護の実践指針、子ども版実践指針
- 2、 施設との出会い 7施設入所の前夜 13施設の1日～ゆとりある楽しい生活をめざす
子どもを受け入れるとき 援助方針の樹立 ラポールの形成
- 3、 施設で暮らす・地域で暮らす 14個別の援助 集団の援助 幼児の援助
休息・余暇・遊びの援助 体罰や粗野な扱いをなくす
- 4、 性への援助一年長児への援助 年少児への援助
- 5、 進路援助・進学援助・自立への援助
- 6、 子どもと家族への援助 29共同子育てのすすめ 32在日外国人と養護問題
- 8、 問題行動などの理解と援助の基本
- 9、 家出、暴力、いじめ、薬物濫用など
- 10、 児童虐待問題にどう取り組むか
- 11、 施設保育士として働く意義・働きがい
- 12、 若い職員<実習生>への期待
- 13、 施設運営と法律問題
- 14、 児童養護問題をもう少し深く学ぶために
- 15、 まとめ、児童養護の新しい動き

評価

テキストで学んだこと、配布された資料についてレポート提出 50%
自発的に提出された読書感想、文献実践記録コメント 20% 出席 30%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】朝倉恵一・神田ふみよ・喜多一憲・竹中哲夫編集 『児童養護への招待』

【参考図書】浅井春夫監修、中山正雄 『児童養護の原理と実践的活用』

<養護原理で使用した参考図書は、毎時間、教科書と一緒に持参すること>

科目名	児童保健学		
担当教員名	高木 俊治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

子どもの健康を「身体的、精神的、社会的に良好な状態である」という視点で考える。子どもが生まれ育ってゆく過程とその環境を理解し、個々の知識をその中に位置づける。児童保健学は子どもの心と身体についての学習とともに、栄養・生活習慣・集団生活、疾患予防・安全とこれらを保証する社会の仕組みを総合的に学び、実践できることを目標とする。

内容

小児の発育や発達について理解し、栄養や生活習慣・集団生活、病気とその予防、事故(安全)対策、養護について必要な知識や援助方法、これらをささえる社会のシステムを学ぶ。

限られた時間のため、教科書中心となるが、乳幼児に接する経験に乏しい学生にも理解可能なものとする。

講義の順番は、必ずしも教科書の順番と同じではないが、以下の項目をカバー する。

1. 小児保健の基本

小児保健の考え方、小児保健の現状と課題、母子保健サービスのしくみ

2. 子どもの発育と発達

子どもの発育と発達を、出生前から順に、その段階と課題に分けて考える

3. 子どもの生活と養護

基本的生活習慣、生活リズム、摂食行動、衣生活、排泄機能等を考える

4. 子どもの病気とその予防

子どもの病気の考え方と、症状からみたケア、予防について学ぶ

5. 子どもの安全と応急処置、安全教育

子どもの事故、安全教育について学ぶ

6. 集団生活の場における保健

7. 児童保健学の課題

病児保育、子ども虐待、子育ての社会化と孤立する親

評価

集中講義のため、1回の試験(100点満点)をもって評価をおこなう。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】天野敦子他著 『子どもの保健 - 理論と実践』 日本小児医事出版
(教科書は最終試験のさいにも必要ですので必ず一人一冊購入してください。)

科目名	児童保健学		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

子どもは成長発達の途上にあつて、無限の可能性と個性をもち、社会の一員として生活している1人の人間である。それは障がいや疾病を持っている子どもたちであっても例外ではない。しかし障がいや疾病を持っている子どもたちは周囲からの理解や支援をより必要とし、それらが彼らの今後の成長発達に大きな影響を及ぼす。

ここでは、子どもの障がいや疾病に関する基本的な医学知識と障がいや疾病が子どもの心身や日常生活に及ぼす影響を理解し、発達促進に向けての援助の視点および家族への援助など療育のあり方について学習する。

内容

・障がいのある子どもと家族に対する支援(概論)

1. 障がいの概念と障がいの要因

2-3. 子どもや家族の障がい受容過程と支援

・障がいや疾病に関する基本的な医学知識と成長発達や生活に及ぼす影響および援助(各論)

4. 脳神経の発達

5-6. 運動機能障がいと脳性麻痺

7. 聴覚言語障がいと視覚障がい

8. 知的障がい(精神遅滞)

9. 広汎性発達障害

10. 学習障害、ADHD

11-13. 重症心身障害児

・疾病や入院が子どもに及ぼす影響と病棟保育士の役割

14. 院内保育

・まとめ

15. 試験

評価

授業への参加状況(10点)、レポート(10点)、期末試験(80点)により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】前川喜平他編著 『障害児と病児のための発達理解と発達援助』(別冊発達22) ミネルヴァ書房

【推薦書】松本昭子・土橋圭子編 『発達障害児の医療・療育・教育』 金芳堂 493.937/H

小枝達也編著 『ADHD、LD、HFPDD、軽度MR児 保健指導マニュアル ちょっと気になる子どもたちへの贈り物』 診断と治療社 493.937/K

【参考図書】毛利子来・山田真・野辺明子編著 『障害をもつ子のいる暮らし』 筑摩書房

科目名	児童保健学		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

子どもは成長発達の途上にあつて、無限の可能性と個性をもち、社会の一員として生活している1人の人間である。それは障がいや疾病を持っている子どもたちであっても例外ではない。しかし障がいや疾病を持っている子どもたちは周囲からの理解や支援をより必要とし、それらが彼らの今後の成長発達に大きな影響を及ぼす。

ここでは、子どもの障がいや疾病に関する基本的な医学知識と障がいや疾病が子どもの心身や日常生活に及ぼす影響を理解し、発達促進に向けての援助の視点および家族への援助など療育のあり方について学習する。

内容

・障がいのある子どもと家族に対する支援(概論)

1. 障がいの概念と障がいの要因

2-3. 子どもや家族の障がい受容過程と支援

・障がいや疾病に関する基本的な医学知識と成長発達や生活に及ぼす影響および援助(各論)

4. 脳神経の発達

5-6. 運動機能障がいと脳性麻痺

7. 聴覚言語障がいと視覚障がい

8. 知的障がい(精神遅滞)

9. 広汎性発達障害

10. 学習障害、ADHD

11-13. 重症心身障害児

・疾病や入院が子どもに及ぼす影響と病棟保育士の役割

14. 院内保育

・まとめ

15. 試験

評価

授業への参加状況(10点)、レポート(10点)、期末試験(80点)により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】前川喜平他編著 『障害児と病児のための発達理解と発達援助』(別冊発達22) ミネルヴァ書房

【推薦書】松本昭子・土橋圭子編 『発達障害児の医療・療育・教育』 金芳堂 493.937/H

小枝達也編著 『ADHD、LD、HFPDD、軽度MR児 保健指導マニュアル ちょっと気になる子どもたちへの贈り物』 診断と治療社 493.937/K

【参考図書】毛利子来・山田真・野辺明子編著 『障害をもつ子のいる暮らし』 筑摩書房

科目名	児童保健学実習		
担当教員名	中澤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

小児は健康な身体と健全な心を持って発育していかなければならない。そのために必要な小児保健の知識と技術について、様々な角度から学習する。この講座では、「児童保健学」で学んだ知識に基づき、小児の健康に関する具体的な方法について、実習と演習を通じて、その技術を習得することをねらいとする。

主に、小児の発育、健康観察、日常生活のケア、病気や事故への対応について学ぶ。

内容

授業は実習と演習を主にするが、ビデオ学習も取り入れ、実践に生かせるようにしていく。

授業の流れは概ね、次のとおりである。

1. 発育・発達とその評価
 - 身体計測と計測値の評価
 - 発達の見方とその評価
2. 小児の生活と養護
 - 抱く・おぶう
 - 授乳法・離乳食の与え方
 - 衣類・排泄・清潔のケア
3. 小児の健康観察
 - 体温・脈拍・呼吸の測定
 - 健康状態の観察
4. 病気への対応
 - 病気の子どもの観察とケア
5. 事故への対応
 - 応急処置、救命処置の方法
 - 事故予防と安全管理

評価

実習・演習への参加度20点、記録40点、レポート40点によって評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】吉岡毅・長谷川浩道・千羽喜代子共著 『実習育児学』 日本小児医事出版社

【推薦書】佐藤益子編 『小児保健実習』 ななみ書房 498.7/S

田中哲朗著 『保育園における事故防止マニュアル』 日本小児医事出版社 369.42/T

科目名	児童保健学実習		
担当教員名	中澤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

小児は健康な身体と健全な心を持って発育していかなければならない。そのために必要な小児保健の知識と技術について、様々な角度から学習する。この講座では、「児童保健学」で学んだ知識に基づき、小児の健康に関する具体的な方法について、実習と演習を通じて、その技術を習得することをねらいとする。

主に、小児の発育、健康観察、日常生活のケア、病気や事故への対応について学ぶ。

内容

授業は実習と演習を主にするが、ビデオ学習も取り入れ、実践に生かせるようにしていく。

授業の流れは概ね、次のとおりである。

1. 発育・発達とその評価
 - 身体計測と計測値の評価
 - 発達の見方とその評価
2. 小児の生活と養護
 - 抱く・おぶう
 - 授乳法・離乳食の与え方
 - 衣類・排泄・清潔のケア
3. 小児の健康観察
 - 体温・脈拍・呼吸の測定
 - 健康状態の観察
4. 病気への対応
 - 病気の子どもの観察とケア
5. 事故への対応
 - 応急処置、救命処置の方法
 - 事故予防と安全管理

評価

実習・演習への参加度20点、記録40点、レポート40点によって評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】吉岡毅・長谷川浩道・千羽喜代子共著 『実習育児学』 日本小児医事出版社

【推薦書】佐藤益子編 『小児保健実習』 ななみ書房 498.7/S

田中哲朗著 『保育園における事故防止マニュアル』 日本小児医事出版社 369.42/T

科目名	児童保健学実習		
担当教員名	中澤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

小児は健康な身体と健全な心を持って発育していかなばならない。そのために必要な小児保健の知識と技術について、様々な角度から学習する。この講座では、「児童保健学」で学んだ知識に基づき、小児の健康に関する具体的な方法について、実習と演習を通じて、その技術を習得することをねらいとする。

主に、小児の発育、健康観察、日常生活のケア、病気や事故への対応について学ぶ。

内容

授業は実習と演習を主にするが、ビデオ学習も取り入れ、実践に生かせるようにしていく。

授業の流れは概ね、次のとおりである。

1. 発育・発達とその評価
 - 身体計測と計測値の評価
 - 発達の見方とその評価
2. 小児の生活と養護
 - 抱く・おぶう
 - 授乳法・離乳食の与え方
 - 衣類・排泄・清潔のケア
3. 小児の健康観察
 - 体温・脈拍・呼吸の測定
 - 健康状態の観察
4. 病気への対応
 - 病気の子どもの観察とケア
5. 事故への対応
 - 応急処置、救命処置の方法
 - 事故予防と安全管理

評価

実習・演習への参加度20点、記録40点、レポート40点によって評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】吉岡毅・長谷川浩道・千羽喜代子共著 『実習育児学』 日本小児医事出版社

【推薦書】佐藤益子編 『小児保健実習』 ななみ書房 498.7/S

田中哲朗著 『保育園における事故防止マニュアル』 日本小児医事出版社 369.42/T

科目名	精神保健		
担当教員名	赤井 美智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

精神保健は「人間の心の健康」について探求する学科であり、保育士資格取得のための必修科目の一つである。この分野は、精神医学、心理学、社会学等の多方面から、人間に光をあてた多面的、総合的アプローチが不可欠である。

高度に科学技術の発達した現代社会の中で、人々が直面している人間の心の問題や、それぞれの発達段階に特有な人格形成上の発達課題をクリアすることに伴う精神的な危機状況についての多面的な人間理解を深める。

そして、乳幼児期から児童期にある子どもに特徴的な心理的問題については、関係的な状況把握の視点から、子どもや家族への援助のあり方を中心に学ぶ。

内容

一生の中で最も目ざましい発達を遂げる時期にある乳幼児が、身心両面において健康に生活できることが人格形成の基盤になることを理解する。そして、極めて環境に規定されやすい乳幼児期にある子どもの身心の健康の増進と、子どもと保護者との良好な関係づくりをどのように支援するかの基本を中心的に学ぶ。

精神保健の基礎

子どもの生活と育ちにおける課題と保育者の役割

社会の変化と精神保健 ・ 家族構造の変化 ・ 現代社会における子育て状況と保護者の育児不安
メディアと子ども

発達のつまずきへの援助

障害とその支援

地域に広がる精神保健ネットワーク

- ・ 現代社会における心の病のとらえ方(最新の精神医学の基礎的な知識を学ぶ)
- ・ 精神保健活動の地域ネットワーク
- ・ 保育所、幼稚園、地域の子育て支援センターにおける子育て支援活動の実際と保育者の役割等

評価

テスト、レポートの成績(70%)と授業への参加態度(30%)を総合して評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

共著 「精神保健 - 子どもと家族の援助のために-」 樹村房

科目名	精神保健		
担当教員名	赤井 美智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

精神保健は「人間の心の健康」について探求する学科であり、保育士資格取得のための必修科目の一つである。この分野は、精神医学、心理学、社会学等の多方面から、人間に光をあてた多面的、総合的アプローチが不可欠である。

高度に科学技術の発達した現代社会の中で、人々が直面している人間の心の問題や、それぞれの発達段階に特有な人格形成上の発達課題をクリアすることに伴う精神的な危機状況についての多面的な人間理解を深める。

そして、乳幼児期から児童期にある子どもに特徴的な心理的問題については、関係的な状況把握の視点から、子どもや家族への援助のあり方を中心に学ぶ。

内容

一生の中で最も目ざましい発達を遂げる時期にある乳幼児が、身心両面において健康に生活できることが人格形成の基盤になることを理解する。そして、極めて環境に規定されやすい乳幼児期にある子どもの身心の健康の増進と、子どもと保護者との良好な関係づくりをどのように支援するかの基本を中心に学ぶ。

精神保健の基礎

子どもの生活と育ちにおける課題と保育者の役割

社会の変化と精神保健 ・ 家族構造の変化 ・ 現代社会における子育て状況と保護者の育児不安
 ・ メディアと子ども

発達のつまずきへの援助

障害とその支援

地域に広がる精神保健ネットワーク

- ・ 現代社会における心の病のとらえ方(最新の精神医学の基礎的な知識を学ぶ)
- ・ 精神保健活動の地域ネットワーク
- ・ 保育所、幼稚園、地域の子育て支援センターにおける保育者の役割、子育て支援活動の実際

評価

レポート、試験の成績(70%)と授業への参加態度(30%)を総合して評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

共著 「精神保健 - 子どもと家族の援助のために-」 樹村房

科目名	地域と福祉		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

現代社会における福祉を理解するため、地域福祉の基本的考え方、またその背景を学ぶ。各地で展開されている住民の主体的な活動事例(ボランティア・NPO・コミュニティビジネス等)をとりあげ、多様な人々の多様な生活が展開する地域という総合的な空間の理解を深める。自らの生活の場として、居住地域を見る視点を得る。

内容

1	現代社会におけるコミュニティと福祉
2	地域福祉の理念とその展開
3	地域福祉の理論の発展
4	地域性の把握と生活問題
5	地域福祉の主体と多様な地域団体
6	住民参加と専門職の役割
7	事例検討 - 老人給食をめぐって
8	事例検討 - お互い様の介護から
9	事例検討 - 働く場を求めて
10	事例検討 - 育てあう関係を広げて
11	事例検討 - 安心して暮らす住まい
12	ソーシャルキャピタルの可能性
13	課題報告 - 自分の住む地域を考える
14	課題報告 - 自分のすむ地域を考える
15	課題講評と講義のまとめ

評価

出席および受講態度(20点)、授業における報告・発表(20点)、期末レポート(60点)とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書: 渋川智明『福祉NPO - 地域を支える市民起業』岩波新書 2001 369/S

広井良典『持続可能な福祉社会 - 「もう一つの日本」の構想』ちくま新書 2006 364/H

岩下清子・佐藤義夫・島田千穂『「小規模多機能」の意味論』雲母書房 2006 369.26/I

科目名	食と発達		
担当教員名	曾我部 夏子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

小児期における栄養と食生活は、生涯にわたる健康や生活の基盤である。つまり、身体の発育・発達のみならず、健全な心の育成、望ましい生活習慣の確立に重要な役割を果たす。そこで、小児期の栄養・食生活に関する基礎的な知識を習得し、保育者として小児の望ましい食生活について理解する。

内容

1	小児の健康な生活と食生活の意義
2	乳児期の栄養と食生活
3	乳児期の栄養と食生活(実習)
4	離乳期の栄養と食生活
5	離乳期の栄養と食生活(実習)
6	幼児期の栄養と食生活
7	幼児期のお弁当(実習)
8	幼児期の間食(実習)
9	食育のための栄養に関する基礎知識
10	食育 媒体作成 (演習)
11	食育 媒体作成 (演習)
12	食育発表
13	食育発表
14	まとめ
15	小テスト

評価

出席50点、発表10点、課題10点、小テスト30点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】飯塚美和子、桜井幸子編 『最新小児栄養 第6版』 学建書院

【推薦書】新藤由喜子他著 『小児栄養 発達期の食生活と栄養』 学建書院 498.59/H

亀城和子他著 『保育所の食事を通して食育を』 学建書院 498.59/H

科目名	食と発達		
担当教員名	曾我部 夏子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

小児期における栄養と食生活は、生涯にわたる健康や生活の基盤である。つまり、身体の発育・発達のみならず、健全な心の育成、望ましい生活習慣の確立に重要な役割を果たす。そこで、小児期の栄養・食生活に関する基礎的な知識を習得し、保育者として小児の望ましい食生活について理解する。

内容

1	小児の健康な生活と食生活の意義
2	乳児期の栄養と食生活
3	乳児期の栄養と食生活(実習)
4	離乳期の栄養と食生活
5	離乳期の栄養と食生活(実習)
6	幼児期の栄養と食生活
7	幼児期のお弁当(実習)
8	幼児期の間食(実習)
9	食育のための栄養に関する基礎知識
10	食育 媒体作成 (演習)
11	食育 媒体作成 (演習)
12	食育発表
13	食育発表
14	まとめ
15	小テスト

評価

出席50点、発表10点、課題10点、小テスト30点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】飯塚美和子、桜井幸子編 『最新小児栄養 第6版』 学建書院

【推薦書】新藤由喜子他著 『小児栄養 発達期の食生活と栄養』 学建書院 498.59/H

亀城和子他著 『保育所の食事を通して食育を』 学建書院 498.59/H

科目名	食と発達		
担当教員名	曾我部 夏子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

小児期における栄養と食生活は、生涯にわたる健康や生活の基盤である。つまり、身体の発育・発達のみならず、健全な心の育成、望ましい生活習慣の確立に重要な役割を果たす。そこで、小児期の栄養・食生活に関する基礎的な知識を習得し、保育者として小児の望ましい食生活について理解する。

内容

1	小児の健康な生活と食生活の意義
2	乳児期の栄養と食生活
3	乳児期の栄養と食生活(実習)
4	離乳期の栄養と食生活
5	離乳期の栄養と食生活(実習)
6	幼児期の栄養と食生活
7	幼児期のお弁当(実習)
8	幼児期の間食(実習)
9	食育のための栄養に関する基礎知識
10	食育 媒体作成 (演習)
11	食育 媒体作成 (演習)
12	食育発表
13	食育発表
14	まとめ
15	小テスト

評価

出席50点、発表10点、課題10点、小テスト30点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】飯塚美和子、桜井幸子編 『最新小児栄養 第6版』 学建書院

【推薦書】新藤由喜子他著 『小児栄養 発達期の食生活と栄養』 学建書院 498.59/H

亀城和子他著 『保育所の食事を通して食育を』 学建書院 498.59/H

科目名	児童文化		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間は自然環境に適応すると共に、自然環境に働きかけて新たな環境を創り出す。この人間の営みを、自然との対比で「文化」と呼ぶ。さて人間は、子どもと共に生きることに深い喜びを感じ、長い歴史の中で「子どもの文化」を築き上げてきた。子どもは、文化という土壌の上に生み落とされ、成長を遂げてゆく。とはいえ、子どもも文化の作り手、伝え手ともなりうる。「児童文化」においては、子どもと大人が共に織りなす政の営みという視点から、生を共有する仲間が共に創造した文化について探求することを目指す。

内容

子どもをどのように捉えるかという子ども観や、子どもの生命をどのように考えるかという生命観、そこから導かれる子どもにかかわる法律や制度、また、子どもに向けられた宗教・道徳、そして知識・技術のすべてが児童文化である。つまり、それらによって支えられた子どもを取り巻く衣・食・住の生活場面、家庭や保育所・幼稚園・学校での生活・そして近隣社会での生活と、子どもにかかわる生活文化の広がり全体が児童文化と考えられる。

具体的には、子どものための文学、音楽、美術、演劇、舞踊、映画、放送、遊具、玩具などの児童文化財、また児童館、図書館、博物館、動物園、遊園地などの児童文化施設、そして子どもに本を読んだり、お話を語ったり、人形劇や芝居を上演するなどの児童文化活動などである。このように一般的には、大人が「子どものため」と、意識的に計画して作り上げて、子どもに与えた文化のことと考えられている。

しかし、それらに加えて、子どもが大人と共に創り、共に遊び、共に楽しみ、伝え合っていく文化でもある。児童文化の歴史の変遷をたどりながら、大人と子どもの相互発信・相互受信の文化の形を紹介する。

評価

授業への取り組み方 20%、試験 80%によって評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『児童文化 子どものはあわせを考える学びの森』 皆川美恵子他著 ななみ書房

科目名	児童文化		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間は自然環境に適応すると共に、自然環境に働きかけて新たな環境を創り出す。この人間の営みを、自然との対比で「文化」と呼ぶ。さて人間は、子どもと共に生きることに深い喜びを感じ、長い歴史の中で「子どもの文化」を築き上げてきた。子どもは、文化という土壌の上に生み落とされ、成長を遂げてゆく。とはいえ、子どもも文化の作り手、伝え手ともなりうる。「児童文化」においては、子どもと大人が共に織りなす政の営みという視点から、生を共有する仲間が共に創造した文化について探求することを目指す。

内容

子どもをどのように捉えるかという子ども観や、子どもの生命をどのように考えるかという生命観、そこから導かれる子どもにかかわる法律や制度、また、子どもに向けられた宗教・道徳、そして知識・技術のすべてが児童文化である。つまり、それらによって支えられた子どもを取り巻く衣・食・住の生活場面、家庭や保育所・幼稚園・学校での生活・そして近隣社会での生活と、子どもにかかわる生活文化の広がり全体が児童文化と考えられる。

具体的には、子どものための文学、音楽、美術、演劇、舞踊、映画、放送、遊具、玩具などの児童文化財、また児童館、図書館、博物館、動物園、遊園地などの児童文化施設、そして子どもに本を読んだり、お話を語ったり、人形劇や芝居を上演するなどの児童文化活動などである。このように一般的には、大人が「子どものため」と、意識的に計画して作り上げて、子どもに与えた文化のことと考えられている。

しかし、それらに加えて、子どもが大人と共に創り、共に遊び、共に楽しみ、伝え合っていく文化でもある。児童文化の歴史の変遷をたどりながら、大人と子どもの相互発信・相互受信の文化の形を紹介する。

評価

授業への取り組み方 20%、試験 80%によって評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『児童文化 子どものはあわせを考える学びの森』 皆川美恵子他著 ななみ書房

科目名	保育特別実習		
担当教員名	垂水 謙児、野口 隆子、向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3,4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育士資格を取得するための実習として、必修の「保育実習 」「保育実習 』のほかに、この「保育特別実習 (特と略す)」、この保育特別実習 (特)」のいずれかを履修する必要がある。原則として保育所における実習体験の拡充を図るものは「特 」、施設(保育所以外)における拡充を希望するならば「特 」ということになるが、受け入れ先との交渉や、その他の実習スケジュールとの関係次第でそのとおりにいかない場合もあるだろう。

「保育実習 」とどうリンクし、つなげていくかを、各自でよく考える必要がある。同じ種別の施設でも良いが、他種の施設を体験しておいた方が望ましい。いずれにしても必修「保育実習 ・ 」とつながりと展開のあるプランニングを立てたい。しかし、受け入れ先施設の方針と相容れないこともあるので、大学の実習担当ともよく相談して交渉する必要がある。学生一人ひとりで実習プランが違うので、それぞれ主体的に実習のねらいを絞り込んでおきましょう。

内容

日数は11日間(半日を含む場合はなるべく11日以上にする)。実際には「通い」型と「宿泊」型があるが、「通い」の場合は当然自宅から通える範囲となる。自己開拓する場合(大学から、あらためて正式に依頼状を出す)と、大学がすすめる障害児通園施設に配属される場合とがある。

施設種別は「保育実習 」とは別のほうが良いだろう。保育所以外の児童福祉施設として、通園施設、児童館など。実習時期は、大学の授業のない時期が望ましく、原則3年生の2月下旬ごろ(教育実習と重ならないように)から、4年生の9月ごろまでの間で決める。やむをえず先方施設の都合で、授業期間になる場合もあるかもしれない。実習日誌は毎日担当者に提出する。「保育実習 」で経験できなかった生活援助計画、個別援助(ケースワーク)、集団援助(グループワーク)計画案を責任実習に取り入れなどで色いろな形を経験しておこう。実習後は、保育日誌を補充して大学に提出する。

評価

実習先の施設による評価を基本とするが、施設によって基準が一律ではないので、大学で総合的な評価の読み替えを行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】大場幸夫・大島恭二 『保育実習』 ミネルヴァ書房

科目名	保育臨床学		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

一人一人の子どもの気持ちに寄り添い、自己実現を援助すること、仲間関係や活動の中で困難な課題や葛藤場面などに直面している子どもに寄り添い支えること、それぞれの子どもが十分に自己発揮できるような環境を造り出すこと、仲間も自分も成長していると実感できるような生活体験を共に重ねていくこと - このように保育は子どもと保育者が今ここで関わり育つきわめて臨床的な場である。そこでの個々の子どもの発達と心的世界の理解、それに対する援助のあり方の探求、保育者自身の自己理解と子どもとの関係理解という、子どもと保育者の二側面から、保育を考察していく。

保育実践事例やビデオなど、現場の保育者の具体的な保育場面を教材として学んでいく。

本科目で学んだことを発展させ、保育臨床学演習では、自らの保育実践記録や、保育実践研究事例、保育記録を基に、具体的人・モノ・状況・関係に即しながら討論することを通して、保育理解、子ども理解を深めていく。

内容

1. イントロダクション

保育・教育における臨床とは何か

2. 子ども理解の前提として自己の保育観・子ども観・発達観をみつめる

3. 他者理解をめぐって考える

内面的理解 / 共感的理解 / 継時的理解 / 多面的理解

4. 子ども支援をめぐって考える

自己実現に対して / 葛藤場面で / 環境を整えることで

5. 保育的ふるまい方と考え方

状況即応性 / 実践と省察 / 共応性・相互性

6. 保育者としての自己の成長を考える

評価

授業参加状況、学期内の小レポート、学期末のレポートを、3:4:3 の比率で評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】毎回プリント資料を配布する

【推薦書】榎沢良彦・上垣内伸子編著 『保育者論 共生へのまなざし』 同文書院 376.11/H

森上史朗・浜口順子編著 『幼児理解と保育援助』 ミネルヴァ書房 376.11/Y

科目名	保育臨床学演習		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育臨床学で学んだことを発展させ、保育臨床学演習では、自らの保育実践記録や、保育実践研究事例、保育記録を基に、具体的人・モノ・状況・関係に即しながら討論することを通して、保育理解、子ども理解を深めていく。受講者には、自分の保育実践・保育観察の記録を作成して参加することを求めたい。

内容

1. 保育実践記録等をめぐる討論

保育者による実践記録や観察記録・面談記録等を読み、保育内容や子ども理解、援助方法等について話し合う。

2. 保育の観察と討論

実際の保育場面を観察し、それを基にテーマを設定して話し合う。

3. 保育実践記録の作成と報告

受講者自身の実践記録や観察記録等を作成、報告し、保育内容や子ども理解、援助方法等について話し合う。

4. 文献講読

事例研究および事例研究を進めていく際の基礎となるような文献の講読。

評価

授業でのレポート発表と討論への参加状況、学期末のレポートを、7:3 の比率で評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業開始時に指示する

科目名	保育実践論		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3,4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育学・幼児教育に関連する近年の様々なトピックや調査研究を取り上げ、研究及び方法に関する知識を身につけ学ぶ。それによって受講者が自分自身の興味関心の枠組みを広げ、知識や研究と実践を結びつけること、思考する力・実践する力を養うことを目的としている。

授業では、事例やビデオなど、様々な資料を用いながら、ディスカッションをおこなう機会を設けることによってさらに理解を深め、受講者が主体的に学ぶことのできる場を提供したいと考えている。

尚、後期に開講される保育実践論演習とあわせて履修することが望ましい。

内容

保育における実践と研究の関連性について理解を深め、現代社会における“保育”を考察する。

受講者自身の生活や実習の経験をふりかえりつつ、事例や調査研究を紹介していきたい。

以下、授業内容予定を示す。

1	オリエンテーション：保育実践論の概要や授業内容、評価等について解説する
2	研究に向けて1：「研究」することの意味と方法、実践と研究
3	研究に向けて2：「問い」をたてる
4	実践1：文献の探し方・読み方
5	実践2：小グループによる議論
6	講義1：“見えない保育”を考える
7	講義2：映像から見る保育
8	講義3：映像から見る保育
9	講義4：保育の質と評価
10	講義5：保育者の専門的発達 保育者の成長とメンタリング
11	講義6：保育者の専門的発達 職場文化と学び、園内研修
12	講義7：幼児期の学びと保育
13	講義8：乳幼児を取り巻く環境の変化
14	講義9：保育の国際比較
15	講義10：まとめ

評価

出席点(20点)、授業内の課題やリアクションペーパー(30点)、期末レポート(50点)により評価をおこない、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業内で紹介する。随時資料を配布する予定。

科目名	発達心理学		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間の発達とは何かについて特に心理面に焦点を当て、研究方法や明らかにされて来た知見、今後の研究課題などについて、学生一人一人が問題意識を持ちつつ理解することを目指す。日常の経験や実習での体験などと併せて考えていくことにより、人間の発達について自ら包括的に考える力を養いたい。

内容

乳幼児期から児童期への発達を中心に、最新の研究成果を紹介しながら、心理学に関連する様々な領域の発達について理解を深める。

- (1)発達心理学とは
- (2)人生における胎児期・乳幼児期の意味
- (3)人間発達の可塑性
- (4)母子相互作用
- (5)世界の認識
- (6)気質・社会性
- (7)象徴機能の成立と言語発達
- (8)言語の機能と会話の発達
- (9)記憶
- (10)心の理論
- (11)遊びの発達
- (12)思考と語り
- (13)科学する心
- (14)生活世界から学びの世界へ
- (15)まとめ・質疑応答

評価

授業中の提出課題(15回)100点として評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 内田伸子編 『よくわかる乳幼児心理学』 ミネルヴァ書房

【推薦書】 『生涯発達心理学とは何か:理論と方法(講座生涯発達心理学;第1巻)』無藤隆・やまだようこ編集(金子書房)

『人生への旅立ち:胎児・乳児・幼児前期(講座生涯発達心理学;第2巻)』麻生武・内田伸子編(金子書房)

『子ども時代を生きる:幼児から児童へ(講座生涯発達心理学;3)』内田伸子・南博文編(金子書房)

科目名	発達心理学演習		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

発達心理学や関連領域(保育実践など)の実証的研究論文を中心に講読し、研究の意義や批判点について参加者全員で討論する。研究の目的、方法、結果、考察を読みこなすスキルを身につけ、実際に研究計画を立てる力を養うことを目的とする。前期に発達心理学を履修済みの学生のみ受講を許可する。また、4年次の卒業研究に発達心理学分野を選ぶ学生は履修していることが望ましい。

内容

学生一人一人が1本ずつ発達心理学や関連領域の実証的研究論文を講読し、内容を要約して発表し、研究の意義や批判点について参加者全員で討論する。

- (1)授業ガイダンス：レジュメ作成方法,発表の方法
- (2)担当教員による発表
- (3)～(14)学生による発表
- (15)まとめ

評価

分担分の発表80点、他の学生の発表時の取り組み20点として評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】杉村伸一郎・坂田陽子編 『実験で学ぶ発達心理学』 ナカニシヤ出版

その他、適宜、資料を配付する。

科目名	臨床心理学		
担当教員名	赤井 美智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

臨床心理学は個人や集団に生じた困難な問題の解決を、心理学的知識と技術による対人関係的援助によって促進しようとする実践的学問である。乳幼児期、児童期を中心に、人格形成の途上にあり、可能性に満ちた存在である子どもへの個別的な人間理解を深めるためのアプローチの仕方や心理的援助の方法についての基礎理論を学ぶことを目標とする。

内容

臨床心理学の理論と方法の基礎を学び、保育現場での確かな心理臨床的な援助を子どもや子どもの保護者へ実践するために必要な臨床的なアプローチの基礎理論への理解を子どもの心理臨床の実践例や臨床技法の実習体験と対応させながら深める。

子どもの臨床心理学とは

子どもの発達と臨床的課題

臨床心理学の基礎理論

子どもの臨床的な課題の理解

心理的援助の方法

子どもの心理臨床の実践

保育現場での臨床的なアプローチに必要とされる基本的な資質の養成活動は、行為法によって行う。感性、認識、行為の三つのレベルの資質訓練における行為体験の積み重ねと双方向的なグループ活動の展開を重視するため、授業集団の人数に上限を設ける。

評価

レポートへの評価（60%）と授業への参加態度（40%）を総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書 神田久男、赤井美智子他共著 「子どもの発達と心理臨床」 樹村房

科目名	臨床心理学演習		
担当教員名	赤井 美智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「臨床心理学」を履修後に、発達臨床法の理論と技法についての学習とその実践力の向上に焦点を絞った演習科目である。発達臨床活動が展開している保育現場での実習体験や集団行為療法・心理劇における臨床教育の展開による多様な役割体験を積み重ねることを通して、幼稚園、保育所、地域の子育て支援センターなどの保育現場での展開が期待されている発達臨床的なアプローチの理論と実際、技法についての基本を認識と行為レベルの双方において研修することを目指している。

内容

ここで学ぶ「発達臨床」とは、子どもの情緒の発達や自我形成、豊かな人間関係や社会性の発達、認知の発達・学習などにおいて、より望ましい方向への変容を目的とし、主として臨床心理学的方法を基盤として行われる臨床活動を指しており、次のような内容についての学びを展開する。

発達臨床法の基本的な考え方

子どもの生活状況と発達への多面的な理解による個別的な臨床的課題の把握

発達臨床の方法

- ・治療的アプローチ(遊戯療法等)
- ・教育的アプローチ
- ・人間関係的アプローチ(心理劇,関係状況療法)

発達臨床の事例研究

- ・臨床玩具や描画、心理劇の導入について
- ・保育者と乳幼児と物との相互関係性、力働性の把握について
- ・臨床技法の理解と応用
- ・子どもの保護者との連携

児童臨床者としての資質訓練は次のような場で行い、保育、発達臨床における理論、技法についての統合的な理解を深め、保育現場での確かな実践力の向上につなげる。

新座市が展開し担当教員も関与する発達臨床活動が展開する親子集団活動の現場での継続的な研修。

行為法・心理劇における臨床教育活動において、多様な役割体験や自他の関係認識の拡大、保育状況を关系的に構成する物(遊具、舞台、空間等)の機能への理解と活用技法の学び。

評価

レポート(70%)の成績と、演習への参加状況(30%)を総合して評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書は必要に応じて、指示する。

科目名	造形保育論		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

子どもたちは幼稚園・保育所・小学校という家庭とは異なった生活の場の中でも、「もの」と関わり人とかかわる。その「もの」との関わり方捕らえ方で保育・教育も大きく変わる。子ども自らが主体的に生きることを願って行われる保育・教育であるなら、当然自ら感じ考え行動していくことを保育・教育という規範の中で認め励ますことが重要となる。造形は人間の本性に関わりながら発生する行為そのものであるだけに、そうした保育・教育手段のひとつとしての造形の意義は大きい。

保育・教育全体を見通しながら造形活動の役割と意義を見出し、実践のための基礎づくりをすることがねらいである。

内容

生活の中で自ら感じ考え行動する乳幼児を、造形を通して認め励ます意義に気づくために、実際の保育や子どもたちの作品などをVTRなどで提示し、造形を通じた保育のあり方を考える。さらに、身近な自然や素材との出会いを保障する環境づくりや、子どもの強い興味関心に支えられた保育展開が図れるためのポイントを示し、考察と研究を行う。

1. プロローグ
2. 保育の中で育てる おもしろがれる環境「刺激」
3. 内的循環
4. 子どもは造形が大好き 作らせている・絵を描かせている現実
5. ノンバーバル コミュニケーション 1
6. ノンバーバル コミュニケーション 2
7. よりよく生きようとする Design 1
8. よりよく生きようとする Design 2
9. 造形教育の歴史 時代の背景が反映する
10. 造形教育の歴史 描画の発達 子ども今の姿
11. 造形はひとりの世界から
12. 協同。共同。
13. コミュニケーション能力
14. 長い活動スパンの流れの中で
15. エピローグ

評価

講義を通して学び、感じ考えたことや実際に試してみたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集(60%)とすること。その受講する感性、意欲(40%)も評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

「毎日が造形あそび」平田智久著 学習研究社刊

科目名	身体表現論		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

身体表現とは、自分自身の身体を素材として、その運動が媒体となって、自分の思いを外に出し、他へ伝えようとするこ
とで成立する表現の世界である。様々な身体表現形式の歴史を概括した上で、人間にとって身体表現がどのような意義のあ
るものであるかを考える。

内容

- * 幼児期の身体表現をめぐって
- * 幼児期における身体表現の指導法について
- * 様々な身体表現の形式をめぐって
- * 身体を感じる、身体で感じるということについて
- * 感性について
- * 表現ということについて
- * コミュニケーションとしての身体運動
- * からだと運動

受講資格：「身体表現論」と同時に「身体表現論演習」が受講可能であること

評価

出席状況、授業への取り組み方をベースに、レポート・記録ノートの内容等から総合的に判断する。

出席点60%、レポート40%で評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【推薦書】S・スティンソン 『幼児のためのダンス』 不昧堂
 長田 弘 『黙されたことば』 みすず書房 911.56/0
 竹内敏晴 『思想する「からだ」』 晶文社 804/T
 鷲田清一 『悲鳴をあげる身体』 PHP 新書 114.2/W

科目名	身体表現論演習		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「身体表現論」及び既に履修した「身体表現基礎」「身体表現・指導法」を基に、自らの身体表現に関わる能力の進展を計ると共に、身体表現への興味関心を広く深く掘り下げることが目的とする。また、幼児期における身体表現活動の教育的意義、その発育・発達について、教材研究及びその指導法の検討を通して考えていく。

内容

< 自分自身の身体へ向かう >

- * 身体への感性を養う
自らの身体を感じ、他者の身体を感じる
- * 自らのボディ・コントロール能力を高める
- * 動きのボキャブラリーを増やす

< 幼児期の身体表現活動を考える >

- * 幼児期における身体表現活動の芽生えをとらえる
- * 保育の場での身体表現活動を引き出す教材の工夫
- * 保育の場での身体表現活動を展開していく指導法の工夫
- * 身近な物を利用して、運動遊び、表現遊びへと発展させていく工夫
- * フォークダンスの指導法の工夫
その特徴、基礎用語の理解
幼児に指導する際の留意点
身体表現へと発展させていく工夫

受講資格：「身体表現論演習」と同時に「身体表現論」が受講可能であること

評価

出席状況、授業への取り組み方をベースに、レポート及び各種課題提出物等の内容から総合的に判断する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】マリオン・ゴーフ 『ダンスの教え方・学び方』 玉川大学出版部
柴真理子 『身体表現』 東京書籍 781.4/S

科目名	児童養護論		
担当教員名	垂水 謙児		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

児童養護論は、養護原理(2年後期)、養護内容(3年前期)で学習した内容を骨組みにして、8月 9月の<施設>実習体験に基づいて、あるいは、2月 3月の<施設>実習準備にむけ、自主的に関心のある領域を掘り下げ意見交換をしていくものである。下記のテキストの事例を手がかりにして、自分自身の疑問・質問に答えながら自分なりに児童養護論を組み立てていくことを考えている。

児童養護論を選択履修する学生は自分の関心のある領域、内容をまとめ発表、報告し出席学生と意見交換を重ねて考察を深めていく。

選択した学生1人ひとりの意見交換が活発に展開されることを望む。集まった学生の興味・関心をもった記事や書物についてレポートを自主的に提出して切磋琢磨のきっかけが生み出される時間にしたい。

そこで、これまで、資料として配布された印刷物(ファイル)を分類し、また教科書の項目・テーマで再度関心があれば、その内容と関連するものを調べて報告・発表していただきたい。

前期に児童養護論を宮崎先生のもとで単位取得した学生も履修することができる。

内容

1. 記録について、客観と主観(1回)
2. 事例のまとめ方・事例の読み方(1回)
3. 養護問題の事例研究(3回)
4. 児童虐待の事例研究(3回)
5. 心身障害児の事例研究(3回)
6. 子育て支援・地域支援の事例研究(3回)
7. まとめ(1回)

評価

毎時間の発表、切り抜きのコメント、友の報告を聞いて考えた感想の提出物の内容が60%の評価となる。また、出席の評価が40%となる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】長谷川真人・神戸賢次・小川英彦編著『子どもの援助と子育て支援』児童福祉の事例研究

ミネルヴァ書房

科目名	児童養護論演習		
担当教員名	垂水 謙児		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1年、2年、3年の授業で紹介した、詩、小説、実践記録、3年後期での児童養護論で検討した内容やシラバスで紹介した文献と卒業研究のテーマと関連付けて調査し考えた内容を毎時間発表し3年の児童養護論よりさらに深化させ、出席学生との意見交換を毎回、小さなレポートとして積み上げて、一冊のファイルを作りあげていく。このファイルに閉じ込めていく作業を通して各自の卒業研究の枠組み作り、ヒントや視野の広がりを与えてくれることを願っている。

児童養護論を履修しないで、この児童養護論演習を履修する人は、1年、2年、3年の授業で配布した資料<プリント>と、紹介した、詩、小説、実践記録、を整理したファイルを持参して受講する。

内容

毎時間、提出された、レポートと学生が読んだ書物の感想を糸口に意見交換を取って進めていきたい。児童養護論演習の時間にそなえて、おおいに本を読もう(小説を読もう)。

下記の項目は、参考としての目安である。学生の関心のあるテーマで掘り下げていきたい。

個別援助(虐待・親子関係調整の援助)

集団援助(集団保育・劇活動)

余暇指導

日常生活の援助(幼児 中学生、高校生 障害者の性への援助)

学習・進学・自立への援助

治療保育(ダウン症・自閉症・統合保育)

評価

1. 毎時間の発表、切り抜きのコメント、友の報告を聞いて考えた感想の提出物が50%
2. 上記の内容のファイル：分類、整理を点検して20%
3. 出席が30%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

養護原理の教科書

養護内容の教科書

児童養護論の教科書

上記の授業で配布した資料、小説、詩。

必要に応じ、その都度紹介していく。

科目名	幼児運動論		
担当教員名	杉原 隆		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3,4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

近年、幼児のライフスタイルが急激に変化してきており、活発な身体活動を伴う運動遊びが減少している。その結果、子どもの体力・運動能力が著しく低下しただけでなく「こころ」の発達における歪みが大きな社会問題になってきた。この授業は、保育者として必要な幼児の体力・運動能力に関する理論と、体と心の発達に大きくかかわる運動遊びの指導に関する理論の講義である。主なねらいは以下のようである。1) 幼児の体力・運動能力の捉え方についての理解を深め、実習を通して運動能力検査法の実施法と結果の処理・解釈・利用のし方を身につける。2) 幼児の運動能力低下の現状やその背景について理解する。3) 遊びとは何か、運動遊びの発達についての理解を深める。4) 運動遊びの指導のあり方について考える。

内容

1. 幼児の体力・運動能力の考え方と捉え方

2. 幼児の運動能力の測定法

観察と測定 量的測定と質的測定

3. 幼児の運動能力検査の実習

4. 運動能力検査の結果の処理、解釈、利用

粗点と標準得点 平均値と標準偏差 集団の分布 個人的利用と集団的利用

5. 最近の幼児の運動能力の現状

幼児の運動能力の時代変化

6. 幼児の運動発達に影響する環境

園環境 家庭環境

7. 幼児期の運動遊びの発達

きまり、やくそく、協力と競争

8. 遊びとしての運動指導のあり方

評価

出席40点、レポート60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	幼児運動論演習		
担当教員名	杉原 隆		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼児の運動発達についてはこれまでにさまざまな研究がなされている。どのような目的で、どのような内容の研究が、どのような方法を用いて行われてきたかを、内外の専門書や研究論文を購読することによって理解を深め、最近の運動発達についての研究の動向を把握し、それらをもとに、卒業研究のテーマや研究法についての手がかりを掴むことが本授業のねらいである。

この演習は1年次の「子どもと運動」、2年次の「幼児運動論」を踏まえてその発展上に授業が展開されるので、それらの科目を修得していることが履修の条件となる。

内容

1. 幼児の運動発達に関する国内、外国(英文)の専門書を購読して幼児の運動発達や運動指導のあり方に関する知見を広げるとともに理解を深める。
2. 幼児の運動発達に関する研究論文、研究資料を購読して、近年の幼児の運動発達や運動指導のあり方に関する研究動向と研究方法に関する理解を深める。
3. 研究目的や研究計画の立て方、調査測定法など研究の進め方を学ぶ。
4. 以上のことを基礎にして卒業研究のテーマを探り、必要な場合は予備的な調査や測定を行う。

評価

出席40点、研究発表と討論の内容60点で評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	児童文化演習		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

「児童文化」をすでに履修しており、さらに深く児童文化に関心を寄せる学生を対象とした演習である。演習は、講義とは大きく異なり、学生各自が具体的な課題を見つけ、研究・調査して、発表・討議を行なっていく授業形態をとる。その為、人数は、20人を限度とする。

児童文化に問題関心のある学生が、相互に意見を交換しながら、共に学ぶ楽しさを体験してほしい。

内容

演習テーマを、今年度は「物語のメディア論」とする。物語は、時代によって、語り、絵解き、絵本、本、芝居、落語、漫画、映画、アニメなど、さまざまにメディアを変えながら伝承されている。はたして物語は、メディアの違いにより変容するのか、しないのか。そもそも物語とは何なのか？

物語に強い興味を抱く学生が参加して、「物語のメディア」の中から、各自が具体的な研究課題を選び出し、調査・考察を行ない、研究レポートを作成していく。

評価

調査研究、発表、討議、レポートなどによる総合評価。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【推薦書】 『知の編集工学』 松岡正剛 朝日新聞社
『物語とふしぎ』 河合隼雄 岩波書店
『物語を生きる』 河合隼雄 小学館

科目名	児童音楽文化論演習		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3,4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

授業の狙いは2つある。

<その1>

「児童音楽文化概論」で学んだ中から興味を持った研究テーマを選び、さらに掘り下げて研究・発表をする。テーマについては相談を受けながら、書籍、論文、参考図書など随時提示する。

<その2>

保育現場で日々の保育に役立つ「紙芝居」「パネルシアター」「おはなし」「指人形」その他いろいろな活動の中から、“音楽を効果的に入れての実演”を行っていく。簡易楽器、エレピアン、CDなどふさわしい楽器を選んで、豊かな文化財を子どもたちに提供する学びを進める。

内容

授業前半

約7回の授業で、各自興味を持ったテーマで研究を進め、まとめて発表をする。

発表・質疑応答でひとり30分を目安に進める。テーマは身近な題材から大きなものまで色々である。

今までのテーマを挙げてみると「むすんでひらいて」「大きな古時計」「ドナドナ」などの歌そのものの歴史などの調査、「セサミストリート」「夕方クインテット」「お母さんといっしょ」などの番組調査、「守り子うた」「伝承遊戯」など歴史に関する研究などである。

後半は保育現場で行う題材を選び、どのように音楽効果を盛りこんで仕上げるかを考えていく。

テレビやビデオなどの人形劇を見てどのように音楽をいれ、どのような楽器が入っているかなどを見、自分で使えるあらゆる音で挑戦してみる。

評価

授業に対する取り組み、熱意などで評価する。

特にレポートやテストは行わない。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考図書】

イソップ物語。グリム童話。日本むかしばなし。世界のお話。